

研究報告書第64号

## 生徒指導に関する研究

# 児童生徒が自己指導能力を高める 学校支援体制の在り方

平成18・19年度

茨城県教育研修センター

# 目 次

1	研究の趣旨	1
2	研究主題	1
3	研究を行う校種	1
4	研究期間	1
5	研究方法及び研究経過	1
6	研究の内容	2
	【研究1】 「話す・聞く」のお互いを伝え合う活動を通して自己指導能力の育成を図る 国語科指導の在り方	2 6
	【研究2】 互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めるための学級活動における 指導の在り方	3 7
	【研究3】 思いやりの気持ちをもち、互いに認め励まし合う児童の育成を目指す 体育科指導の在り方	4 8
	【研究4】 生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方 ～職場体験学習に向けての様々な活動や取組を通して～	6 0
	【研究5】 生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方 ～技術・家庭科（技術分野）の授業を通して～	7 1
	【研究6】 自己指導能力を高める学校行事の在り方 ～学年創作劇の制作を通して～	8 2
	【研究7】 学校行事への取組を通じた支援体制の在り方	9 5
	【研究8】 商業科目「商品と流通」の授業を通して自己指導能力の育成を図る 指導法の工夫改善	1 0 3
7	研究のまとめ	1 1 3
8	今後の課題	1 1 4

## 「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」

### 1 研究の趣旨

ここ数年、いじめや暴力行為、そして青少年非行・犯罪の突発性・凶悪化など、生徒指導を取り巻く状況は深刻なものとなっている。これに対して法律や制度の厳罰化の動きが出てきている。罰則等により、問題行動を規正しようとするものである。しかしながら、基本的な生活習慣の未習得、社会性の欠如、依存的な姿勢、自尊心の低下傾向に目を背けていては根本的な予防・解決につながらないとも考える。そこで本研究では、積極的な生徒指導の基本に立ち返り、児童生徒が将来にわたって集団や社会の一員としての自覚と責任がもてるように、自己指導能力を高める学校支援体制の在り方を究明する。

### 2 研究主題

児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方

### 3 研究を行う校種

小学校，中学校，高等学校

### 4 研究期間

平成18年4月～平成20年3月(2年間)

### 5 研究方法及び研究経過

各校種(小学校3校，中学校3校，高等学校2校)ごとに研究協力員を委嘱し，理論研究及び児童生徒の意識・実態調査と，自己指導能力育成のための実践研究を行う。研究に際しては，東京農業大学の渡部邦雄教授に指導助言をいただく。

#### (1) 理論研究

我が国の青少年問題の現状

問題発生対応による生徒指導と積極的な生徒指導

「自己指導能力」の概念規定と学校支援体制の在り方について

#### (2) 県内児童生徒の自己指導能力についての意識・実態調査と結果の分析

小学校児童 (第2学年，第4学年，第6学年)

中学校生徒 (第2学年)

高等学校生徒(第2学年)

#### (3) 実践研究

自己指導能力育成の視点から発達段階等を踏まえ，生徒指導の3機能を重点化して教育実践を試みる。

特定の教科・領域に偏らずに，児童生徒の実態や研究協力員の特性などを幅広く生かして実践研究を行う。ただし，教科指導以外に，キャリア教育や特別活動での実践研究も含めることとする。キャリア教育は自分の特性を知り夢や希望を抱いて自分の進路を決定していくものである。また，特別活動は，児童生徒相互が助け合い協力し合いながら一つの目標を達成していくことで体験的に人間関係を深めるこ

とや仲間から認められることを学ぶ機会が多い。二つとも自己指導能力育成に深いかわりをもっていると考えられるからである。

ア 教科〔国語，体育，技術・家庭（技術分野），商業〕

イ 各種教育〔総合的な学習の時間等〕

ウ 特別活動〔学校行事，学級活動〕

#### (4) 実践結果のまとめと考察

それぞれの校種，学年による実践結果から考察を行い，今後の研究に生かす事柄等を提示する。

## 6 研究の内容

### (1) 研究主題に関する基本的な考え方

#### 研究の背景

#### ア 我が国の青少年問題の現状

内閣府発表「青少年の現状と施策（2007年 青少年白書）」によれば，15～34歳までのフリーターは187万人，同年代の「ニート」に近い概念である若年無業者は62万人いる。勤勉を旨としていた昭和30年代ぐらいまでの国民性が揺らぎ，経済的にも国際競争力の分野でも，日本の将来が危ぶまれる。

児童生徒の変化は，経験豊かな教師からも語られるようになった。平成19年5月に，本研究の研究協力員8人と教育相談課指導主事6人で最近の児童生徒の実情と課題について協議した。毎日の学校生活の中で，以下のような実態があるとの話が出た。

- ・ がまんをすることができない児童生徒が増えている。
- ・ 自分中心・自分勝手な児童生徒が増えてきている。
- ・ 自分が迷惑をかけていることに気付いていない児童生徒もいる。
- ・ 感情のコントロールが苦手な児童生徒が増えている。
- ・ 「どうせ自分のことを分かってくれない」と感じている。じっくり話を聞いてもらうことでようやく安心する。頭ごなしではなく，ていねいに大人がかかわっていかないと納得しない。
- ・ 生活面で注意をすると「自分ばかりしかられる」と感じる児童生徒や自我が弱く，自己を見つめ，内省することが苦手な児童生徒が増えた。
- ・ 10年前，20年前に比べてたしかに異質な感じはする。しかし，がまん強い児童生徒や思いやりのある児童生徒もたくさんいる。
- ・ 自分勝手な傾向はあるが，自分の価値観に合致したときには，人のために進んで働くことができる児童生徒もいる。

東京農業大学の渡部邦雄氏は，上記の内容を次の点で端的に示している。

- ・ 集団や社会の一員としての自覚不足
- ・ 内面的幼児性の肥大化や自己中心性の一般化と内在化
- ・ 多面的コミュニケーション能力の低下と不満耐性の無さ
- ・ 規範意識の低下，「私」の肥大化と「公」の衰退

これらの状況は、日本の労働力のみならず、犯罪や非行にも少なからぬ影を落としている。2006年の刑法犯少年11万2817人(成人と比較して人口で5.7倍)のうち、凶悪犯(殺人・強盗・強姦等)は1170人、粗暴犯が9817人であった。また、平成18年度に警察が補導した不良行為少年(飲酒・喫煙・深夜徘徊・家出等)は142万7928人であった。

また、文部科学省が把握している平成18年度のいじめ認知件数は小・中・高等学校及び特別支援学校で合わせて12万4898件であった。そのうち、警察が扱ったいじめに起因する事件は233件で、460人が検挙・補導されている。

#### イ 問題発生対応による生徒指導と積極的な生徒指導

これら青少年の犯罪・非行に対して社会の目が厳しくなっている。その一つが「少年法」の2001年4月と2007年11月の改正の動きである。これまで保護処分を通じて立ち直らせる機会を与えていた少年犯罪に対して、重大事件の場合には14歳以上から刑務所に入る可能性も出てきた。家庭裁判所が認めれば、小学5年生でも少年院に入れられることもあり得るようになった。

また、文部科学省にも「毅然たる指導」の導入の動きがでてきている。2006年5月22日に国立教育政策研究所生徒指導研究センターから「生徒指導体制の在り方についての調査研究報告書」が出された。副題に「規範意識の醸成を目指して」とあるように、報告書の主旨としては、「まず対応の基準(「生活のきまり」や「罰則規定」など)を生徒や保護者に明確にした。その後、問題行動や非行等に対して『いけないことはいけない』と毅然とした粘り強い指導を行う。出席停止制度等もしっかり行使する。」というものである。

これは、「段階的指導」を念頭に置いての対応でもある。ニューヨーク市が小さな落書きや割れ窓をすぐに修復したことで市民の心の安定を図ったように、小さな問題を見逃さず地道に粘り強く行う生徒指導という立場である。実際に、校内暴力で荒れた中学校が、このような指導を通して立ち直ったという事例も出てきている。

これら厳罰化の流れの裏には規範意識や責任感の薄れに対する危ぐと同時に、それを他罰的に規制することで食い止めたいとする心理が存在する。確かに、問題行動が大きくならないうちに、小さなことを見逃さず厳しく対応していく生徒指導が、一定の成果を上げている事例も見られる。

しかし、これについては、いくつかの限界も見え隠れしている。最近では児童生徒本人だけでなく、社会や家庭など複数の要因が複雑に絡み合った生徒指導上の問題も少なくない。一つの問題に対処しているうちに、別の問題が出てくるという状況に追われる危険性をもち合わせている。課題を抱える児童生徒に対応している中で、基本的な生活習慣の形成不全、人間関係を円滑にしていく力の弱さ、など気付かされる事例も増えてきているのではないだろうか。

また、最近の児童生徒の「自尊心」の低さも気にかかることである。茨城県教育研修センターが2006年11月に、小・中学校及び高等学校の児童生徒1697人を対象に行った調査の中に「自分が好きですか」の質問項目がある。結果は、「いいえ」の回答が小学校高学年では42.2%(うちまったく好きでない38.2%)、中学生では60.3%(うちまったく好きでない21.0%)、高校生では53.7%(うちまったく好きでない36.3%)であった。

自尊心が低い状態の場合、人間は、弱い自己を守るために様々な心理的防衛機制を働

かせることが分かっている。たとえば、「苦手な場면을逃避することで、傷つきそうな自己を回避する」「嘘をついて自分を守ろうとする」「批判されると感情むき出しにして怒ったり泣いたりする」「独占欲が強く、物で心のすき間を埋めようとする」などである。また、暴力行為や目立った非行などにより、その場での力関係で優位に立つことで（相手を従えることで）、低い自尊心をなんとか引き上げようとする行為が行われる場合もある。これらの児童生徒に対しては強い叱責が逆効果になることも予測されるであろう。

これらのことを踏まえ、本研究では、改めて生徒指導の原点を振り返ることにした。

文部省が平成11年9月に発行した「中学校学習指導要領解説 - 総則編」では、「生徒指導」について以下のような記述が見られる。（下線は教育相談課による）

第3章 教育課程の編成及び実施 第7節 教育課程実施上の配慮事項  
3 生徒指導の充実

生徒指導は、学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。すなわち、生徒指導は、すべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものであり、単なる生徒の問題行動への対応という消極的な面にだけにとどまるものではない。

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深くかかわっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動の全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。

同様の内容は小学校や高等学校の学習指導要領解説にも見られる。このことから、生徒指導は、個性の伸長を図りながら社会的資質・行動力を高めるように指導、援助していくものであること、そして「自己指導能力」の育成を目指すものであることが分かる。消極的な面にとどまらず、教育活動全体を通じて「積極的な意義を踏まえて」行うのが生徒指導の本筋であるということである。

そこには、児童生徒一人一人がなにものにも代え難いものであり、潜在的に可能性を有する主体的な存在であるとの人間観がある。「生徒指導」は「機能」概念である。「領域」ではない。

そして積極的な生徒指導の「機能」を生かすとは、

- ・ 「自己存在感」を与える（自己有用感，自己肯定感）
- ・ 「共感的な人間関係」を育成する（連帯感，仲間意識）
- ・ 「自己決定の場」を与える（行為と責任）

の三つの視点をもつことであると考える。

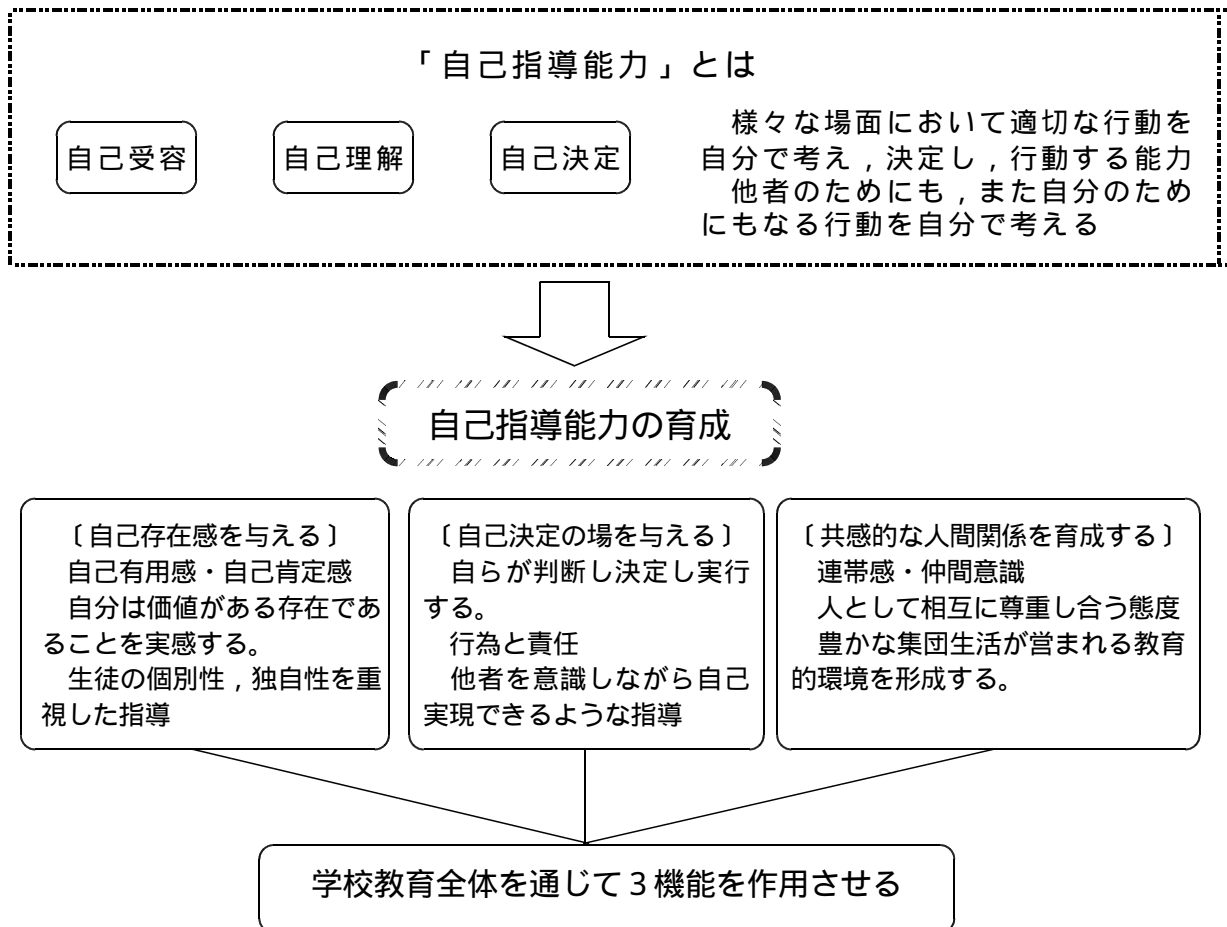
現代社会は、地域コミュニティの崩壊や核家族化が進みつつある。人間関係が薄くなり、集団生活や集団活動体験不足から規範意識が大人社会でも低下し、集団や社会の一員としての責任感が薄れる傾向にある。その中で育つ児童生徒の行為のみを責めるだけでは、社会の形成者としての自覚と責任は育たない。そこで本研究は、問題行動への対処療法でなく、すべての児童生徒の全人的発達を援助する積極的な生徒指導の立場に立って進めるものとする。

ウ 「自己指導能力」の概念規定と学校支援体制の在り方について

「自己指導能力」の概念については、以下のように規定する。

- ・ 自己をありのままに認めること（自己受容）
- ・ 自己に対する洞察を深めること（自己理解）
- ・ これらを基盤に自らの追求しつつある目標を確立し、明確化していくこと。そしてこの目標の達成のため、自発的・自律的に自らの行動を決断し実行すること。さらに児童生徒が、ダイナミックな日常生活のそれぞれの場でどのような選択が適切であるか、自分で判断して実行し、またそれらについて責任をとること（自己決定）

その規定に沿って、生徒指導の3機能との関連を示すと、以下ようになる。



自己指導能力の育成には、児童生徒の発達段階や学校の地域的特性等に応じたきめ細かい組織的指導・支援体制が必要となる。そのためには、校内において六つの共通理解の視点と、生徒指導にかかる計画・組織づくり・運営が必要となると考える。

六つの共通理解の視点とは、

集団活動・集団生活の場や機会を多く設定する。  
多様な人間関係を経験させる。  
体験活動を可能な限り取り入れる。  
自発的・自治的活動の場や機会を増やす。  
生き方指導や進路指導に関係する学習機会を設ける。  
集団生活への適応や人間関係の確立、進路などの主体的選択など、ガイダンス機能の充実を図る。

である。職員研修や学年会議・プロジェクトチーム会議などで、この六つについて、まず、共通理解を得ていく必要がある。

そして、支援体制の運営に当たっては、

目標を明確にする。  
管理職、生徒指導主事、学年主任、養護教諭、学級担任等の立場や職員一人一人の持ち味・考え方を考慮した体制を作る。  
必要であれば、保護者や地域、関係機関との連携も体制の中に組み入れる。  
目標達成を目指した具体的で継続的な指導を行う。  
P D C A サイクルで進める。

に留意して行う。リーダーが指示を出して分担を割り振るというより、教職員一人一人が六つの共通理解の視点に立って、「このケースでは自分としては何ができるか。何をしたいか。」を積極的に考え動いていくことが大切だと考える。

「目標の明確化」については、細かな目標については発達段階や児童の実態に応じて変化してくると思われる。しかし、大きな目標として、全教職員が、どのような学校づくりをしていくのかということについて理解しておくことが前提となる。

たとえば、自己指導能力の育成を大切にする学校づくりとしては、

学校を児童生徒の主体的な学びの場にする。  
児童生徒の興味・関心を尊重しながら主体的な取組を多く保障し、適切な評価を行うことで児童生徒の意欲ややる気を高める。そして、その結果高まった満足感や充実感により、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力を育てる。  
毎日の学校生活に充実感がもてるようにする。  
児童生徒に自己存在感を感じさせ、仲間意識を高め、心の居場所を与える。  
学校を児童生徒の人格形成の場にする。  
生活体験、社会体験などの体験活動や集団活動の場や機会を増やすことで人間関係形成力や感性を高め、豊かな心を培う。



などがあげられる。

以上、教職員相互の人間関係を深めながら、児童生徒の実態に応じて機能的に対応していきける学校支援体制を目指し、自己指導能力の育成の実践研究に当たっていきたい。そのためにも意識・実態調査を行い、児童生徒の実際の姿を見つめる必要がある。

(2) 自己指導能力についての意識・実態調査の実施

「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」について究明するために児童生徒の自己指導能力についての意識・実態調査を実施した。

調査期間 平成18年11月8日(水)から11月24日(金)まで

調査対象・小学校児童 694人(第2学年 217人,第4学年 252人,第6学年 225人)

・中学校生徒 377人(第2学年)

・高等学校生徒 588人(第2学年)

(3) 校種別の意識・実態調査の内容

小学校低学年(第2学年)の調査

ア 質問内容

生徒指導に関するアンケート(小学校・低学年)		茨城県教育研修センター			
このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよくするためのものです。名前も書きませんので、あなたの思ったことを、そのまま答えてください。					
(答えかた) あてはまるものを一つだけえらんで、そのきごうに をつけてください。あてはまるものがないときはあまり考えこまず、1ばん近いものに をつけてください。					
	よく	すこし	あまり	まったく	
	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない	
1	あなたは、自分からすすんでべんきょうをしていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
2	あなたは、じゅぎょう中、一人でしらべたり、考えたりしていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
3	あなたは、自分の考えをみんなの前で、はっぴょうしていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
4	あなたは、友だちのはっぴょうをよくきいていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
5	あなたは、友だちの答えがまちがっていても、いじわるなことを言ったりしないで、さいごまできいていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
6	あなたは、みんなと学習するのは、楽しいですか。.....	ア	イ	ウ	エ
7	あなたは、友だちときょう力して学習していますか。.....	ア	イ	ウ	エ
8	先生や友だちは、あなたのがんばりをわかってくれますか。.....	ア	イ	ウ	エ
9	あなたは、こまっているときに助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。.....	ア	イ	ウ	エ
10	あなたは、自分のしごとをさいごまできちんとおこなっていますか。.....	ア	イ	ウ	エ
11	学校は、楽しいですか。.....	ア	イ	ウ	エ
12	あなたは、自分のことが好きですか。.....	ア	イ	ウ	エ

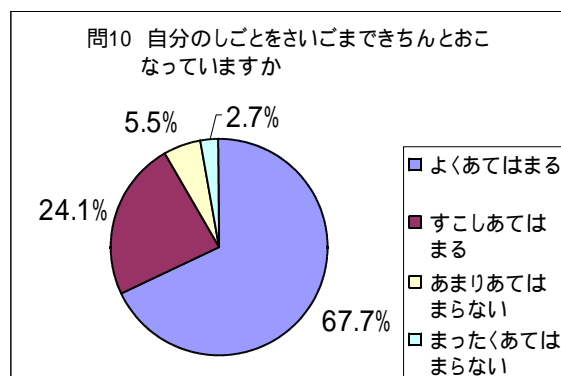
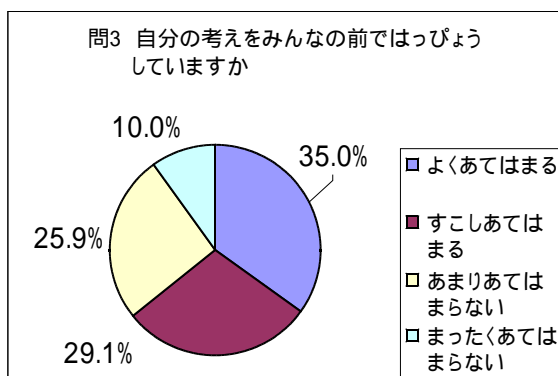
13	あなたは、自分のよいところがわかり ますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ
14	あなたは、自分のわるいところがわかり ますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ
15	あなたは、自分のよいところをもっとの ばそうとしていますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ
16	あなたは、自分のゆめがかなうように がんばっていますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ
17	あなたは、あいさつ（おはようございま す、さようならなど）をしていますか。 . .	ア	イ	ウ	エ
18	あなたは、生活のやくそくをまもるよう にしていますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ
19	あなたは、大切にしていること（もの） がありますか。 . . . . .	ア	イ	ウ	エ

イ 分析

自己中心的な考え方や行動をしがちである低学年では、身近な人や自然とのかかわりの中で、自分ができることに喜びを感じるとともに、自分との違いや新しいことに気付くことが大切である。そのためには、あいさつ、お手伝い、片付けなどの基本的な生活習慣や遊んだり助け合ったりすることの社会性などを身に付ける必要がある。

自己決定に関する項目では、問3「自分の考えをみんなの前ではっぴょうしていますか。」で「よくあてはまる」35.0%、「すこしあてはまる」29.1%、「あまりあてはまらない」25.9%、「まったくあてはまらない」10.0%という結果になった。このことから、「自分の考えを進んで発表している方だ」ととらえている児童が約65%であることが分かる。低学年では発表の機会が多いと思われるが、指名されて答えていたり順番に答えているという意識が強いためか意外な結果となっている。低学年では、自分の考えをみんなの前で話すことが重要であることから、意図的に発表場面を取り入れる必要がある。

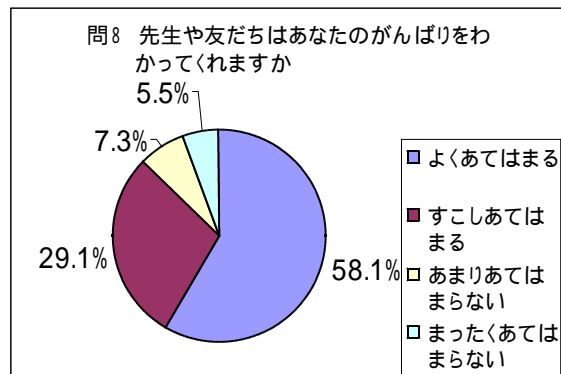
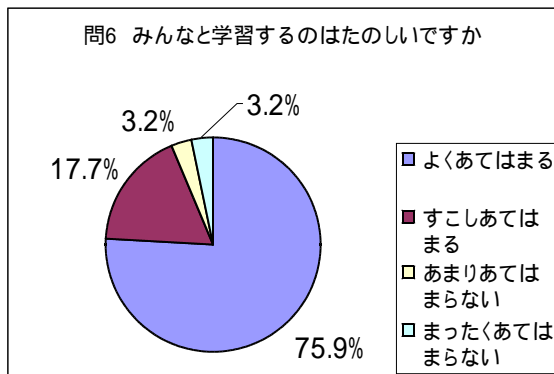
問10「自分のしごとをさいごまできちんとおこなっていますか」では、「よくあてはまる」「少しあてはまる」あわせて91.8%の児童が、肯定的な回答をしていることから、役割遂行の意識が高く自分の役割に前向きに取り組もうとしている様子が見えてくる。



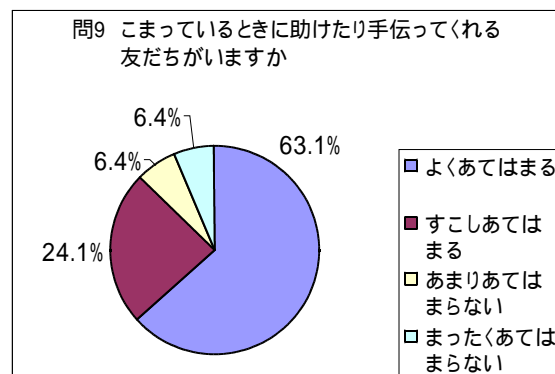
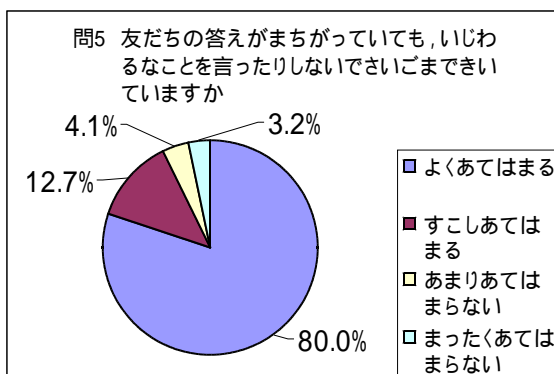
自分が学校あるいは学級の一員として認められているかを感じているかを問う自己存在感に関する質問では、問6「みんなと学習するのは楽しいですか。」では、「よく

「あてはまる」が75.9%、「すこしあてはまる」17.7%と肯定的な回答が、高い数値を示している。学習内容がわかり、充実感や達成感を得られているか、また、授業が自分の良さを発揮できる場であり、それを認めてくれる先生や友達がいるかなどが重要な要素である。今回の結果では、肯定的な回答が高い数値を示しているが、低学年段階で6.4%の児童が楽しくないと否定的な回答をしていることにも注目し、教師は、よい人間関係の中で、どの子どもにも自分が認められる場があり、楽しく学習に取り組んでいると児童自身が感じられるような授業展開を考えていく必要がある。

次に注目したい点は、問8「先生や友だちは、あなたのがんばりをわかってくれますか。」の回答である。「よくあてはまる」58.1%と認められていると感じている割合が比較的小さい結果が出た。自分のがんばっているが分かってもらえていないと感じているようである。低学年では、教師から賞賛を受ける場面は多いと思われるが、児童自身の感じ方と隔たりがあると思われる。発達段階として自己中心的に考える時期であることから、この時期の児童には、もっと認められたいという気持ちが強いことが分かる。

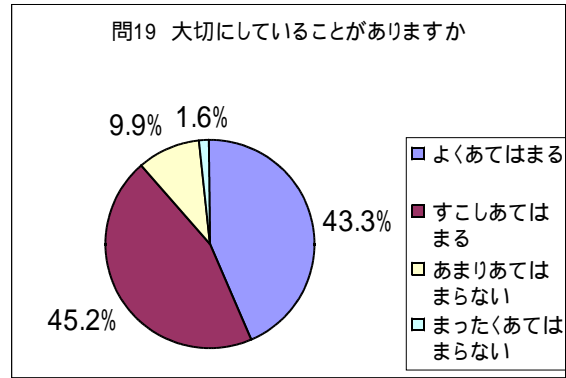
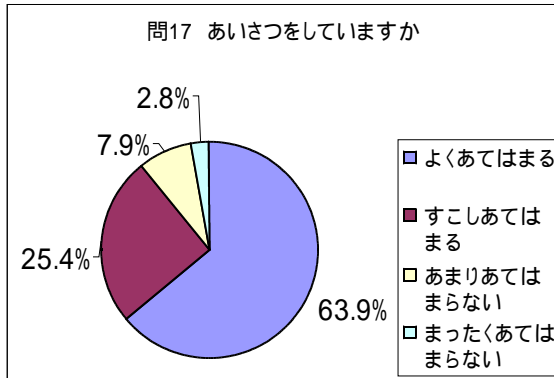


共感的な人間関係に関する項目では、問5「友だちの答えがまちがっていても、いじわるなことを言ったりしないで、さいごまできいていますか。」では、「よくあてはまる」が80.0%、「すこしあてはまる」が12.7%と肯定的な回答が高い数値を示している。一方、問9「こまっているときに助けたり、手伝ってくれる友だちがいますか」では、「よくあてはまる」63.1%「すこしあてはまる」24.1%「あまりあてはまらない」6.4%「まったくあてはまらない」6.4%という結果になっている。小学校低学年では、発達段階から自己中心的な考えが多く見られる時期であり、自分自身の評価が高くなりがちではある。



しかし、助けてくれたり手伝ってくれる友達が自分の周りにはいないと感じている児童が低学年段階で10%を越すという現実には、深刻に受け止めなければならない。

自分自身に関する項目では，問17「あいさつをしていますか。」，問19「大切にしていること（もの）がありますか。」では，85%以上の児童が「あてはまる」と肯定的に回答している。また，85%以上の児童が「自分自身が好きである」，「生活の約束を守るようにしている」等の肯定的な自己像をもっている。反面，低学年の段階で「自分のよさが分からない」，「自分が好きではない」，「生活の決まりを守ろうとしていない」などの自己像をもっている児童も約10%いることが分かった。



最近の児童生徒に関する調査の報告によると，学年が上がるに従って自分が好きでなくなる児童が増えているという結果を目にすることが多くあるが，低学年のうちから自分を肯定的には見られない傾向があるという実態が明らかになった。

課題として，以下の3点を挙げることができる。

- ・ 自分の考えをみんなの前で話すこと
- ・ 自分の頑張りを分かってもらえていると実感できること
- ・ 自分が好きになる体験や自分の良さを実感できること

### 小学校中学年（第4学年）の調査

#### ア 質問内容

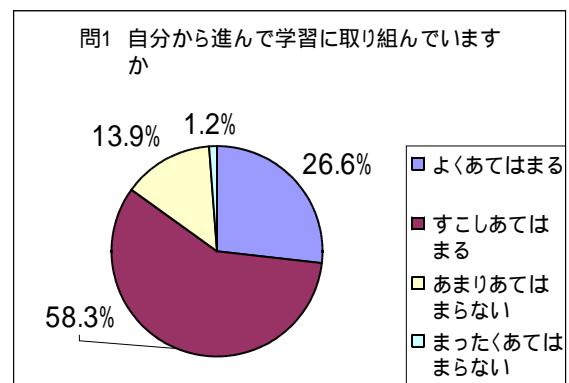
生徒指導に関するアンケート（小学校・中学年）		茨城県教育研修センター			
このアンケートは，みなさんの学校生活をよりよくするためのものです。名前も書きませんので，あなたの思ったことを，そのまま答えてください。					
（答えかた） あてはまるものを一つだけえらんで，そのきごうに をつけてください。あてはまるものがないときはあまり考えこまず，1ばん近いものに をつけてください。					
	よくあてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
1 あなたは，自分から進んで学習に取り組んでいますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ	
2 あなたは，じゅぎょう中，一人で調べたり，考えたりしていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ	
3 あなたは，自分の考えをみんなの前で，発表していますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ	
4 あなたは，学習の仕方を自分で見つけたり，選んだりしていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ	
5 あなたは，友だちが発表をしているとき，うなずいたりしながら話をよく聞いていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ	
6 あなたは，友だちの答えがまちがって					

ても、いじわるなことを言ったりしないで さいごまで聞いていますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
7 あなたは、みんなと学習するのは、楽し いですか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
8 あなたは、友だちと協力して学習してい ますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
9 先生や友だちは、あなたのがんばりをわ かってくれますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
10 あなたは、困っているときに助けたり手 伝ってくれる友だちがいますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
11 あなたは、自分の仕事を責任をもってさ いごまでやりとげていますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
12 学校は、楽しいですか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
13 あなたは、自分のことが好きですか。．．．ア	イ	ウ	エ
14 あなたは、自分のよいところがわかりま すか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
15 あなたは、自分の悪いところがわかりま すか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
16 あなたは、自分のよいところをもっと伸 ばそうとしていますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
17 あなたは、自分の夢がかなうようになん ばっていますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
18 あなたは、あいさつ（おはようございま す、さようならなど）をしていますか。．．．ア	イ	ウ	エ
19 あなたは、生活のやくそくを守るように していますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ
20 あなたは、大切にしていること（もの） がありますか。．．．．．ア	イ	ウ	エ

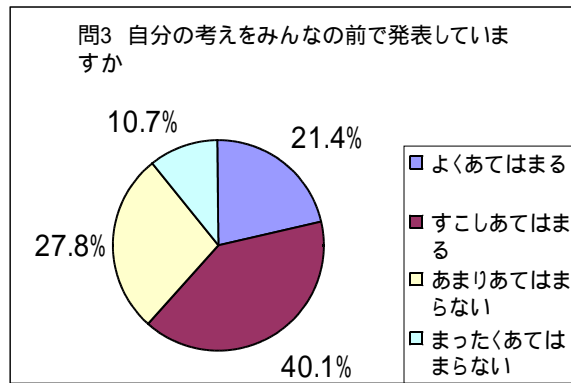
## イ 分析

活動の範囲や人との交流が広がる時期である中学年では、相手を理解すると同時に相手に分かるように自分を表現したり、友達と協力したり、自分がやりたいと思うことやよいと思うことに進んで取り組むことが大切である。そのためには、相手の良さを認め励まし合う協調性や見通しをもって行う計画性を育てることが必要である。学

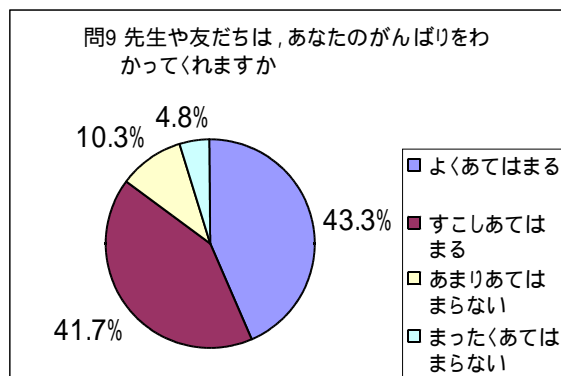
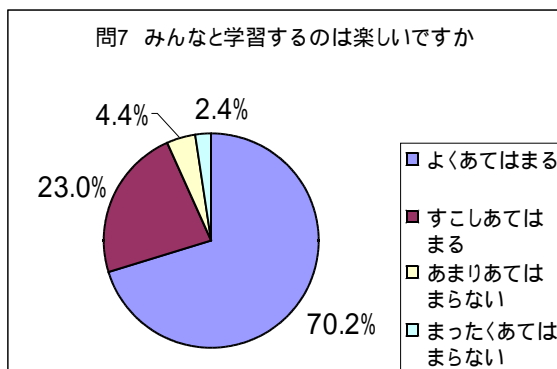
習内容が難しくなり児童の理解度に関きが見られるようになる時期である。この頃から、学習内容についていけず意欲が失われる児童も多く見られる。問1「自分から進んで学習に取り組んでいますか。」では84.9%が「あてはまる」と肯定的に回答しており、「まったくあてはまらない」と回答した児童は1.2%である。その背景には、教師が学習内



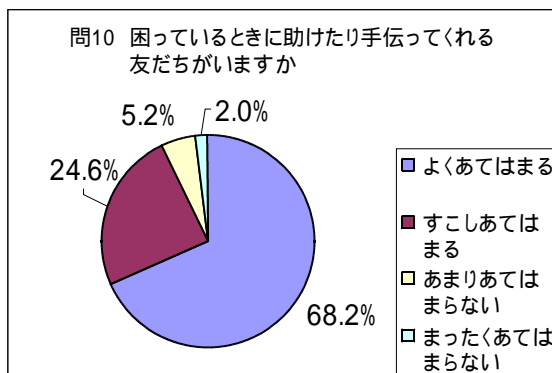
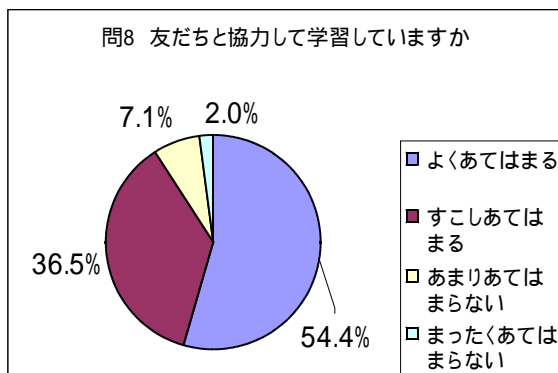
容を工夫し，学習到達度に合わせたプリントを用意したりするなど，個別の対応を充実させていることが考えられる。また，「自分の意見や気持ちを分かりやすく表現すること」に関する質問として，問3「自分の考えをみんなの前で，発表していますか。」では，38.5%が「あてはまらない」と否定的に回答している。言葉にして伝えることの大切さを理解し，できるだけ分かりやすく伝える技術の習得は，自己指導能力を育てる上で大切である。



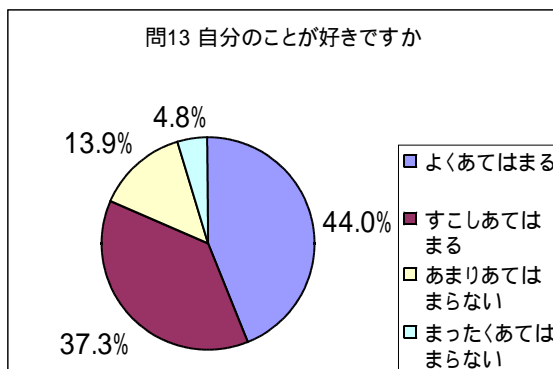
自己存在感に関する項目では，問7「みんなと学習するのは，楽しいですか。」で「よくあてはまる」70.2%，「すこしあてはまる」23.0%あわせて93.2%と肯定的な回答が高い割合になっている。児童は他者とのかかわりの中で生活しているため，他者とかかわることを楽しいと感じることは，大切なことである。他者とかかわる中から，自分が認められる経験を多く積むことで，自己存在感を味わえることから，肯定的な回答が多かった背景は，教育課程全般における活動の中で人にかかわることが楽しいと感じる体験を多くしているためと考える。一方，問9「先生や友だちはあなたのがんばりをわかってくれますか。」では，「よくあてはまる」43.3%と自己存在感に関する質問の中で低い結果が出ている。この結果は，低学年にも現れており，児童と教師の認知のずれを感じる。教師の評価的なフィードバックが有効に機能していないと考えられる。児童自身が，「自分の頑張りを十分に認められている」と感じられるように，教師の言葉による評価の場を増やすことが必要であると考えられる。



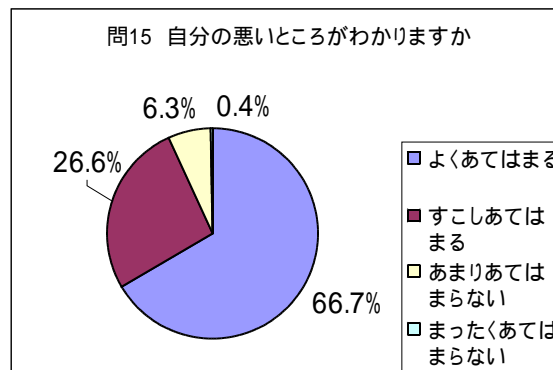
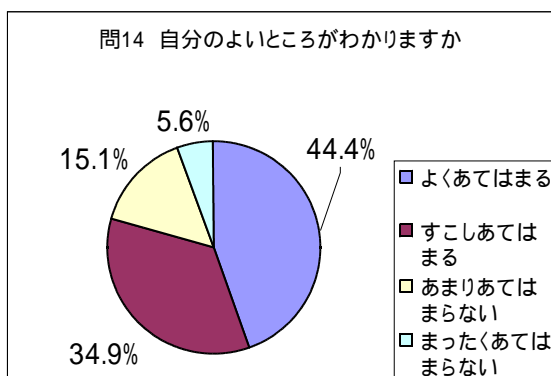
共感的な人間関係に関する項目では，問8「友だちと協力して学習していますか。」で「よくあてはまる」54.4%，「すこしあてはまる」36.5%と高い数値を示したことから，自己を取り巻く様々な人とのかかわりの大切さを理解してきていると考える。低学年の結果と比べると，ほとんどの項目で「よくあてはまる」と回答した児童の割合が減っている。問10「困っているときに，助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。」においては，中学年の方が上回っている。自己中心的な行動が多く見られる低学年に比べて，活動範囲も増え，友達の良さを認めたり相手の気持ちを理解しようとする心の成長が感じられる。



自分自身に関する項目では、低学年と同様、肯定的な自己像をもっている児童が多いと考える。しかし、約20%の児童が「自分を好きではない」と答えており（問13）、自分自身を肯定的に受け入れられない児童が低学年から徐々に増えていることが分かる。問14「自分のよいところがわかりますか。」では「よくあてはまる」が44.4%

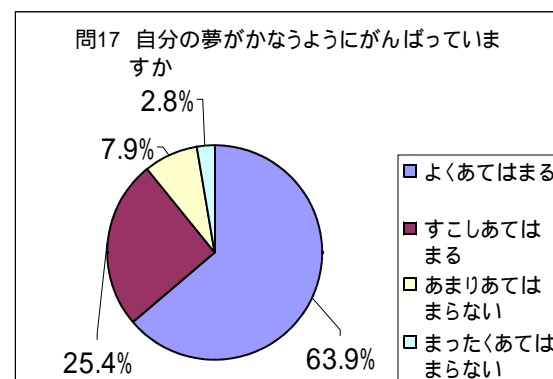


となり、問15「自分の悪いところがわかりますか。」では「よくあてはまる」66.7%となっている。自分の長所より短所の方が見つけやすいという傾向はあるが、小学校中学年段階では、自分に自信をもって生き生きと生活する姿が望まれる。問17「自分の夢がかなうようがんばっていますか。」では、89.3%の児童が「あてはまる」と回答している。同じ質問を高学年で行ったところ「よくあてはまる」の回答率が、15.9%減になった。中学年で抱えている気持ちをどのように育てていくか今後の課題と思われる。



以上の分析の結果、児童の課題として、以下の4点を挙げるができる。

- ・ 学習の仕方を自分で選ぶこと
- ・ 自分の考えをみんなの前で発表すること
- ・ 自分の頑張りを分かってもらっていると実感すること
- ・ 自分が好きになる体験や自分の良さを実感すること



小学校高学年（第6学年）の調査

ア 質問内容

生徒指導に関するアンケート（小学校・高学年）

茨城県教育研修センター

このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよくするためのものです。名前も書きませんので、あなたの思ったことを、そのまま答えてください。

（答えかた） あてはまるものを一つだけえらんで、そのきごうに をつけてください。あてはまるものがないときはあまり考えこまず、1ばん近いものに をつけてください。

よく すこし あまり まったく  
あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

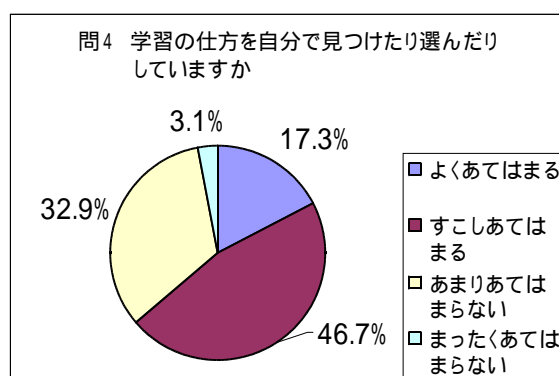
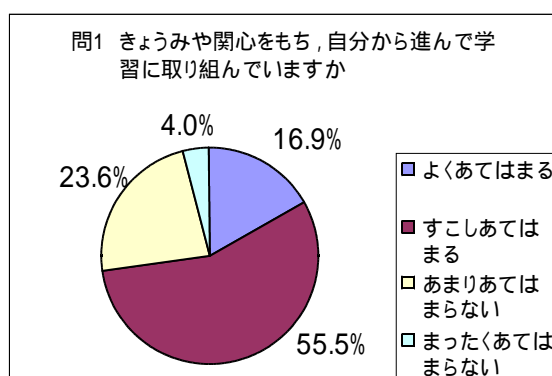
- |    |  |   |   |   |   |
|----|--|---|---|---|---|
| 1  | あなたは、きょうみや関心をもち、自分から進んで学習に取り組んでいますか。・・・              | ア | イ | ウ | エ |
| 2  | あなたは、授業中、一人で調べたり、考えたりしていますか。・・・                      | ア | イ | ウ | エ |
| 3  | あなたは、自分の考えをみんなの前で、発表していますか。・・・                       | ア | イ | ウ | エ |
| 4  | あなたは、学習の仕方を自分で見つけたり、選んだりしていますか。・・・                   | ア | イ | ウ | エ |
| 5  | あなたは、友だちが発表をしているとき、うなずいたりしながら話をよく聞いていますか。・・・         | ア | イ | ウ | エ |
| 6  | あなたは、友だちの答えがまちがっていても、いじわるなことを言ったりしないで最後まで聞いていますか。・・・ | ア | イ | ウ | エ |
| 7  | あなたは、みんなと学習するのは、楽しいですか。・・・                           | ア | イ | ウ | エ |
| 8  | あなたは、友だちと協力して学習していますか。・・・                            | ア | イ | ウ | エ |
| 9  | 先生や友だちは、あなたのがんばりをわかってくれますか。・・・                       | ア | イ | ウ | エ |
| 10 | あなたは、困っているときに助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。・・・                 | ア | イ | ウ | エ |
| 11 | あなたは、自分の仕事を責任をもって最後までやりとげていますか。・・・                   | ア | イ | ウ | エ |
| 12 | 学校は、楽しいですか。・・・                                       | ア | イ | ウ | エ |
| 13 | あなたは、自分のことが好きですか。・・・                                 | ア | イ | ウ | エ |
| 14 | あなたは、自分のよいところがわかりますか。・・・                             | ア | イ | ウ | エ |
| 15 | あなたは、自分の悪いところがわかりますか。・・・                             | ア | イ | ウ | エ |
| 16 | あなたは、自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。・・・                     | ア | イ | ウ | エ |
| 17 | あなたは、自分の夢がかなうようがんばっていますか。・・・                         | ア | イ | ウ | エ |
| 18 | あなたは、あいさつ（おはようございます、さようならなど）をしていますか。・・・              | ア | イ | ウ | エ |
| 19 | あなたは、生活の約束を守るようしていますか。・・・                            | ア | イ | ウ | エ |
| 20 | あなたは、大切にしていること（もの）がありますか。・・・                         | ア | イ | ウ | エ |



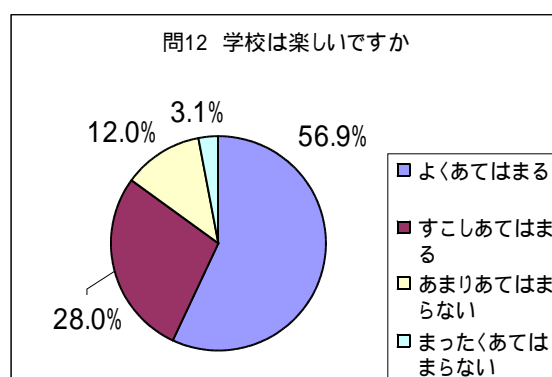
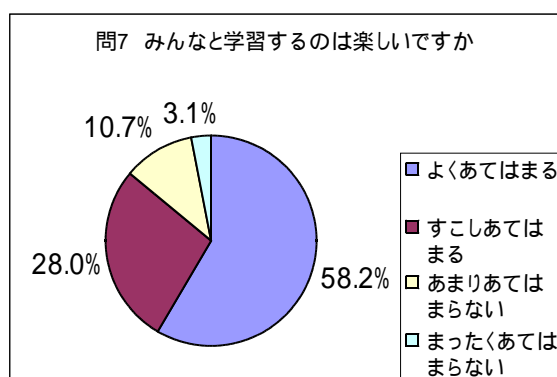
## イ 分析

自我の目覚めや社会生活のしくみなどを意識し始める高学年では，自分と異なる意見や相手の立場を理解するとともに，自分自身を見つめ社会における役割や責任を自覚することが大切である。そのためには，相手の立場に立った行動力や自分らしさを見つけ，将来の夢や希望の実現を目指した生き方をつかむことが必要になる。

問1「きょうみや関心もち，自分から進んで学習に取り組んでいますか。」，問4「学習の仕方を自分で見つけたたり，選んだりしていますか。」では，いずれも「よくあてはまる」と回答した児童が20%に満たない。さらに，約30%の児童が「あてはまらない」と否定的な回答をしている。これは，教師も授業展開の工夫をしているものの，児童の個人差が大きくなっているためではないかと考える。それゆえ，特に否定的な回答の児童に自ら決断し，実行し，責任をもつ経験を何度も積み重ねることによって自己指導能力が育成されるとすれば，中学生になる前に，教師が自己決定の場を意図的に仕掛けていくことが必要であると考えられる。

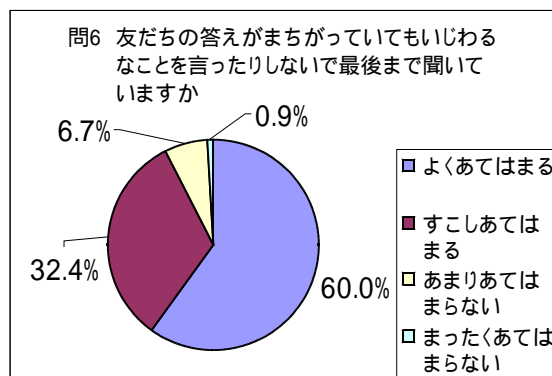
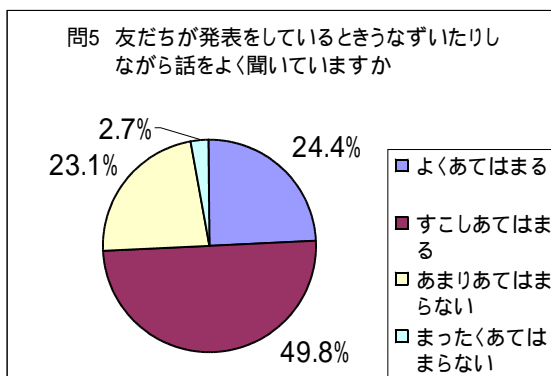


自己存在感に関する項目では，問7「みんなと学習するのは，楽しいですか。」問12「学校は，楽しいですか。」という質問に80%以上の児童が「あてはまる」と肯定的に回答している。友達とのかかわりの中で楽しさを味わったり，友達から大切にされていると感じることができているからと考える。しかし，一方では約15%の児童が「楽しいと思わない」と否定的に回答している。学習が負担になっているのか，あるいは友達とのトラブルを乗り越えられずに苦しんでいるのか理由は明確ではない。教師の支援を必要としていることは確かである。例えば，学習でつまずきが見られ，学習意欲を失っている児童に対しては，「授業で指名して答えられないとき，ヒントを出す」，「学習の仕方を教える」，「繰り返し説明する」などの支援を行ったり，個別のヒントカードや学

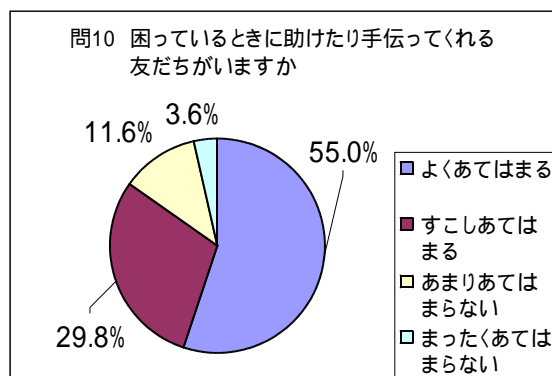


習カードを出す，または学習形態や座席を工夫するなどの支援を行う必要がある。また，子ども自身の良さを発揮できる場を意図的に学習の中に取り入れることにより，自己存在感を見い出せるよう配慮することも求められる。

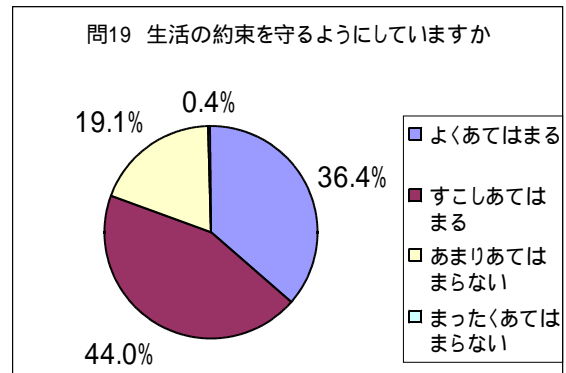
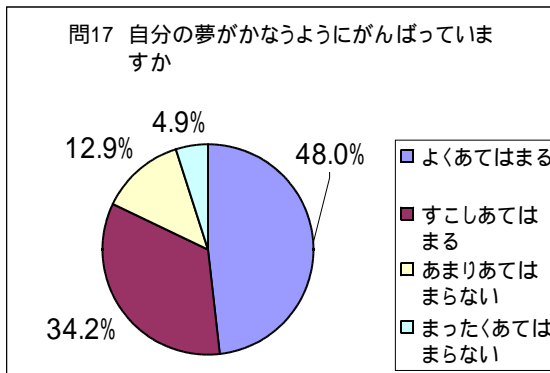
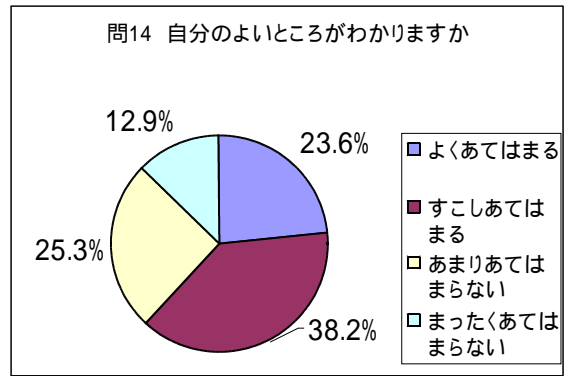
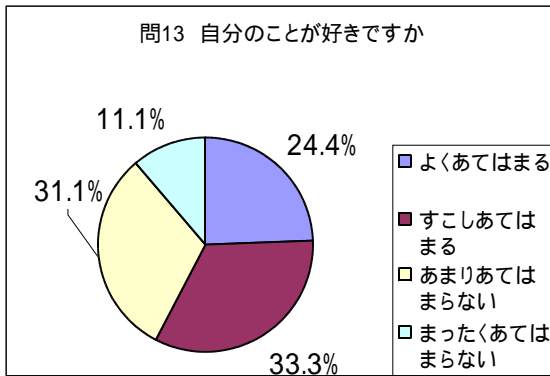
人は，共感的な人間関係の中であってこそ，自分の良さを発揮できたり友達の良さを認めることができる。問5「友だちが発表をしているときうなずいたりしながら話をよく聞いていますか。」では「よくあてはまる」24.4%「すこしあてはまる」49.8%であり，問6「友だちの考えがまちがっていても，いじわるなことを言ったりしないで最後まで聞いていますか。」では「よくあてはまる」60.0%「すこしあてはまる」32.4%という結果になった。相手の立場を尊重しながら聞いている様子が見られる。問10の「困っているときに，助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。」では，低学年から中学年にかけて「よくあてはまる」の回答が増加したが，高学年になると減少している。高学年になると小集団で活動する傾向が見られ，友達関係で悩む児童が多くなる。固定された友人関係から脱却した関係づくりへの取組が求められる。



小学校高学年では，自己に対して細部への見つけ方を始めるようになる。問13「自分のことが好きですか。」問14「自分のよいところがわかりますか。」では，「よくあてはまる」の回答がいずれも25%に満たず，否定的な見方をしている回答が約40%を占めている。自分に自信がもてない児童が増えている現状を踏まえ，自己を見つめ直す内容を学習の中に



取り入れることも必要であろう。将来に関する質問では，問17「自分の夢がかなうようがんばっていますか。」に対して80%以上の児童が「あてはまる」と肯定的に回答している。夢や希望をもち，それに向けて努力しようとする態度は小学校高学年段階ではおおむね身に付いていると考える。問19の「生活の約束を守るようにしていますか。」という規範意識を問う質問では，「あまりあてはまらない」，「まったくあてはまらない」という否定的な回答が約20%あった。自分の良さを伸ばすと共に，社会の一員として物事の善悪を見極め，自分を律する心の育成もこの時期は大切である。



課題として、次の3点を挙げることができる。

- ・ 生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決していこうとすること
- ・ 困っているときに助け合える人間関係づくりを行うこと
- ・ 自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発見すること

## 中学校（第2学年）の調査

### ア 質問内容

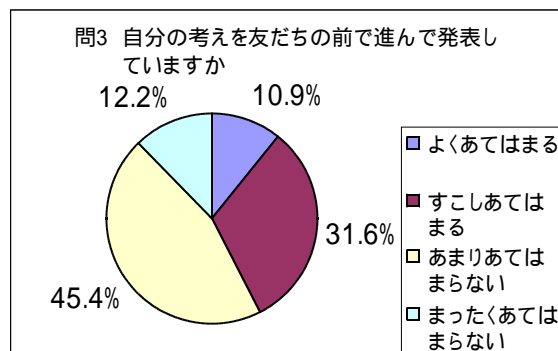
生徒指導に関するアンケート（中学校）		茨城県教育研修センター			
このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよくする研究に役立つものです。名前も書かれませんので、あなた考えや思ったこと、生活の様子をありのままに答えてください。					
(回答のしかた) 質問ごとにあてはまるものを一つだけ選んで、その記号に をつけてください。					
あてはまるものがないときは深く考えず、1番近いものを回答してください。					
	よくあてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
1	あなたは、興味や関心を持ち、自分から進んで学習に取り組んでいますか。・・・	ア	イ	ウ	エ
2	あなたは、授業中一人で調べたり、考えたりしていますか。・・・	ア	イ	ウ	エ
3	あなたは、自分の考えを友だちの前で進んで発表していますか。・・・	ア	イ	ウ	エ
4	あなたは、学習方法を自分で見つけたり、選んだりしていますか。・・・	ア	イ	ウ	エ
5	あなたは、学校が好きですか。・・・	ア	イ	ウ	エ
6	あなたは、友だちと勉強することが楽し				

いですか。・・・・・・・・・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
7 あなたは、先生や友だちに頑張りを認められていて感じますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
8 あなたは、自分が先生や友だちの役に立ったと感じることがありますか。・・・・	ア	イ	ウ	エ
9 あなたは、友だちが発表しているときは、うなずきながら話をよく聞いていますか。・	ア	イ	ウ	エ
10 あなたは、友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしていますか。・・	ア	イ	ウ	エ
11 あなたは、友だちの良さを認めて、協力して学習をしていますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
12 あなたには、困っているときに助けてくれる友だちがいますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
13 あなたは、自分のことが好きですか。・・	ア	イ	ウ	エ
14 あなたは、自分の良いところがわかりますか。・・・・・・・・・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
15 あなたは、自分の良いところをもっと伸ばそうとしていますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
16 あなたは、自分の悪いところがわかりますか。・・・・・・・・・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
17 あなたは、自分の夢がかなうような努力をしていますか。・・・・・・・・・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
18 あなたは、礼儀やマナーに気をつけるようにしていますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ
19 あなたには、大切にしていること(もの)がありますか。・・・・・・・・	ア	イ	ウ	エ

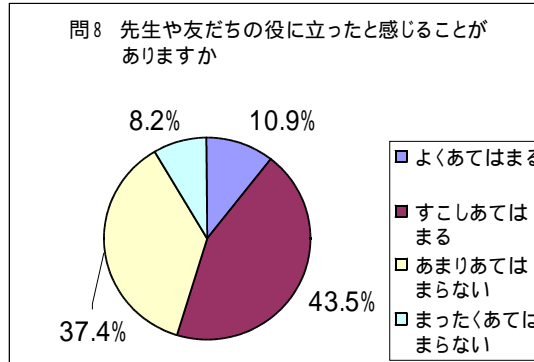
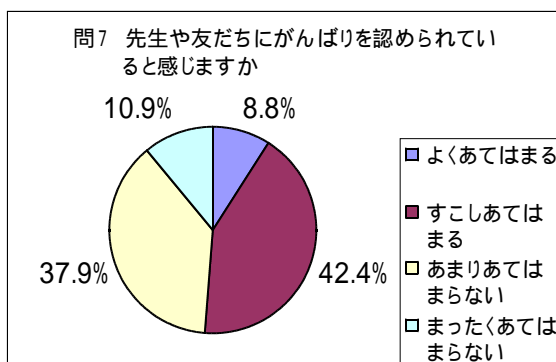
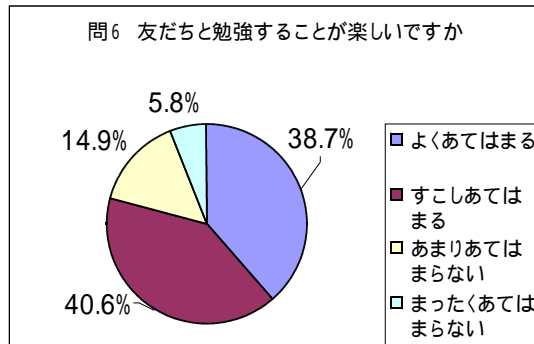
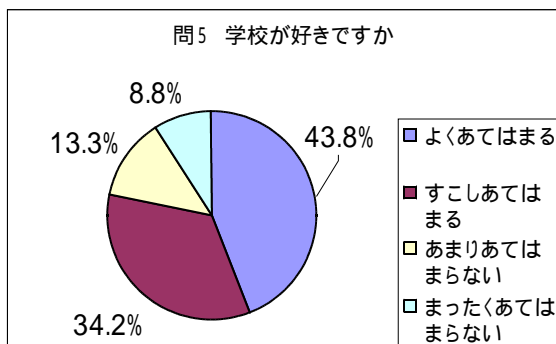
## イ 分析

中学生に向けた調査では、それぞれ、問の1～4が自己決定に関することについて、5～8が自己存在感に関することについて、9～12が共感的な人間関係に関することを探るためのもので、加えて自己を振り返る問の13～19を付け加えることで、生徒自身に対する意識も考察しようと考えた。まず、自己決定に関することについては、問3の「あなたは、自分の考えを友だちの前で進んで発表していますか。」の結果が特徴的であった。自己決定に関する四つの質問の中で唯一肯定的な回答が50%を下回った。この質問については「まったくあてはまらない」の選択肢を選んだ生徒が12.2%もあり、強い否定感をもつ生徒が他の質問に比べて多い。

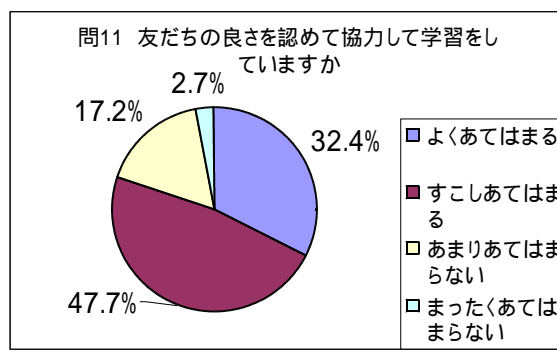
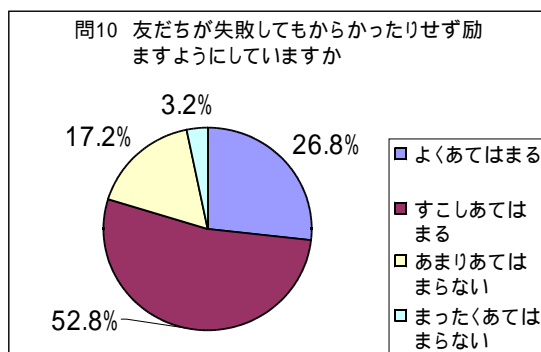
次に自己存在感に関することについてであるが、この内容については二つの特徴が見られた。まず問5「あなたは、学校が好きですか。」に対しての肯定的な回答は78.0%であった。そして、問6「あなたは、友だちと勉強することが楽しいですか。」の肯定的な回答は79.3%に達した。学校で友達と一緒に学習し活動することを楽しいと感じ、その結果、学校は好ましい場所であると



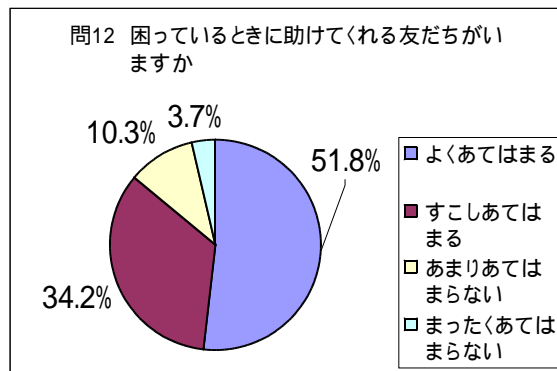
考えている生徒は多い。しかし，問7の「あなたは，先生や友だちに頑張りを認められていると感じますか。」や問8の「あなたは自分が先生や友だちの役に立ったと感じることがありますか。」の肯定的な回答はそれぞれ51.2%と54.4%となっており，半数を少し超える程度であった。学校は好きな場所であり，そこでの友達との交流は楽しい。ところが，自分の頑張りに対しては他から十分に評価されているという実感がもてずにいる。そして，そのためにその場における自分自身の有用感への自己評価も高められずにいる。



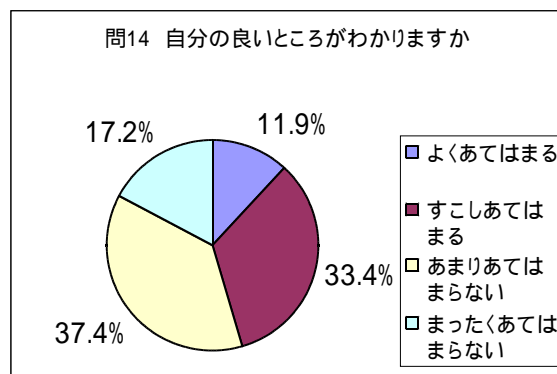
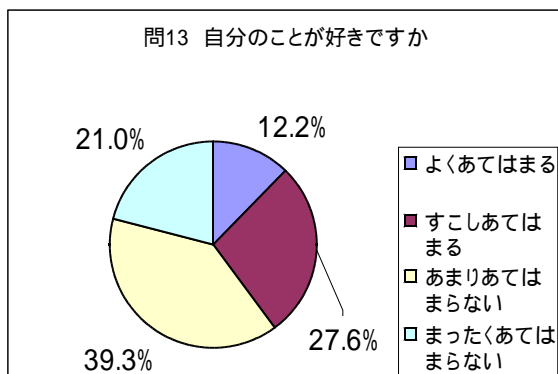
次に，共感的な人間関係に関することについては，どの項目も肯定的な回答の比率が高くなっている。つまり，学級の中での人間関係に大きな問題を抱えている生徒は多くはないと言える。特に問10「あなたは，友だちが失敗してもからかったりせず，励ますようにしていますか。」，問11「あなたは，友だちの良さを認めて，協力して学習をしていますか。」，問12「あなたには，困っているときに助けてくれる友だちがいますか。」の三つの質問には約80%の生徒が肯定的にとらえている。



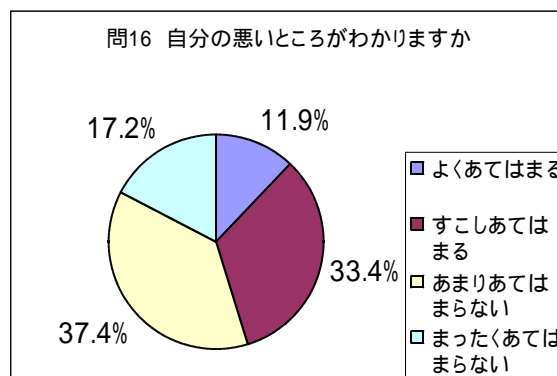
この結果からは「友達への気遣いや思いやり、友達との強い結びつき」が読み取れる。共感的な人間関係に関する質問では、学習場面を想定した質問は二つであったため、学校内での様々な活動を念頭に置いて回答した生徒も少なくはないと考えられる。特に問10や問12は部活動でよく見られる姿である。いずれにしても学校生活の中で共感的な人間関係を実感できる機会がたくさんあるという考え方をしている生徒は比較的多いと考えられる。



最後に、自分自身のことに関することについてである。問13「あなたは、自分のことが好きですか。」の問いに対する肯定的な回答は39.8%となっており、今回のアンケートの中で最も否定的な回答になっている。「まったくあてはまらない」という強い否定も21.0%ある。また、問14の「あなたは、自分の良いところがわかりますか。」の肯定的回答も45.3%と他の質問と比較してかなり低くなっている。逆に問16「あなたは、自分の悪いところがわかりますか。」の問いに「わかる」と答えた生徒が87.5%いたことで、生徒たちがかなり低い自己評価をしている現実が明らかになった。



しかし、これらの点については、中学生の発達段階を考慮に入れなければ学校生活の現実を正しくとらえることは難しいと考える。中学校の時期を中心とする思春期は、第二次性徴等の身体的変化に伴い、身体・心理ともに不安定な時期に入る。身体の性的変化や性衝動を自分の内部でどう位置付けていくかが重大な問題となる。そしてこの時期は、何かにつけて否定する傾向が顕著になってくる。



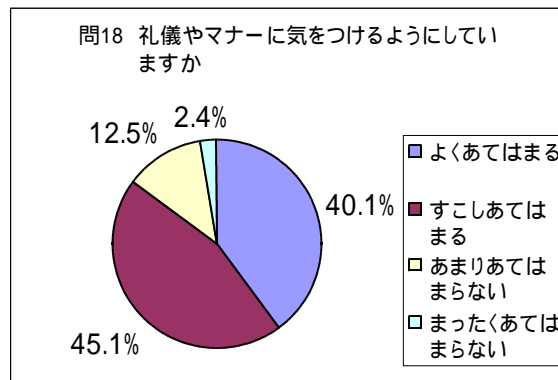
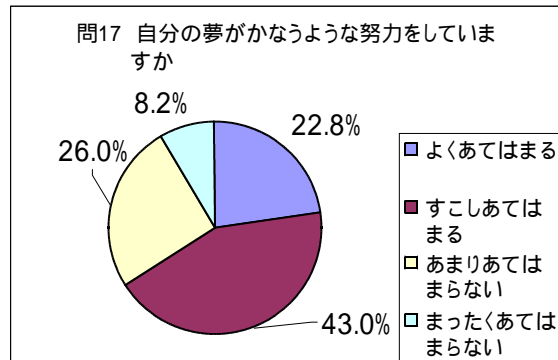
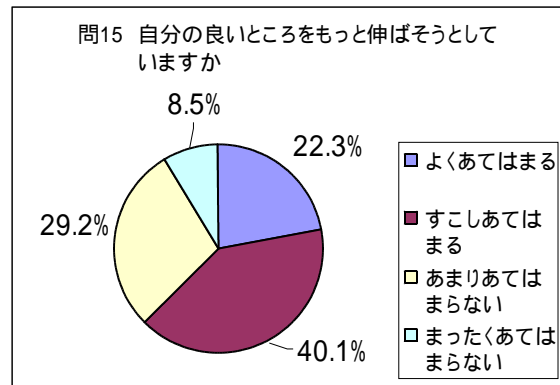
否定が外に向かうと親や教師といった大人への反抗や社会批判、他者への暴力という形となって現れる。また、否定が自己に向かうと自己否定や自己嫌悪という形となり、ときには自傷や自殺といった激しい形で不安・焦燥・寂しさ・空しさが出ることがある。このような思春期の不安定な心の有り様を勘案すると問14や問16のような結果が出るのは当

然であるとも考えられる。

また、問15「あなたは、自分の良いところをもっと伸ばそうとしていますか。」の肯定的な回答が62.4%となっているのは、現在の自己を否定し、理想の自己を追求する気持ちの現れであるとも考えられる。同様なことは問17「あなたは、自分の夢がかなうような努力をしていますか。」の肯定的な回答65.8%としても現れている。問18「あなたは、礼儀やマナーに気をつけるようにしていますか。」では85.2%が肯定的な回答であるのは、問15や問17と同じ理由によるものとも考えられるが、マナーアップ運動が各学校で熱心に取り組まれていることの反映であることも考えられる。この点については慎重に見極めていく必要がある。アンケートの結果、肯定的な回答の比率が他に比べて低いのは自己決定と自己存在感にかかわる内容であり、それらについての実践が必要になっていくものと考えられる。

課題として、次の3点が挙げられる。

- ・ 自分の意見を友達の前で発表すること
- ・ 自分の頑張りを認めてもらえるようにすること
- ・ 自分のことが好きになったり、自分の良さに気付くこと



## 高等学校（第2学年）の調査

### ア 質問内容

生徒指導に関するアンケート（高等学校）

茨城県教育研修センター

このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよくする研究に役立つものです。名前も書きませんので、あなたの考えや思ったこと、生活の様子をありのままに答えてください。

（回答のしかた） 質問ごとにあてはまるものを一つだけ選んで、その記号に をつけてください。

あてはまるものがないときは深く考えず、1番近いものを回答してください。

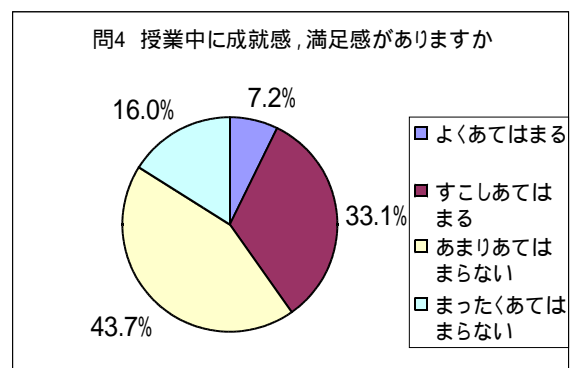
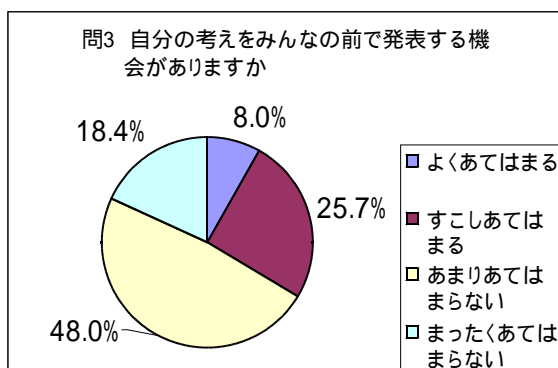
よく            すこし            あまり            まったく  
あてはまる    あてはまる    あてはまらない    あてはまらない

- |                                      |   |   |   |   |
|--------------------------------------|---|---|---|---|
| 1 あなたは、興味・関心をもって、自らすすんで学んでいますか。…………… | ア | イ | ウ | エ |
| 2 あなたの学校には調べたり、考えたりする授業がありますか。……………  | ア | イ | ウ | エ |

3	あなたは、自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
4	あなたは、授業中に成就感、満足感がありますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
5	あなたは、学校が楽しいですか。．．．．	ア	イ	ウ	エ
6	あなたは、自分の意見を発表できますか。	ア	イ	ウ	エ
7	あなたは、授業に参加していると感じていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
8	先生や友だちはあなたの頑張りを誉めてくれたり、励ましてくれたりしていますか。	ア	イ	ウ	エ
9	あなたは、友だちの意見にうなずいたり、認め合ったりしていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
10	あなたは、クラスでお互いの良さを認めあっていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
11	あなたは、友だちが失敗しても笑わずに励ましていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
12	周りの人はあなたの人間性を大切にしてくれていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
13	あなたには、相談できる友だちがいますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
14	あなたは、自分のことが好きですか。．．	ア	イ	ウ	エ
15	あなたは、将来の夢や希望をもっていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
16	あなたは、自分の夢を実現するために頑張ろうと思えますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
17	あなたは、マナーや礼儀を守るように心がけていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
18	あなたは、自分の考えをはっきりと友だちに伝えることができますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ
19	あなたは、自分の悪いところがわかっていますか。．．．．．	ア	イ	ウ	エ

## イ 分析

高校生に向けた調査では、それぞれ問の1～4が「自己決定に関すること」について、5～8が「自己存在感に関すること」について、9～13が「共感的な人間関係に関すること」を探るためのものであり、加えて自己を振り返る質問（14～19）を付け加えることで、生徒自身に対する意識も考察しようと考えた。

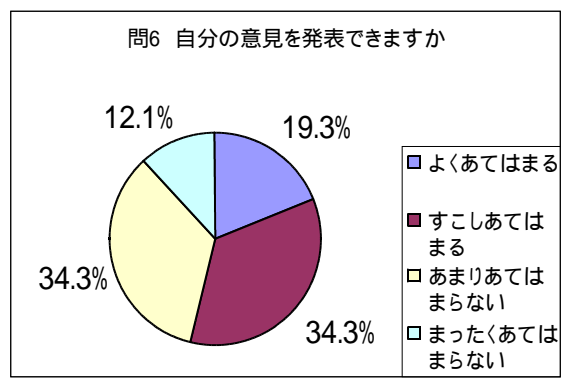
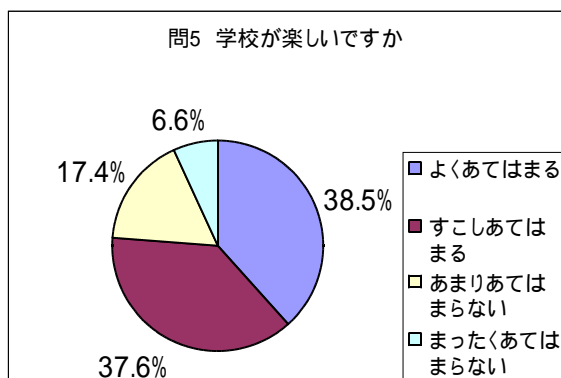




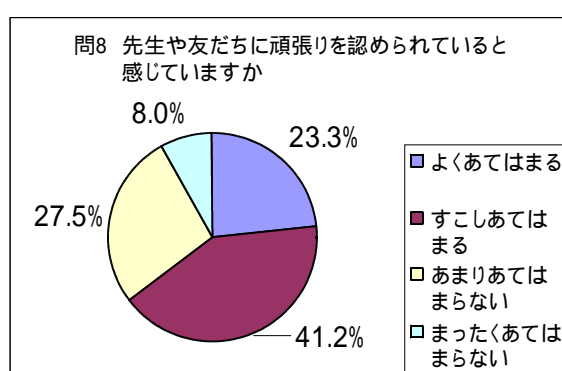
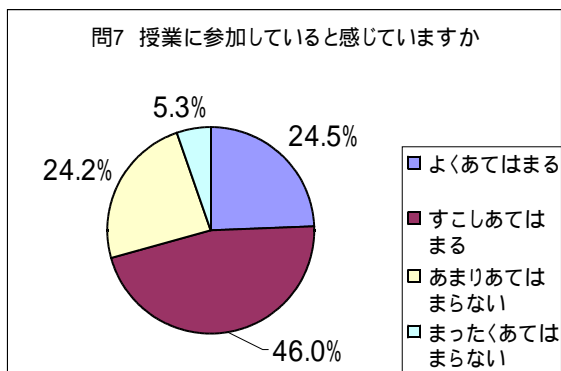
まず、「自己決定に関すること」について、問3「あなたは、自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか。」、問4「あなたは、授業中に成就感、満足感がありますか。」の結果が特徴的である。前者は「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」を合わせると66.4%、後者では「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」を合わせて59.7%を占める。このことから、授業中に発表の機会を増やしたり、様々なプレゼンテーションの機会を与える等の具体的な改善の方法が望まれる。

次に「自己存在感に関すること」について、問5「あなたは学校が楽しいですか。」の結果（「よくあてはまる」、「すこしあてはまる」を合わせて76.1%）は重要であると考えられる。学校が楽しいことは、高校生活の基盤がある程度は確立されていることをうかがわせる。すべての生活の基本に生徒の満足度がかかわっているならば、次に考える方策としては、さらに生徒の満足度、成就感を感じさせるような取組である。もちろん、どちらかといえば否定的にとらえている24%の生徒には個人面接の充実など、個別の対応を考えていかなければならないであろう。

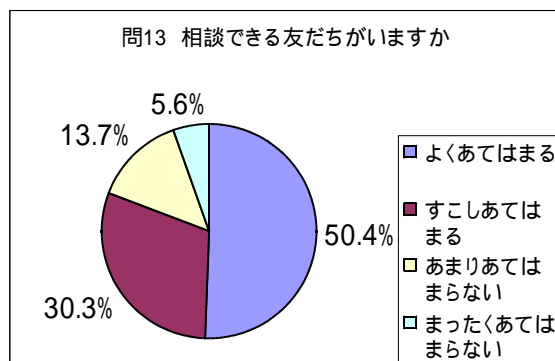
問6「あなたは自分の意見を発表できますか。」、問8「先生や友だちはあなたの頑張りを誉めてくれたり、励ましてくれたりしていますか。」の結果からは、自分の意見を発表する際に、周囲の友達や教師とのかかわりが重要であることを示唆している。例えば、自分の意見を発表する場面において、他人がその意見に対して支持的な態度を示したり、教師が様々なサポートを行うこと等の積極的な関与を示せば、安心して意見を言うことができるようになるであろう。このようなかかわりは、授業のみならず、すべての学校生活において重要な視点になる。



また、問7「あなたは、授業に参加していると感じていますか。」の「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」を合わせて約30%という結果から、およそ3人に1人の生徒は、授業に何らかの不満を抱えていることをうかがわせる結果となっている。教師のさらなる工夫改善が望まれるところである。



「共感的な人間関係に関すること」については、ほとんどの質問において約80%の生徒が「よくあてはまる」、「すこしあてはまる」と肯定的に回答している。しかしながら、問13「あなたには、相談できる友だちがいますか。」では50.4%の生徒が「よくあてはまる」と回答しているものの、約6%の生徒が「まったくあてはまらない」と答えている。

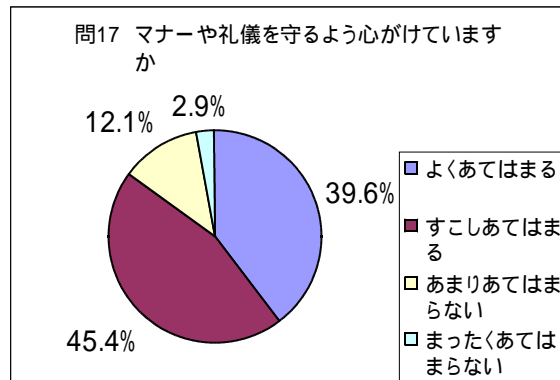
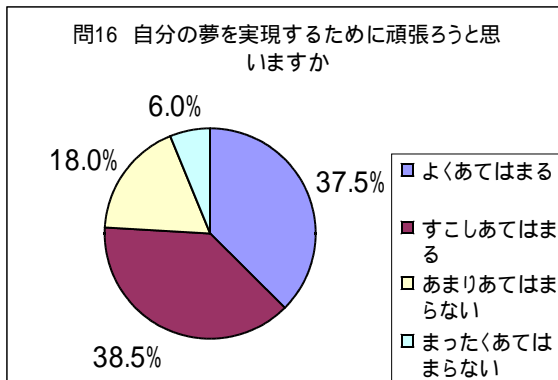
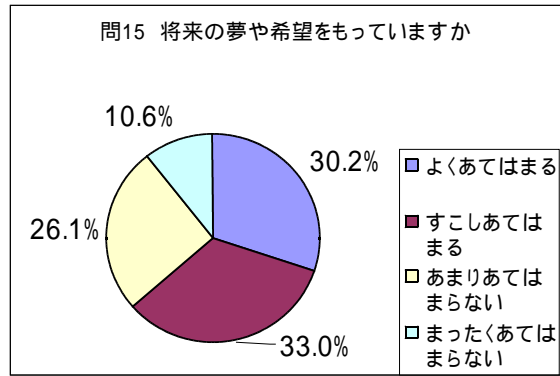
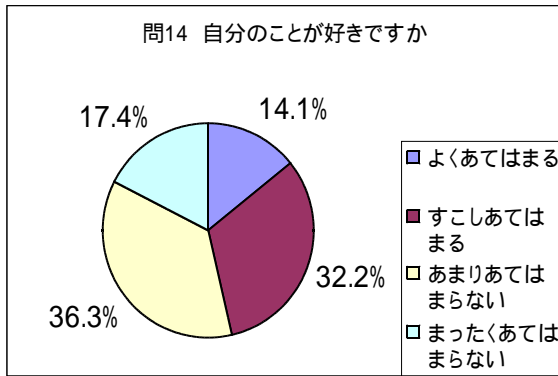


今後の取組を考えていく際には、このような点にも留意し、いわゆる「クラスの耕し」になるような支援の在り方を模索していかねばならないと考える。

最後に、自己を振り返る質問から読み取ることができる傾向について触れる。問15「あなたは、将来の夢や希望をもっていますか。」については、「よくあてはまる」、「すこしあてはまる」をあわせると63.2%の生徒が肯定的なとらえ方をしているが、およそ3人に1人の生徒は、「将来の夢や希望」について、どちらかというとな否定的にとらえていることがわかりである。一方、問16「あなたは、自分の夢を実現するために頑張ろうと思えますか。」では、76%の生徒が肯定的に回答している。今回のアンケートでは、「頑張ろうと思う」、その具体的な方策までは問うていないが、どのようにしたら、生徒が自分たちの「夢や希望」を実現することができるかという点、またそれらに関する支援策について等、さらに深い議論を展開していく必要があると考える。問17「あなたは、マナーや礼儀を守るように心がけていますか。」では、85.0%の生徒が自分たちのマナーについて肯定的にとらえているが、現実とのギャップを少なからず感じてしまう側面もある。このような点についても何らかの取組が必要なのではないかと考える。

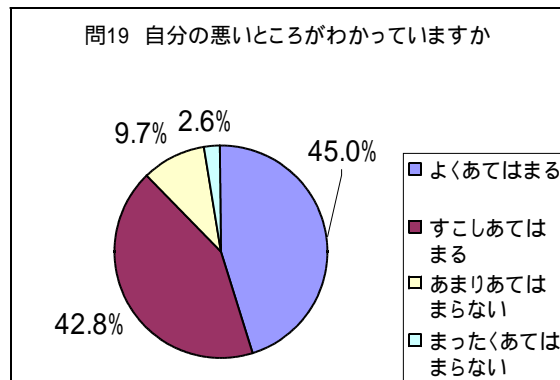
また、問19「あなたは、自分の悪いところがわかっていますか。」では、約90%の生徒が自分の悪いところを自覚していることがうかがえる。自覚している点が本当に「悪いところ」なのかについての見極め、またその後の対応策等を含め、生徒一人一人とのかかわりをさらに図っていきたいところである。問14「あなたは、自分のことが好きですか。」の結果は、自己を振り返る質問の中では興味深いものとなっている。「よくあてはまる」、「すこしあてはまる」をあわせて46.3%である。過半数の生徒は自分のことについて否定的にとらえていることになり、この点は大変気がかりである。

また、この質問は、前述した「自己存在感に関する」部分とのかかわりでとらえることもできる。自分の話をじっくり聞いてもらった、自分についてこれだけかかわってもらったという経験を通して初めて、自分というものを感じることができ、その中で自分の良い点も見えてくるのではないだろうか。より一層の教育相談的な視点から生徒たちとのかかわることを心がけていく必要性を感じる。



課題として、次の3点が挙げられる。

- ・ 授業に参加しているという、意識をもつこと
- ・ 授業中の発言を多くすること
- ・ 自分の意見や考えを先生や友達に受け入れてもらえるように伝えること



【研究1】 「話す・聞く」のお互いを伝え合う活動を通して  
自己指導能力の育成を図る国語科指導の在り方

1 児童生徒の実態

対象校は、児童数729、学級数23の小学校である。対象児童は第1学年である。7月初旬に行った実践授業の際は、入学後やっと学校生活に慣れてきたばかりの経験の浅い段階で、クラスの友達の名前を覚えきれぬかどうかという状況であった。平仮名も容易に読み書きできない児童がいるのが実態であり、アンケートは、質問項目の内容をわかりやすく口答で説明した。

(1) 事前アンケート結果 平成19年6月20日 1学年2組 30名

問	ア (%)	イ (%)	ウ (%)	エ (%)
1	13 (43)	14 (47)	2 (7)	1 (3)
2	19 (63)	9 (30)	2 (7)	
3	21 (70)	7 (23)	2 (7)	
4	26 (87)	4 (13)		
5	25 (83)	5 (17)		
6	26 (87)	4 (13)		
7	21 (70)	7 (23)	2 (7)	
8	17 (57)	11 (37)	2 (7)	
9	29 (97)	1 (3)		
10	20 (67)	9 (30)		1 (3)
11	24 (80)	6 (20)		
12	23 (77)	3 (10)	4 (13)	
13	26 (87)	2 (7)	2 (7)	
14	21 (70)	5 (17)	1 (3)	3 (10)
15	22 (73)	8 (27)		
16	26 (87)	4 (13)		
17	25 (83)	5 (17)		
18	16 (53)	13 (43)	1 (3)	
19	28 (93)	2 (7)		
	肯定的回答 96%		否定的回答 4%	

(2) 分析

全体的傾向としては、肯定的回答が多いが、1年生にとって、質問が難しく、「アンケート」という活動も初めてなので、実態と合っているか疑問が残る。

例えば、問1「あなたは、自分から進んで勉強していますか。」に対し、43%の児童がアの回答をしている。期待を胸に入学し、平仮名・数字の練習や、学校探検など意欲的に取り組んでいるので、予想の範囲内の回答であるが、比べて問2「授業中、一人で調べたり考えたりしていますか。」に、それを上回る63%の児童がアの回答を選んでいる。実態を鑑みるに、この時期、「一人で調べる」という活動は、ほとんど無いと言ってよい。学校に慣れるための活動を主体とし、学習習慣の指導を日々重ねている時期である。

特に、問12～16は意味がなかなか理解できないようであった。

アンケートは、「自分」を見つめる機会とはなったが、質問内容によっては、実態

調査として分析するのは難しい。(その他 指導案の3に別記)

## 2 高めたい自己指導能力

### (1) 自己存在感

「児童生徒一人一人の存在を大切にすることが、生徒指導の基本であり、人は他者とのかかわりの中で存在感を見出せるとき、生き生きと活動する。」ということに基づき、低学年という段階を踏まえ、第一に自分を見つめ『自分の好きなものをもつ』ことと第二に自分が認められる場を設定することにより『自分を認めてもらえる』活動を目指したい。様々な種別における「好きなもの」を伝え合う本単元は、両者を育成するにふさわしい活動である。さらに経験は、2学期の国語科学習「わたしのたからもの」につなげて生かすことができ、自己存在感の系統立てた育成ができる格好の教材である。

### (2) 共感的な人間関係

入学して3か月近くが過ぎ、やっと学級という集団の意識が安定してきた時期である。入学当初は、学校生活に慣れるのが精一杯で、他者の認識や理解が不十分であった。現在もまだ自己中心的な段階ではあるが、伝え合う活動を通して、「友達の話聞きく」という最も基本的な能力を身に付けさせたい。

### (3) 自己決定

事前アンケート結果からも、低学年は発表の機会が多いと思われる割に、「自分の考えをみんなの前で発表している」と意識している児童の割合が低かった。単元を通して意図的に発表場面を設け、『みんなの前で自分の考えを話す』ことができるようにしたい。

## 3 実践内容

< 参考資料 > 学習指導案

第1学年2組 国語科学習指導案

研究主題	「話す・聞く」のお互いを伝え合う活動を通して、自己指導能力の育成を図る国語科指導の在り方
------	--

1 単元名 すきなもの、おしえて

2 目標

(1) 進んで友達と尋ね合い、答え合って、口頭での正確なやりとりを楽しむ。

(関心・意欲・態度)

(2) 尋ねたいことが相手によく分かるように話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。

(話す・聞く)

(3) 尋ねたことをもとに書き、みんなに文章で知らせることができる。

(書く)

(4) 教材文を読んで、話し方・聞き方を確かめ、自分の好きなものを思い浮かべるこ

とができる。 (読む)

(5) 語と語や文と文との続き方に注意して書き、文の終わりに句点を打つことができる。

(言語事項)

### 3 自己指導に関する実態 (平成19年6月22日実施 第1学年 男子16名 女子14名 計30名)

アンケートの全19項目を通して、ア・イ(肯定的回答)の占める割合が96%と圧倒的に高い。事前アンケート(低学年の部)では87%だったが、さらにそれを上回る数値である。特にエの「まったくあてはまらない」を選んだ児童は、1%にも満たなかった。入学してからまだ2か月という経験から考えれば、中学年へとさしかかる2年生後半の結果と単純に比較できるものではないが、肯定的回答の数値が高いことは、学校生活に対する積極性ともとらえられ、好ましい。しかし、まだ自分自身を客観的に見つめることが難しいとも思われる時期、児童の認識と実態が合っているかどうかには疑問が残る。自己指導に関する経験を効果的に積ませることで安定した数値となることを期待したい。

#### (1) 自己存在感

問6「みんなと学習するのは楽しいですか。」は、「よくあてはまる」が87%、残りが「すこしあてはまる」で、100%肯定的回答である。幼稚園や保育園と異なり、着席しての学習が増え、日々新しい課題に向かう中で戸惑う場面も見られるが、「楽しい」と感じることができているのは、大切にしていける必要がある。反面、「自分が認められていると思うか。」という問8には、2名(7%)「あまりあてはまらない」という児童がいた。教師が一人一人を大切に、それを伝えられるように更に心掛ける必要がある。また、友達と協力したり認め合ったりする学習によって充実感や満足感を得られるような活動を仕組み、意識の変容を図りたい。

#### (2) 共感的な人間関係

問9「こまっているときに助けたり、手伝ってくれる友だちがいますか」は、29名(97%)が「よくあてはまる」と回答している。期待に胸膨らませて入学し、新しい友だちができたことを喜び、学級への帰属意識が出てきた頃だからこそ高い数値であるが、好ましい関係が持続していくよう、努力を重ねたい。

#### (3) 自己決定

問3「自分の考えをみんなの前で、発表していますか」には、「あまりあてはまらない」児童が2名いた。日頃より、指名しても戸惑いがちで、スピーチなどは負担と見られる児童である。自分自身を「発表は苦手」と思いこむことなく、のびのびと話せるような場の設定を工夫したい。また、問10「自分の仕事を最後まできちんとおこなっていますか」には、1名「まったくあてはまらない」児童がいたが、状況から判断するに、係や日直の仕事を明確にし、清掃や給食当番の手順をさらに徹底して指導することで、推移すると考えられる。また「仕事」そのものに慣れてなく、責任感という上で、仕事をなさないというより、経験が浅く、活動についていけないというの

がこの時期の児童の実態である。投げ出さず，意欲的に対処できるようにしていきたい。

特記すべき結果として，自分自身に関する場面の問14「あなたは，自分の悪いところがわかりますか」における「まったくあてはまらない」の3名の理由は「自分に悪いところがない」からである。「自分は頑張っている・自分はまちがっていない」という自己中心的な考えは，特徴的なことであり，この段階で，「悪いところがあるかも」と見つけ直させる必要はないものと，そのまま数値化した。

#### 4 自己指導能力を育てる手だて

##### (1) 自己存在感

育てたい自己存在感のうち，『自分の好きなものをもつ』ことは，個々でも育成が図れるが，『自分を認めてもらえる』ためには，他者とのかかわりが必須である。そこで「みんなと学習するのが楽しい」と思える活動を構築することにより，充実感・満足感を味あわせたい。指導にあたっては，発表し合う過程で，ペア（2人），グループ（6人），学級（31人）と形態を変えることにより，自己存在感を認識する過程を多くしたい。

##### (2) 共感的な人間関係

本単元は，相手（友達）の好きなものを聞くという，他者の存在が前提となるものなので単元構成の中でも，共感的な人間関係を育む場面は多い。さらに，相手を意識して活動することを心掛けさせることにより，相手を尊重し，大切に思う心の育成も期待できる。よき話し手とよき聞き手を育てていくためにも，場の設定を工夫したり，温かな雰囲気作りをしていきたい。

##### (3) 自己決定

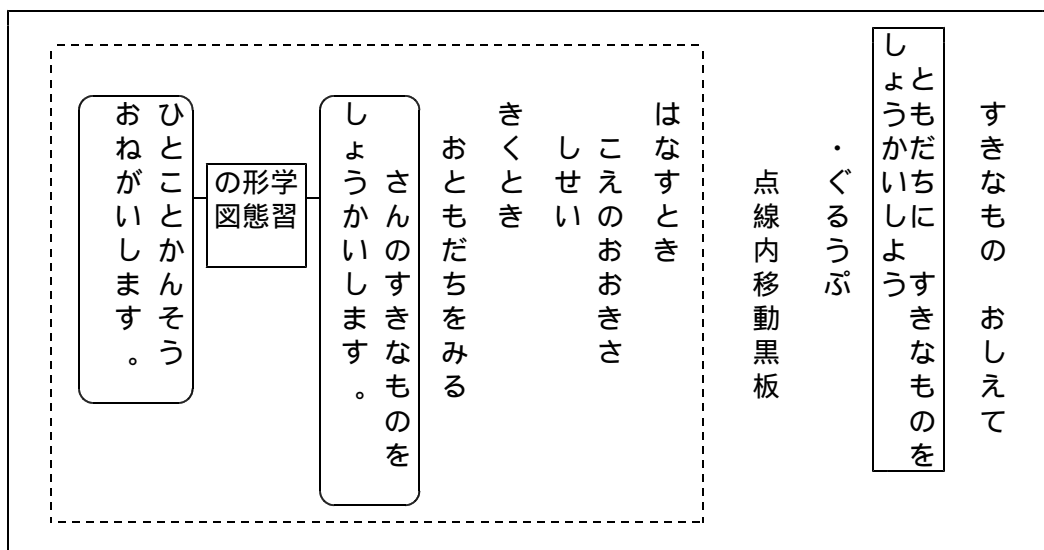
児童は，入学してから様々な場面で話したり聞いたりするという学習を積んできた。朝の会でのスピーチも回を重ねるごとに徐々に慣れてきた感がある。しかし，給食の時間のように，少人数で自由に会話するときと違い，学級みんなの前で話すことは，楽しい活動である反面，児童によっては不安や緊張を伴い，苦手とを感じる様子も多々見られる。特に音読と違って，自分の伝えたいことや思いを自分の言葉で表現することにはまだ戸惑いや抵抗がある児童がいる。その点，語彙の習得に個人差があり，生活経験も浅いこの時期の児童にとって，「好きなもの」というイメージしやすい題材は発表への意欲を持たせ，また聞く側にとっても興味を持って取り組める内容と考えられる。相手に聞きたいこと・伝えたいことが自分で選び出せるように，手掛かりとなる資料を準備し支援したい。

#### 5 学習・評価計画（4時間取り扱い，本時は第3時）

時	学習内容	評 価 規 準				
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語の知識・理解・技能
1	「好きなもの」についての，尋ね方や答え方	自分の好きなものを思い浮かべ，活動に対		好きなものの説明を，わかりやすくまと	教材文から，話す人聞く人のポイントを押	

	を話し合う。	する意欲をもつ。		めて書くことができる。	さえることができる。	
2	二人組で話し方や質問のしかたの練習をする。	二人組で協力しながら、活動する。	相手によく分かるように話したり、答えを正しく聞き取ったりする。	聞き取ったことを正しく書くことができる		正しい言葉遣いで、話したり質問したりできる。
3 本時	グループで友達の「好きなもの」を紹介し合う。	友達と好きなものを楽しく教え合う。	みんなに分かるように話したり、大事なことを落とさずに聞いたりする。			口形や話す速さ、声の大きさなどに気を付けて、聞き取りやすい発音で話すことができる。
4	発表会をし、自分や友達の好きなものについて話したり、聞いたりする。	進んで話したり、興味を持って聞いたりしている。	相手に伝わるように話したり、しっかり聞いたり、質問したりできる。	自分の発表のしかたの反省や友達の発表の感想を短くまとめて書くことができる。		正しい言葉遣いで、話すことができる。

## 6 板書計画



## 7 本時の指導

### (1) 目 標

友達の好きなものについてはっきり話したり、発表している友達の話を興味を持って聞いたりすることができる。

### (2) 準備・資料

「好きなもの」の紹介カード（準備物A）、「好きなもの」を描いた絵（準備物B）

### (3) 展 開

（存：自己存在感，共：共感的人間関係の育成，決：自己決定）

学習活動・内容	支援・留意点と評価の視点
1 本時の課題をつかむ。  ともだちの好きなものをみんなにしょうかいしよう。	座席の配置や空間など、発表に適した場の設定を工夫し、本時の活動への意欲や期待を高めたい。 本時の活動をしっかり見通し、集中して活動に取り組む姿勢をもたせたい。 存 2人組やグループ学習という形態に楽しさを感じ、互いに認め合いながら、活



2 グループで、「友だちの好きなもの」を紹介し合う。

(1) 話すとき・聞くときの大切なことを確かめる。

<話すとき>

- ・ はっきりと大きな声で話す。
- ・ ちょうどよい速さで、みんなの方を見て話す。
- ・好きなものについて、伝えたいことを、正しく話す。

<聞くとき>

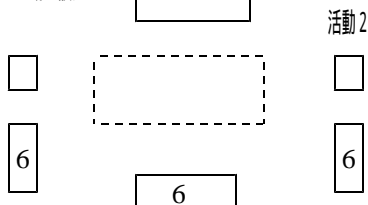
- ・ 話している人を見て、静かに聞く。
- ・ 感想や質問は、発表が終わってからする。

(2) 「友だちの好きなもの」についてグループで紹介する。

- ・ 2人組で紹介し合う。
- ・ 聞き手の4人は、発表の感想を話したり、聞きたいことを質問したりする。
- ・ 聞かれたことについて答え合う。

(3) 発表した好きなもののカード\*を見せ合う。

<場の設定>



3 本時の学習を振り返る。

(1) めあてに沿って学習を進められたか話し合う。

(2) 次時への課題を持つ。

動することができる。

友達から聞き取った「好きなもの」について、自信をもって発表できるように励ましの言葉かけを行う。

グループでの発表に適した声の大きさ・速さ・発音などについて確かめ、意識を持たせる。

友達の好きなものに対する興味を高め最後まできちんと話が聞けるように約束を確かめる。

—— <関心・意欲・態度> ——

意欲をもって、好きなものを紹介し合う活動に取り組もうとしているか。

(活動の様子の観察)

共 うなずいたり感想を述べたりして、友達の発表を優しい気持ちできちんと聞くことができる。

決 聞きたいことや、聞かれたことに対して、自分の考えを話すことができる。

話し手側と聞き手側が距離を感じずに、話し合うことができるような和やかな雰囲気づくりに努める。

だれもが自己存在感を感じながら、仲良く活動を進められるように助言する。

—— 話す・聞く能力 ——

伝えたいことを、聞き手にわかりやすく話すことができているか。(発表の様子)


話し手の発表の大事な事柄を押さえ、興味を持って聞くことができているか。

(質問の様子や態度)

本時の活動が、楽しかった印象を残せるように話し合いを進めたい。

好きなものを発表し合う活動を、学級全体に広げることが伝え、共に学ぶ学習意欲をさらに高めたい。

授業記録より

学習・支援に関して	児童の反応・様子
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>教師と児童，児童と児童との距離を近づけることにより，連帯感や活動への期待感を高めたので，児童を教室中央に集めて学習を開始した。</p> <p>課題を板書した後は，さらに</p>	<p>前時までに準備してきた「好きなもの」の発表会であるという意識の高まりが見られたことと，中央に集まったり，床にシートを敷いて座ったりという学習形態が初めてのこともあり，楽しい雰囲気始められ</p> 

移動黒板を用い、児童と活動内容を確かめた。これは、床に座って話を聞く児童との高低差を解消するためである。

1と、次の2(1)の活動に15分近く費やしてしまい、児童たちの実際の活動に入るのが遅めだった。教師側が話す時間を極力抑えるのが児童同士で「共」を育むために必要であろうと反省する。

2 グループで、「友だちの好きなもの」を紹介し合う。

(1) 話すとき・聞くときの大切なことを確かめる。

(2) 「友だちの好きなもの」についてグループに紹介する。

グループを基本6人とし、2人ずつ組になって3組が発表し合うという活動だが、「どの組から発表するか、どちらから始めるか」等決めることが多く、この時期の1年生としては、活動が盛りだくさんすぎて、戸惑う原因となった。さらに発表に対する感想や質問まで試みたが、これはほとんど成り立たなかった。

(3) 発表した好きなもののカードを見せ合う。 カードB

カードBをグループ内でよく見せ合う時間



を取りたかったが発表が終わると「終わった」という意識になり、活動が滞ってしまった。

このままでは評価の視点に揭げていた決の活動があまりに不十分であるので、形態を最初に戻し、全体の中での発表を急ぎよ組み入れた。

3 本時の学習を振り返る。

た。反面落ち着かない様子が見られ、集中力に欠ける児童もいた。

存の「楽しさを感じる」ということは達成できた

と思うが、1の活動では教師対児童が中心になり、児童が互いに認め合うということは難しいと感じた。

グループでの発表も初めてなので、活動のイメージがわくように、上のような図や発表の言葉を吹き出しにして黒板に貼り説明の補足とした。



実際始まると、活動の流れを理解してスムーズに発表が始められたグループとそうでないグループに差が出てしまった。



共は、「感想を述べる」までは望めなかったが、「友達の発表を優しい気持ちで聞く」ということには近づけたと考える。普段の一斉授業の時よりは、より親密に活動できている様子が見られた。

カードA

カードAを持ちながら友達の好きな物を発表した。カードBは紹介してもらって児童がグループに見



せるようにした。作成するときは楽しみながら取り組めたが、(発表する言葉)持つカードが2つあったのは児童によっては混乱する原因となった。



再度中央に集まって学級の枠で発表を行ったことにより、活動の満足度にあったグループ間格差が多少解消したように思う。代表児童の発表を聞くことに集中することができた。

- (1) めあてに沿って学習を進められたか話し合う。  
 (2) 次時への課題を持つ。

学習開始時と学習終了時は、机はコの字型に配置した。一斉に前を向いていると、視界に入る他者の顔の表情は意外に少ない。右の配置は、横顔であったりもするが、向かい合う児童が増えて、他者への意識が増す。「見ている」だけでなく「見られている」という意識は、このような発表を主軸とする活動の意欲を持続させる上で、ある程度必要だと考える。

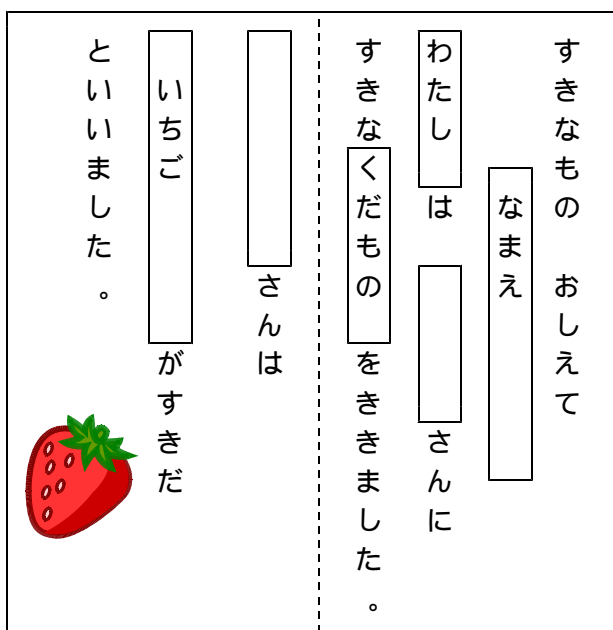


準備物の解説

カードA（第2時に作成）

3枚のカードを持ったまま開けるように、本型に貼り合わせた。

例



折り目

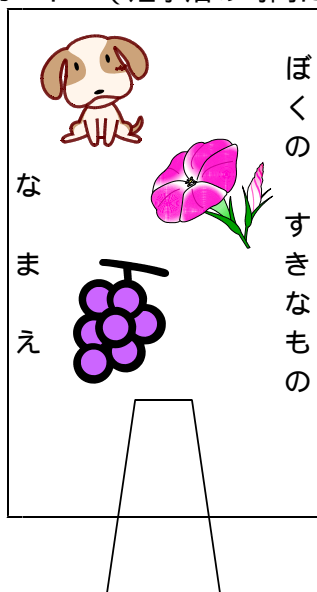
まだ、発表経験が少なく、手にカードを持っていないと、活動に参加できない児童もいると考え、質問を基にカードを用意した。

児童は、枠の中に言葉を書き込み、数回読む練習をして本時に臨んだ。全員に発表の場の機会を設定するのがめあてであるから、時間的制約を考えてもカードは効果的だった。

「すきなもの」のジャンルは自由、食べ物や動物が多かったが、中には「すきなもよう」など珍しい内容もあった。図は、相手のすきなものを楽しく書くことができた。

カードB（短学活の時間に作成）

例

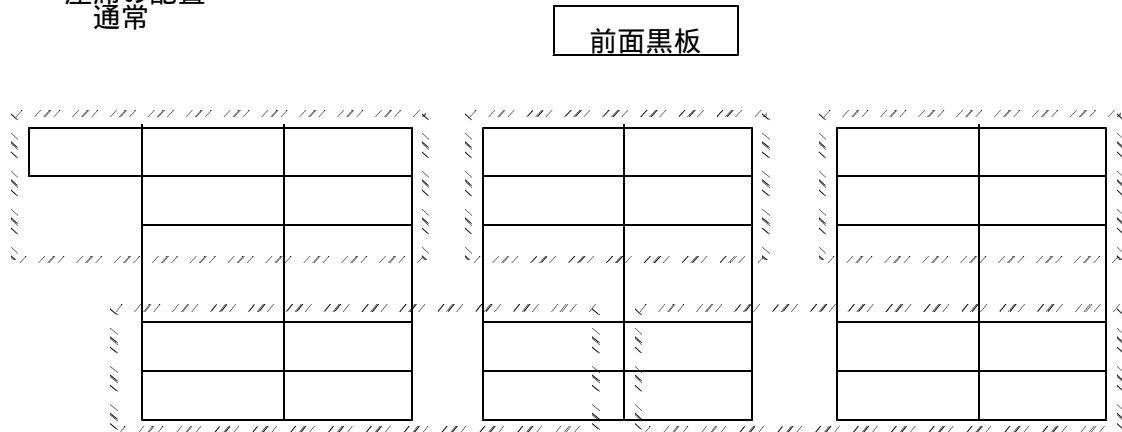


本人でないとわからない「すきなもの」もあり、発表補助資料として、本人が絵を書いたカードも用意した。

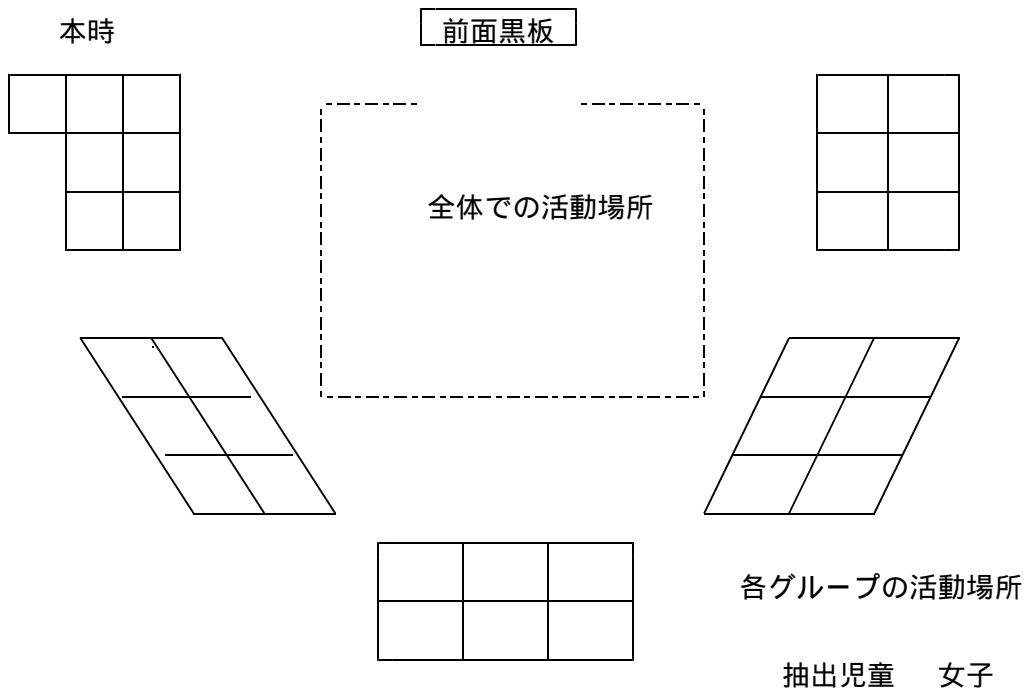
1単位時間は必要ないので、短学活の時間に作成した。例えば、左は、「すきなどうぶつ」「すきなはな」「すきなくだもの」を質問した場合のカードの例である。机の上に立てられるように紙コップに切り込みを入れて挟み込んだ。

カードA同様、初めてグループでの「発表会をする」という学習へのモチベーションを上げる意味でも楽しく作成できたが、実際に時間内での活用は難しく、消化不良気味であった。

座席の配置  
通常



本時



8 抽出児童に関して

入学後、男子は割と日々友達とのトラブルがあるが、女子はまだ比較的活動があとしく男子に比べればトラブルが少ない。そんな女子の中で、特に勝手な行動が目立ち、自分に非があってもそれをなかなか認めず、生活の中で嘘もついてしまうので、友達関係がうまくいっていないのが今回の抽出児童である。自分の主張ははっきりとするが、自分の都合のよいように説明するので、友達から責められることも多い。又、問3「あなたは、自分の考えをみんなの前で発表していますか。の問いに、事前アンケートで「回答ウ『あまりあてはまらない』とした。担任が判断するに、クラスの中では、はっきりと自己主張していることが多いが、本人は、「あまり発表していない」という意識で生活している。研究によってどう変化するか考察するため抽出児童として選定した。

授業中は、ほぼ1時間を通して、意欲的に活動に取り組む姿が見られ、発表したことに自信を得た様子であった。明るい笑顔も見られ、友達とかかわり合って学習できたという満足感は得られたようだ。事後問3に関しては、回答ア「あてはまる」に変化した。

## 9 実践後の児童生徒の変容

### (1) 事後アンケート結果

平成19年7月10日 30名

問	ア (%)	イ (%)	ウ (%)	エ (%)
1	17 (57)	10 (33)	3 (10)	
2	20 (67)	10 (33)		
3	24 (80)	3 (10)	2 (7)	1 (3)
4	24 (80)	6 (20)		
5	24 (80)	5 (17)	1 (3)	
6	26 (87)	4 (13)		
7	19 (63)	8 (27)	3 (10)	
8	16 (53)	9 (30)	4 (13)	1 (3)
9	26 (87)	4 (13)		
10	18 (60)	10 (33)	2 (7)	
11	26 (87)	4 (13)		
12	18 (60)	6 (20)	6 (20)	
13	26 (87)		2 (7)	2 (7)
14	18 (60)	2 (7)	6 (20)	4 (13)
15	19 (63)	7 (23)	3 (10)	1 (3)
16	24 (80)	4 (13)	2 (7)	
17	25 (83)	5 (16)		
18	18 (60)	10 (33)	2 (7)	
19	28 (93)	1 (3)	1 (3)	
	肯定的回答 92%		否定的回答 8%	

### (2) 分析

研究授業の後ではあるが、肯定的回答が減る結果となった。授業の直後ではなく、週明けになってしまい「発表」を主とした本時が活かされなかった面も考えられるが、実態としては、この半月強の間に、初めての学期末、学習のまとめという経験を通し、1年生ながら充実した生活を送り、自分の行動・実態について、より慎重に考える思考力が育ってきたとも考えられる。客観的には、実態に近づいたアンケート結果が得られた。(6月の時点のアンケート結果は肯定的回答が高すぎる)

特に否定的回答の増えた問14「あなたは、自分の悪いところがわかりますか。」など、成長と共に自己認識が育ち、否定的回答が増えることはまずない内容である。それなのに肯定的回答の数値が下がったのは、「わからなくなった」というよりは質問をより理解し、考えて答えた結果であるにとらえたい。

## 4 結果と考察

平成18年度の調査研究結果の考察では、低学年では自己決定の機会を設けるために、意図的に発表場面を取り入れる必要があるとしている。また自己存在感に関して「みんなと学習するのが楽しい」という充実感や達成感を得るために教師はよい人間関係の中で、どの子どもにも自分が認められる場があり、楽しく学習に取り組んでいると児童が認知できるような授業展開を考えていく必要があるとしている。

そこで今回は、必然的に他者とかかわり合わないと成り立たない活動を仕組み、それを誰もが発表するという学習を授業実践として行った。

国語の学習として考察するに、実際に行ってみると、活動は時間的に余裕のあるものだったが、内容が難しかった。自信をもって発表できるように、個人差も考慮し、カードAを準備するなど工夫したが、それでも「話す・聞く」の経験の浅さが出てしまった。

生徒指導を意識した展開での高めたい自己指導能力の一つは、自己存在感で、学習形態の工夫をした。一斉授業、2人組み、グループ発表など人的環境の変化と、机・椅子の配置、中央のシートの活用、移動黒板の活用などの場の設定の工夫である。「楽しさを感じる」ということは達成できたが、まだ自己中心的な段階で、他者をやっと意識し始めたという程度であり、互いに認め合うというのは現状では難しいと感じた。ただインタビューは「好きなもの」という内容だったので、自分の好きな物・大切な物をもつという観点では、単元を通して自己存在感は意識できたものと考ええる。

共感的な人間関係については、友達の発表を優しい気持ちで聞くということを通して、さらによい関係を築きたいと進めた。日常的な一斉授業より、少人数で活動したことにより、実質的距離感も縮まり、仲間意識が強まったように思う。特に1年生の実態として、担任主導型の授業が多い中、自分が主体となって活動し、またその活動に必ず他者がかかわっているという流れは、共感的な人間関係の構築に効果があったと考察する。

自己決定については、できれば他者の発表に対する自分の考えを述べる場を各グループで充実させたかったが、この時期はまだ「自分の考え」を発表するのは支援がないと難しいと判断し、記録にあるように、指導案を変えて、一部の代表児童のみの発表に変更した。この例示的活動を初めに行っていれば望む話し合いができたかもしれない。期待した展開とは違ったが、この実践がその後の学習に生かされ、より効果的な手立てを考える経験とはなった。

国語と生徒指導を関連させて振り返ると、教科としてのめあてと3機能を生かすことをうまくリンクさせるのが難しいと感じた。反面、生徒指導は学校の教科・領域全ての面で進められるべきことであり、「絶えず意識する」ことが大切であるとも感じた。今後は、発達段階に応じて、一つの重点目標に絞りこみ、支援を集中して行えるように進めるとより効果的ではないかと反省した。

加えて、今後の課題の一つは、授業に組み込んだ生徒指導の3機能に関する評価やその評価方法であろう。

最後に、この実践と本研究のテーマである「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」への位置付けだが、本校は昨年からの継続研究で、「伝え合う力を高める」をめあてに校内研究を行っている。全学年で他者とかかわる活動を重視し、系統立てた授業展開を進めており、国語という教科を軸に、児童の多様な人間関係の育成を図ることがさらなる成長を期待できるものと考ええる。学校の支援体制として、児童の育成においては、教科・各領域において、学年を越えた連続性・系統性のある指導が必要で、まずはそれを意識していくことが大切であろう。

【研究2】 互いの良さを認め合い，自己肯定感を高めるための  
学級活動における指導の在り方

1 児童の実態

「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」に関する意識調査の結果  
平成19年6月4日(月)実施 対象：第3学年児童 男子7人 女子7人 計14人

項目	NO	質 問	よくあてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
自己存在感	1	みんなと学習するのは楽しいですか。	12人 85.7%	2人 14.3%	* 0%	* 0%
	2	先生や友だちはあなたのがんばりをわかってくれますか。	11人 78.6%	3人 21.4%	* 0%	* 0%
	3	学校は楽しいですか。	12人 85.7%	1人 7.1%	1人 7.1%	* 0%
共感的な人間関係	4	友だちがはっぴょうしている時，うなずいたりしながら話をよく聞いていますか。	7人 50.0%	5人 35.7%	2人 14.3%	* 0%
	5	友だちの答えがまちがっていても，いじわるなことを言ったりしないで最後まで聞いていますか。	11人 78.6%	1人 7.1%	2人 14.3%	* 0%
	6	友だちときょう力して学習していますか。	13人 92.9%	1人 7.1%	* 0%	* 0%
	7	困っているときに，助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。	12人 85.7%	2人 14.3%	* 0%	* 0%
自己決定	8	自分からすすんで学習に取り組んでいますか。	10人 71.4%	4人 28.6%	* 0%	* 0%
	9	授業中，1人で調べたり考えたりしていますか。	10人 71.4%	4人 28.6%	* 0%	* 0%
	10	自分の考えをみんなの前で発表していますか。	9人 64.3%	5人 35.7%	* 0%	* 0%
	11	学習の仕方を自分で見つけたり選んだりしていますか。	12人 85.7%	2人 14.3%	* 0%	* 0%
	12	自分の仕事を責任をもって最後までやりとげていますか。	11人 78.6%	3人 21.4%	* 0%	* 0%
自分に関すること	13	自分のことが好きですか。	9人 64.3%	4人 28.6%	1人 7.1%	* 0%
	14	自分のよいところが分かりますか。	11人 78.6%	3人 21.4%	* 0%	* 0%
	15	自分の悪いところが分かりますか。	10人 71.4%	3人 21.4%	1人 7.1%	* 0%
	16	自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。	12人 85.7%	2人 14.3%	* 0%	* 0%
	17	自分の夢がかなうようにがんばっていますか。	10人 71.4%	3人 21.4%	1人 7.1%	* 0%
	18	あいさつをしていますか。	10人 71.4%	4人 28.6%	* 0%	* 0%
	19	生活の約束を守るようにしていますか。	10人 71.4%	3人 21.4%	* 0%	1人 7.1%
	20	大切にしていることがありますか。	14人 100%	* 0%	* 0%	* 0%

### (1) 自己存在感に関すること

ほとんどの児童が「みんなと学習するのが楽しい。」(よくあてはまる：85.7% すこしあてはまる：14.3%)「自分のがんばりを先生や友だちが分かってくれる。」(よくあてはまる：78.6% すこしあてはまる：21.4%)と感じている。ただ、「学校が楽しいですか。」という質問に対して男子で1人「あまり楽しくない。」と回答している児童がいた。

児童は他者とのかかわりの中で生活している。そうしたかかわりの中から、自分が認められる経験を多く積むことで自己存在感を味わえるようにさせたい。

### (2) 共感的な人間関係に関すること

「友だちときょう力して学習していますか。」「困っているときに助けたり手伝ってくれる友だちがいますか。」という質問に対しては14人全員が「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と回答している。特に、協力し合っでの学習については、92.9%の児童が「よくあてはまる」と回答していた。「発表をうなずいたりしながら聞いていますか。」の質問に対して「よくあてはまる」と回答した児童は50%にとどまり、「答えが間違っている意地悪なことを言ったりしないで最後まで聞いていますか。」の質問に対しては、男子で2人「あまりあてはまらない」と回答していた。

自己を取り巻く様々な人とのかかわりを大切にしていることが分かる。友達の発表についても、互いに認め合い励まし合えるような心をもって聞けるよう意識付けを図っていきたい。

### (3) 自己決定に関すること

14人全員が「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と回答している。「学習の仕方を自分で見つけたり、選んだりしていますか。」の質問に対しては、85.7%の児童が「よくあてはまる」と回答しているが、「自分の考えをみんなの前で発表していますか。」について「よくあてはまる」と回答した児童は64.3%だった。

言葉にして伝えることの大切さを理解し、できるだけ分かりやすく伝える技術を身に付けることは、自己指導能力を育てる上で大切である。

### (4) 自分自身に関すること

「大切にしていることがありますか。」という質問に対しては、14人全員が「よくあてはまる」と回答している。また、「自分のよいところが分かりますか。」「自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。」「あいさつをしていますか。」「生活の約束を守るようにしていますか。」という質問に対しては、全員が「よくあてはまる」「少しあてはまる」と回答しており、多くの児童が肯定的な自己像をもっていることが分かる。反面、「自分のことが好きですか。」という質問に「よくあてはまる」と回答した児童は64.3%にとどまり、「あまりあてはまらない」と回答した児童が男子に1人いた。

自分自身を肯定的に受け入れられない児童が、学年が上がるにつれて増える傾向も見られるので、自分が好きになる体験や自分の良さを実感できる体験を意識して取り入れていく必要性を感じる。

## 2 高めたい自己指導能力

### (1) 自己存在感について

児童は他者とのかかわりの中で生活しており、他者とのかかわりの中で存在感を見出せるとき生き生きと活動できる。そうしたかかわりの中で、自分や友達の良さを見つけ自己存在感を高める。そして、様々な活動に前向きに取り組んでいくことで、一人一人の良さや可能性を伸ばしかけがいのない自分という存在を感じ取らせるように



したい。

(2) 共感的な人間関係について

中学年は児童の活動範囲や交友関係に広がりが見られる時期である。そうした交友関係の広がりの中で、集団活動を通して友達の気持ちや考えを理解したり、互いに協力し合って学習や活動に取り組んだりできるようにする。また、学年の枠を越えた異年齢集団活動においては、グループの中堅としてグループ内での助け合いや励まし合いに進んでかかわれるようにしたい。

(3) 自己決定について

自分の意見や気持ちを分かりやすく表現したり、係活動や当番活動に進んで取り組んだりすることができるようにする。また、様々な活動の中で自己決定の場を多く与え、児童自らが考え責任をもって行動できるようにしたい。

### 3 実践内容

< 参考資料 > 第3学年学習指導案

(1) 題材 「ウキウキメッセージカード」でよいところ発見！

(2) 題材設定の理由

児童の学校生活は学級がその基盤である。3年生に進級して2か月が過ぎ、学級では係や当番活動に積極的に取り組んだり、男女問わず互いに協力し合って活動したりするなど、児童たちは落ち着いた生活を送っている。しかし、時として、自己主張が強くなったり、友達から嫌だなと思われる言動をとってしまったりする児童も見受けられる。

小学校学習指導要領解説特別活動編（平成11年5月 文部省）には、学級活動の目標として「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」と示されている。その中で、個性の伸長とは、様々な集団活動を通して自他の個性を発見し、理解し、一人一人の良さや可能性を伸ばしていくことである。

そこで、児童一人一人にスポットを当て、様々な場面でのプラス面のメッセージを綴った「ウキウキメッセージカード」でそれぞれの児童の良さを伝え合い認め合うことで、自己肯定感を高めるとともに満足感を味わわせたい。そして、その満足感を次の活動の活力にし、児童一人一人がお互いの良さに気付き、みんなで向上しようとする望ましい集団づくりをめざそうと考え、本題材を設定した。

(3) 自己指導能力を高める手だて

自己存在感について

児童一人一人の様々な生活場面でのよいところを綴った「ウキウキメッセージカード」で自分の良さを見付け、自己肯定感を高める。また、学習活動の中で、学級の友達に自分の良さを認めてもらったという満足感を味わわせながら「自分」に自信をもたせたい。

共感的な人間関係について

「ウキウキメッセージカード」の作成において、生活の中から友達のよいところを見付けることで、互いの良さを認め合おうとする意識を育てる。本時では、「ウキウキメッセージカード」をもとにした「私はだれでしょう？」というクイズ形式で、友達一人一人の良さを互いに伝え合い認め合うこととする。

自己決定について

振り返りカードを用いて、自分の良さが認められた喜びや友達の良さに気付いた

感想を記入させる。また、互いの良さを伝え合い、認め合うことで高められた自己肯定感や満足感を次の活動の活力にできるように、自分がこれからがんばることについて考えさせる。そして、これからの生活場面で、そのがんばりを認め励ますことを心掛ける。

#### (4) 指導の過程

##### 事前の指導と児童の活動

月・日	活動の場	活動の主体	活動内容	指導・支援の留意点
6月4日 (月)	帰りの会	学級全児童	アンケートの実施	・現在の自分自身のことについて素直に回答するように話す。
6月5日 (火)	朝の会	学級全児童	「ウキウキメッセージカード」についての説明を聞く。	・メッセージカードの作成に向けて、生活の様々な場面で友達のよいところをたくさん見付けようとする意欲付けをする。
6月8日 (金) ～11日 (月)	朝の会 帰りの会	学級全児童	「ウキウキメッセージカード」の作成	・生活の中で見つけた友達のよいところを具体的に記入するよう助言する。
6月12日 (火)	帰りの会	学級全児童	「ウキウキメッセージカード」の発表に向けての準備	・発表に際しては、友達の良さに対する自分の感想も一言添えられるよう話す。


##### 本時の目標

「ウキウキメッセージカード」で互いの良さを認め合うとともに、自己肯定感を高め、今後の様々な活動に対する意欲を高める。

##### 準備・資料

- ・ インストラクション用「私はだれでしょう？」クイズ
- ・ 学級児童の「私はだれでしょう？」クイズ
- ・ ウキウキメッセージカード
- ・ 振り返りカード

展開（存：自己存在感，共：共感的人間関係の育成，決：自己決定）

学習活動・内容	支援・留意点と評価の視点
<p>1 簡単なゲーム「あいこジャンケン」を行う。</p> 	<p>緊張をほぐし雰囲気を盛り上げるためのウォーミングアップとして行う。</p> <p>教師と気持ちを合わせてジャンケンを行うことを、本時の活動の一つである互いの良さを認め合うことにつなげたい。</p>
<p>2 「私はだれでしょう？」クイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドラえもん</li> </ul>	<p>児童がよく知っている人物についてのクイズを行うことで場の雰囲気を盛り上げるとともに、本時のエクササイズのインストラクションも兼</p>

- ・ 松井秀喜選手
- ・ 校長先生

3 3年生の友達についての「私はだれでしょう？」クイズを行う。

- ・ みんながよく知っているよいところ
- ・ みんなにあまり知られていないよいところ



4 友達に書いてもらった「ウキウキメッセージカード」を読む。



5 「ウキウキメッセージカード」を読んで感じたことを振り返りカードに記入する。

- ・ 自分の良さが認められた喜び
- ・ 友達の良さに気付いた感想
- ・ これからのがんばり

6 本時の活動を振り返る。

ねる。

アニメのキャラクターやスポーツ選手などを取り上げることで児童の興味関心を高める。

事前の活動で記入した「ウキウキメッセージカード」をもとにクイズ形式で出題することで、児童の意欲を高める。

友達のよいところを互いに伝え合い、認め合うことで、よいところを認められた喜びを味あわせる。

自他ともに認めるよいところだけでなく、あまり知られていないよいところを紹介することで、学級の友達のことをさらによく知る場としたい。  
共 友達一人一人の良さを互いに伝え合い、認め合う。

評 互いの良さを認め合うことができたか。

(発表, 観察)

「ウキウキメッセージカード」を個別にまとめておき配布する。

学級の友達からのカードを読むことで自己肯定感をさらに高め、「自分」に自信をもたせるとともに、友達のよいところをたくさん見付けることのできた児童のがんばりをフィードバックする。

存 「ウキウキメッセージカード」で自分の良さを見付け、自己肯定感を高める。

「ウキウキメッセージカード」を読んだの感想や、自分がこれからどんなことをがんばっていくかについて、自分のことばでまとめさせる。

カードの内容を数名の児童に発表させ、自分の良さが認められた喜びを分かち合う。

決 自分がこれからがんばることについて考えさせる。

評 今後の活動に向けての意欲が高まったか。

(振り返りカード, 発表, 観察)

互いの良さを伝え合ったり認め合ったりした喜びを振り返らせるとともに、今後の活動に向けての意欲付けを図る。

#### 事後の指導と児童の活動

「ウキウキメッセージカード」に記入されていたよいところを実生活の中で適宜フィードバックし、児童一人一人の良さを再確認していく。

朝の会や帰りの会を利用して互いの良さを認め合えるような活動を継続していく。

#### 4 結果と考察

##### (1) 自己指導能力を育てる手立てについて

###### 自己存在感について

事前活動で「ウキウキメッセージカード」の作成を行った。あらかじめ作成前に、「生活の様々な場面で友達のよいところをたくさん見付けよう」と意欲付けを行うとともに、そのための時間を確保することで、児童は友達のよいところをたくさん見付けることができた。実際の作成場面では、自分の見付けた友達のよいところを一生懸命書く姿が多く見られた。

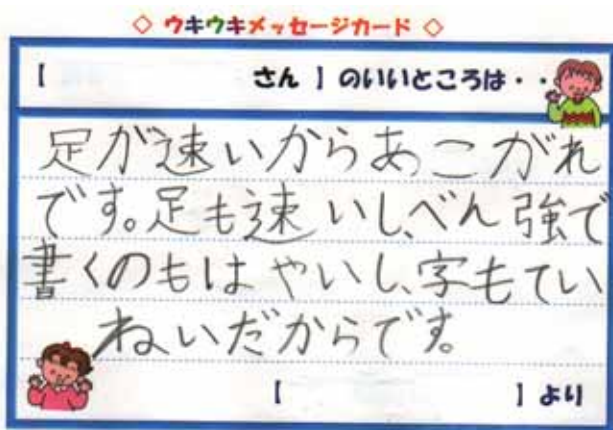
本時では、「わたしはだれでしょう？」クイズの後に個別にまとめておいた「ウキウキメッセージカード」を配布した。子どもたちは、だれがどのようなよいところを見付けてくれたのか、一人一人夢中になってカードを読み入っていた。子どもたちの表情は、自分のよいところをたくさん見付けられた喜びに満ちていた。



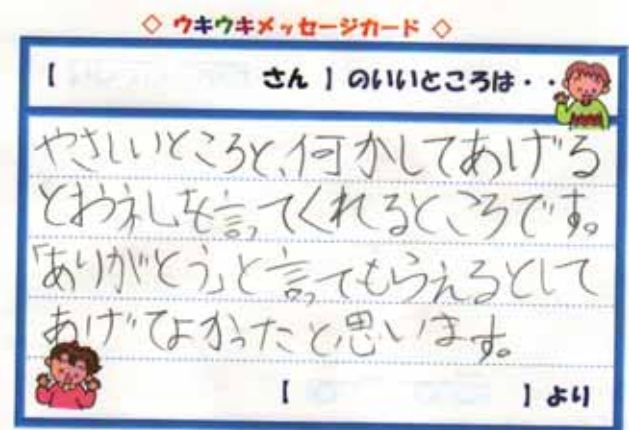
「ウキウキメッセージカード」



「ウキウキメッセージカード」を読む



友達からの「ウキウキメッセージカード」



友達からの「ウキウキメッセージカード」

###### 共感的な人間関係について

一人一人が友達のよいところの紹介をするとともに、友達から自分のよいところを紹介してもらうことで、互いの良さを認め合うことができた。友達のよいところの紹介では、誰もが認めている（知っている）よいところだけでなく、今まであまり知られていないよいところを紹介することで、友達の新たな一面を知ることがで

きた。活動の中では、良さを紹介する児童、良さを紹介された児童、それらを見たり聞いたりしている児童、どの児童もとても嬉しそうであった。

また、友達のよいところの紹介を「わたしはだれでしょう？」というクイズ形式にすることで、児童の興味・関心が持続し、一人一人が意欲的に活動に参加することができた。さらに、よいところが書かれたカードとともに本人の顔写真を掲示したことも児童の意欲付けにつながったように思う。

ただ、1人の児童に対して多くの友達が様々なよいところを書いてくれたので、クイズで紹介した以外のよいところについても、いくつか教師の方で紹介できればよかった。



「わたしはだれでしょう？」クイズ



黒板に掲示したカードと顔写真

#### 自己決定について

振り返りカードを活用して活動のまとめを行った。振り返りカードでは、自分のよいところを見付けてもらってうれしかった、よかった、もっとがんばる等、自分のよいところを見付けてもらったうれしさを素直に表現していた。また、自己決定に関する「自分のよいところが見つかり、これからどんなことをがんばりたいですか？」という質問に対しては、自分のよいところをこれからもがんばって伸ばしていきたい、という回答が多かった。中には、自分のよいところをさらに伸ばせるよう具体的にがんばることを書いたり、これから新たにがんばることを書いたりする児童もいた。これは、「ウキウキメッセージカード」で児童一人一人の自己肯定感が高められ、それがこれからの活動の意欲につながったものと思われる。



振り返りカードへの記入

振り返りカードから

ア ウキウキメッセージカードで自分の良さが分かりましたか？

よく分かった	少し分かった	あまり分からなかった	分からなかった
14人	0人	0人	0人

イ ウキウキメッセージカードで友達の良さが分かりましたか？

よく分かった	少し分かった	あまり分からなかった	分からなかった
14人	0人	0人	0人

ウ 友達に自分のよいところを見付けてもらってどう思いましたか？

みんなのウキウキメッセージカードを読んでうれしかったです。

自分のよいところがすごく分かりました。

みんな、私のよいところを知っていてよかったです。もっと自分のよいところを増やしたいです。

自分ではほめられるためにやるのではなく、自分のためにいいことをしていたら、みんなのためにもなっていてよかったです。

うれしかったです。こんなに見付けられるみんなもすごいです。

自分や友達にこんなにいいところがあるなんて思わなかったです。

エ 友達のよいところを知ってどう思いましたか？

友達のすごいところや上手なことがいろいろ分かりました。

友達にこんなによいところがあるなんて知りませんでした。

友達のよいところが分かってとてもうれしかったです。

一人一人のよいところが私にはできないようなものもあったので、私もどんどんよいところをのばしていきたいです。

オ 自分のよいところが見付かり、これからどんなことをがんばりたいですか？

もっと速く走れるように1日10分は走りたいです。


これからもみんなにやさしくしてあげたいです。

一輪車やピアノをもっと上手になりたいです。

みんなに負けないようにこれからもいろいろなことにチャレンジしてがんばっていききたいです。

よいところが見つかったから、そのよいところをのばしていきたいです。

1年生にやさしくしてあげるという自分のよいところをがんばりたいです。

ウキウキメッセージカード 名前  
ふりかえりカード 

◇ ウキウキメッセージカードで自分のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった


◇ ウキウキメッセージカードで友達のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった

◇ 友達に自分のよいところを見つけてもらってどう思いましたか？ ◇  
 自分では、ほめられるためにやるのではなく、自分のためにいいことをしていたらみんなのためにもなっていてよかったです。

◇ 友達のよいところを知ってどう思いましたか？ ◇  
 みんなそれぞれ、一人一人がんばっている。

◇ 自分のよいところがわかり、これからどんなことをがんばりたいですか？ ◇  
 みんなによりたいようにこれからいろいろなことにチャレンジがんばりたいです。

「振り返りカード」の例：

ウキウキメッセージカード 名前  
ふりかえりカード 

◇ ウキウキメッセージカードで自分のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった

◇ ウキウキメッセージカードで友達のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった

◇ 友達に自分のよいところを見つけてもらってどう思いましたか？ ◇  
 うれしかったです。こんなに見つめられるのがみんなすごいです。

◇ 友達のよいところを知ってどう思いましたか？ ◇  
 一人一人のよいところがおにできないようなものもある。なので、私もととよいところをはしていきたいです。

◇ 自分のよいところがわかり、これからどんなことをがんばりたいですか？ ◇  
 よいところが見つかったから、そのよいところをはしていきたいです。

「振り返りカード」の例：

(2) 抽出児童について


抽出児童の選定

今回の実践では、A・B・C・D・Eの5人の児童を抽出した。この5人は、6月4日調査の意識調査の問14「自分のよいところが分かりますか。」及び問16「自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。」のいずれかで「イ：すこしあてはまる」と回答した児童である。[他の9名の児童は、二つの質問でともに「ア：よくあてはまる」と回答した。]

抽出児の変容

問14:自分のよいところが分かりますか。  
 問16:自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。

5人の抽出児の中で3人は事後の意識調査でともに「ア：よくあてはまる」と回答した。これは活動を通して自己肯定感が高められたことによるものと思われる。抽出児C・Dの振り返りカードを見ると、「もっと速く走れるようになりたい。1日10分は走る。」「こんなによいところがあるなんて思わなかった。」など、これからの決意や自分を肯定的に受け止めることが書かれていた。

ウキウキメッセージカード 名前  
ふりかえりカード 

◇ ウキウキメッセージカードで自分のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった

◇ ウキウキメッセージカードで友達のよさがわかりましたか？ ◇  
 よくわかった  すこしわかった  あまりわからなかった  わからなかった

◇ 友達に自分のよいところを見つけてもらってどう思いましたか？ ◇  
 みんな私のよいところを知っていてよかったです。もっと自分のよいところを伸ばしていきたいです。

◇ 友達のよいところを知ってどう思いましたか？ ◇  
 00さんがいつも1年生と走り回っていることをはじめて知りました。

◇ 自分のよいところがわかり、これからどんなことをがんばりたいですか？ ◇  
 もっと速く走りたいです。ドリルもやりたいです。

抽出児Dの「振り返りカード」

抽出児	6月4日調査		6月20日調査	
	問 14	問 16	問 14	問 16
A	ア	イ	ア	ア
B	イ	ア	ア	ア
C	ア	イ	ア	イ
D	イ	ア	ア	ア
E	イ	ア	イ	ア

(3) 事前と事後の意識調査の比較から

「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」に関する意識調査

[一部抜粋]

対象：第3学年児童 男子7人 女子7人 計14人

項目	NO	問	6月4日調査(事前)				6月20日調査(事後)			
			よく	すこし	あまり	まったく	よく	すこし	あまり	まったく
自分に関すること	13	自分のことが好きですか。	9人 64.3% %	4人 28.6% %	1人 7.1% %	* 0% %	12人 85.7% %	2人 14.3% %	* 0% %	* 0% %
	14	自分のよいところが分かりますか。	11人 78.6% %	3人 21.4% %	* 0% %	* 0% %	13人 92.9% %	1人 7.1% %	* 0% %	* 0% %
	16	自分のよいところをもっと伸ばそうとしていますか。	12人 85.7% %	2人 14.3% %	* 0% %	* 0% %	13人 92.9% %	1人 7.1% %	* 0% %	* 0% %
	17	自分の夢がかなうようになっていますか。	10人 71.4% %	3人 21.4% %	1人 7.1% %	* 0% %	12人 85.7% %	1人 7.1% %	1人 7.1% %	* 0% %

4つの質問とも、6月4日調査に比べ6月20日調査の方が「よくあてはまる」と回答した児童が増えた。

問14では、6月4日調査で「すこしあてはまる」と回答した児童が3人いたが、6月20日調査ではその3人のうち2人は「よくあてはまる」と回答した。

問16では、6月4日調査で「すこしあてはまる」と回答した児童が2人いたが、6月20日調査ではその2人のうち1人は「よくあてはまる」と回答した。

(4) 実践を振り返って

今回の実践は、「ウキウキメッセージカード」で互いの良さを認め合う中で自分のよ



いところを知り，自分のよいところをさらに伸ばそうという意識や，今後の様々な活動にがんばって取り組もうとする意欲を高めることをねらいとした。本校は全学年単学級であるため，入学以来同じ人間関係の中で生活している。よって，友達の話は互いによく分かっているはずであるが，あらためて自分の良さを認められるとどの児童もとてもうれしそうであった。この実践を通して，自分の良さを知るとは，自己肯定感を高めたり，今後の活動への意欲付けを図ったりする上でとても大切なことであることを感じた。

事後の意識調査では，各質問とも「よくあてはまる」と回答した児童が増えた。事前活動の「ウキウキメッセージカード」の作成や本時の「わたしはだれでしょう？」クイズを通して自分のよいところがたくさん見つかったことで自己肯定感が高められ，それがこれからの活動の意欲につながったものと考え。また，互いの良さを伝え合うことは共感的な人間関係の向上にもつながったようである。これらのことから，授業の目標を第一に考えながらも，活動の中で生徒指導の3機能を生かした指導を心掛けることは自己指導能力の育成に大切であると考え。

本校では今年度，児童の好ましい人間関係づくりを努力点の一つに掲げ取り組んでいるが，校内支援体制づくりには，生徒指導の3機能を生かした指導を全職員の共通理解の下で実践していくことが何より重要なことである。

【研究3】 思いやりの気持ちをもち、互いに認め励まし合う  
児童の育成を目指す体育科指導の在り方

1 児童生徒の実態（事前のアンケート分析と日頃の観察から）

第5学年児童27名について、自己存在感に関する項目、共感的な人間関係に関する項目、自己決定に関する項目、そして自分に関する項目についてのアンケートを実施した。まず、自己存在感に関する項目を見ると、「みんなと学習することが楽しい。」の項目で「よくあてはまる」と回答した児童は70.4%（19人）であった。先生や友達が自分のがんばりを分かってくれと感じている児童も多く、学習への取組において、友達や教師とのかかわりに前向きな児童の様子が見られる。しかし、日頃の学級での生活の様子を見ると、特定の親しい友達とうまくかかわることができても、誰とでも同じようにかかわることは苦手な傾向が見られる。

次に、共感的な人間関係に関する項目では、「友達が発表をしているとき、うなずいたりしながら発表をよく聞いていますか。」の項目で「よくあてはまる」と回答した児童は18.5%（5人）で、全調査項目中「よくあてはまる」の回答が最も少なかった。他者への共感性が小学校高学年から発達すると言われていたことを考えると、本学級の児童は友達に共感する体験が多く必要であると考えられる。

また、自己決定に関する項目では、「自分の考えを、みんなの前で発表していますか。」の項目で「よくあてはまる」と回答した児童は33.3%（9人）であった。学習の仕方を自分で見つけたり、選んだりすることができるという回答している児童や、自分についてのアンケートで自分のよいところがよく分かっていると回答している児童もほぼ同じ割合であることから、自己理解の援助とともに、自己決定の場を多く体験する必要があると考えられる。

特に自分に関する項目のアンケートにおいて、「自分のよいところが分からない。」「自分のよいところを伸ばそうと思わない。」と回答しているA子、B男については、個に応じた指導・援助が必要であると考えられる。A子は、自分に関する項目の多くで「まったくあてはまらない」と回答し、普段の学校生活の様子からも、自分の意見をはっきり言うことはできるが、友達の発表をあまり聞こうとしないことから、友達関係がうまくいかない時もある。また、B男は、自己中心的で、他者への関心が薄いことが多い。

2 高めたい自己指導能力

(1) 自己存在感について

実態調査から、友達や教師とのかかわりに前向きな姿勢の児童は多いことが分かる。また、5年生になると、集団としてのまとまりができるようになり、集団で自発的な組織活動ができるようになると言われる。そこで、体育の学習において、異質グループをつくり、友達の補助を必要とした練習を多く取り入れる指導の工夫を通して、互いの良さや努力を理解し合える自己存在感を高めていきたい。

(2) 共感的な人間関係について

児童は、自分の行動や態度が友達にどのように受け入れられるかの経験を重ねなが

ら，対人関係の基礎を学んでいく。体育の学習で協力し合う活動を通して，友達がどんな立場で，何を考え，自分に何を期待しているか察知できるようになるなど，友達への思いやりの気持ちをもち，相手の立場に立って考え行動しようとする態度を育成したい。

### (3) 自己決定について

高学年になると，自分とは何か，自分にはどんな特徴があるかなど，自己への理解が深まる時期である。そこで，体育の学習において使用する学習資料の工夫により，児童が自己に適した課題をもてるように援助し，さらに自己決定した課題解決のための練習方法を選択する場を設定することによって，自己決定した課題の解決に向け，責任をもって取り組んでいく態度を育成したい。

## 3 実践内容

### (1) 指導計画と自己指導能力を高める具体的な手だて

実践にあたっては，教科本来の目標を達成することを考えなければならない。図1のように，6時間のマット運動の授業では，今できる技のできばえを高める「めあて1」の活動と，できるようになりたい技やできそうな技を練習する「めあて2」の活動が1時間の主な活動なる。

まず，「めあて1」の活動において，児童の自己決定を援助する学習資料の作成をし，主体的に学習できるようにした。

次に，「めあて2」の活動では，支え合う体験を重視した練習法を取り入れた自己存在感を高める実践と，認め励まし合える共感的な人間関係の育成を目指した学習ノートの活用を実践した。

### (2) 自己存在感を高めるための実践

マット運動で，運動が苦手な児童でも安全に練習の補助ができ，互いに支え合っている体験ができるタオルを使った練習方法を積極的に学習資料で紹介した。そして，他学年の学習での活用や教師間の情報の共有を図るため，体育館内に学習終了後も掲示し，教科での校内支援体制を機能させようと考えた。

この練習では，友達の体の動きに合わせてタオルの位置を変えたり，引き上げる力の加減を考えたりするなど，練習の補助を通して互いに支え合う体験ができる。その体験から自分が練習で重要な役割を果たしていると感じられるようにした。

また，マット運動のいろいろな技の練習に応用でき，技能の向上も図ることができ

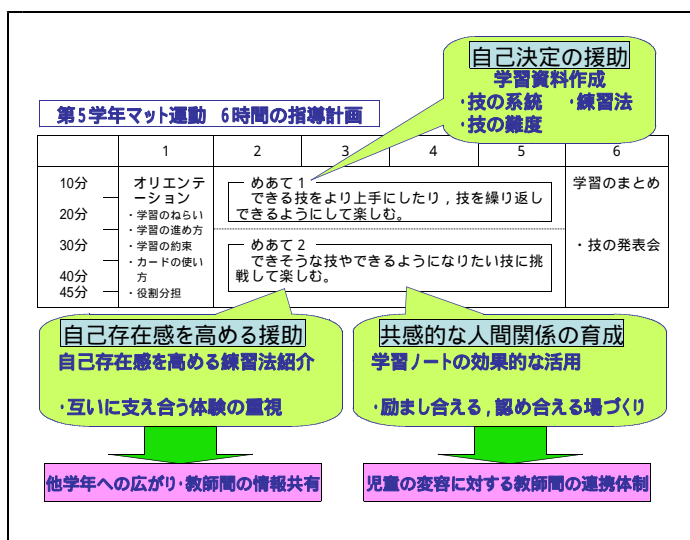


図1 指導計画と具体的な手だて

た。(資料1)

(3) 共感的な人間関係を育成するための実践

授業では学習カードを使用し、生徒指導の3機能の振り返りの場を設け、児童の意識化を図った。(資料2) 特に努力した友達への励ましの言葉、練習を手伝ってくれたことへの感謝の言葉を記入する欄を作り、児童がコメントを読み合い、共感し合える場を設定した。また、教師も毎時間ノートに目を通し、他者とのかわりを意識させるコメント記入を心掛けた。そして、児童のノートへの記入内容はもちろん、励ましの言葉による学習意欲の向上や、友達の良さに気付いた様子などは、他教科担任や委員会クラブ担当、特別支援担当と直接連絡を取る体制で指導・援助を進めた。

(4) 自己決定の場を多くする実践

本学級の技能の実態に合わせ、めあてとする技の一覧表を教師が作成し、児童が主体的に課題設定できるようにした。作成にあたっては、技の系統や難度をとらえやすくし、自己の技能にあった技が選び出しやすいようにした。(資料3)

技の練習では、小学校5年生で目標とする技の段階的な練習方法を自分で考えることは難しいと考え、茨城県学校体育実技資料を編集した掲示物を作成し、体育館に掲示した。いつでも見たいときに資料を見ることができ、技ごとの練習方法をイラストでとらえ、練習の仕方をイメージできるようにし最後まであきらめずに練習できるよう援助した。

(資料4)

資料1 3人組でタオルを使って補助する練習



資料2 マット運動学習カード

6月8日(金) きょうのめあて **みんなとアドバイスなどきこうかか合はから練習する**

活動のふりかえり (〇-とてもよくできた、○-できた、△-できなかった)

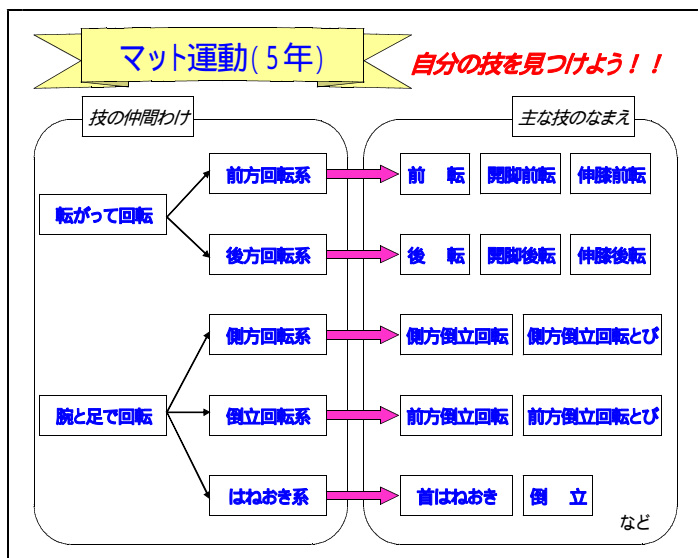
① みんなで協力し、ほげましあって活動できましたか。	◎
② 友だちと教え合ったり、補助し合ったりして活動が工夫できましたか。	◎
③ 技がじょうずにできるようにになりましたか。	◎
④ 楽しく学習できましたか。	◎
⑤ 協力して活動し、お互いの良さを感じながら活動できた。	◎
⑥ 自分の課題の技ができるようになるために、工夫して練習できた。	◎
⑦ 友だちの立場になって考え、意見を聞いたり、練習を手伝ったりできた。	◎

エネルギータンク (友だちへてあそびを...)

マットを(お)ぎょうまくおま(お)ぎょう  
前(お)ぎょう(お)ぎょうは(お)ぎょう(お)ぎょう  
(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう

先生から  
練習のめあてに協力して  
おぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう  
おぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう  
おぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう  
おぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう(お)ぎょう

資料3 マット運動技の一覧表



(5) 個に応じた指導・援助が必要な児童について

授業実践にあたっては、特に事前アンケートで「自分のよいところが分からない」と回答したA子、「学校がまったく楽しくない」と回答し、日頃の生活の様子や体育の授業においても自己中心的な活動が多く見られるB男には、積極的な声かけをした。さらに、人から認められることが励みになると考え、学習カードにも友達が協力してもらったことへの感謝の思いを持っていることや、練習を手伝ってもらい感謝している友達の存在などを多く記入するようにし、援助を進めた。

資料4 技の練習方法を紹介した掲示物



4 結果と考察

(1) 自己存在感について

「先生や友だちは、あなたのがんばりを分かってくれますか。」の項目で、「よくあてはまる」と回答した児童が74.1%（20人）となり、児童の意識が向上した(図2)。これは、練習の補助をしながら、声をかけたり、かけられたりする体験が多くできたためと考える。

自己存在感に関するすべての項目において、「よくあてはまる」、「すこしあてはまる」の回答が増加したことから、集団における自己の役割を強く感じるようになったのではないだろうか。

掲示資料は、他学年児童も関心を持って見ていたことから、資料作成を工夫し、共有できる環境づくりは校内支援体制に必要であると感じた。

(2) 共感的な人間関係について

共感的な人間関係に関するアンケートのすべての項目において、「よくあてはまる」の回答が増加した(図3)。これは、学習カードの振り返りで、友達と互いに努力を認め合い、励まし合うコメントの記入により、児童同士が共感し合えるようになったためと考える。

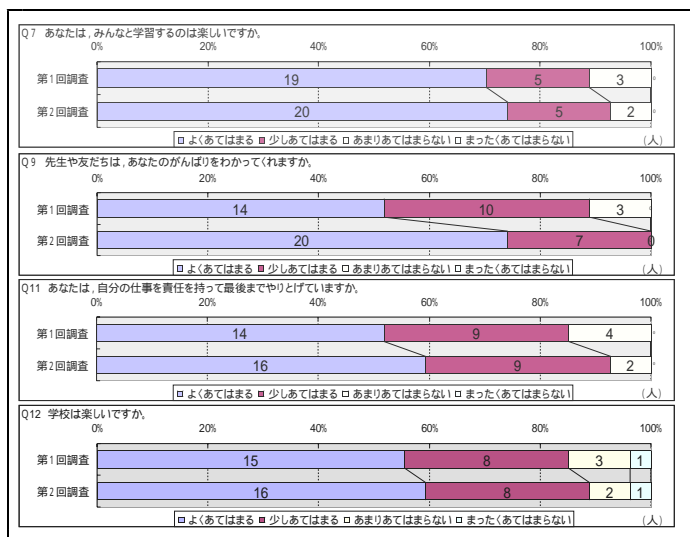


図2 自己存在感に関する実態調査

下妻市立鷹波ノ江小学校5年1組 27人(第1回5月22日 第2回6月10日 実施)

特に事前調査で全調査項目中「よくあてはまる」の回答が18.5% (5人)と最も少なかった問5において、29.6% (8人)と増加し、まったくあてはまらないと感じている児童がいなくなったことから、全児童の意識の向上が感じられた。

また、「友だちと協力して学習している。」という回答が74.1% (20人)と大きく増加した。これは、体育科の目標を、生徒指導の機能を意識して実践したことで、一層効果があがったと思われる。活動で他者とのかわりができる体育科の学習は、児童の共感性を高めるのに効果的であったと考える。そして、友達の言葉掛けで自分の技に自信を持ち、技能を高める意欲が増した児童については、特別支援担当とすぐに連携し、友達関係を広めていくための校内支援体制を築くことができた。

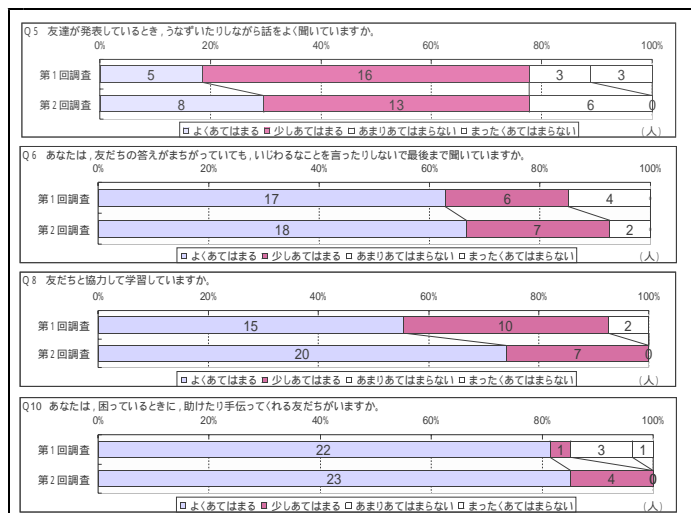


図3 共感的人間関係に関する実態調査

下妻市立鷹波ノ江小学校5年1組 27人(第1回5月22日 第2回6月10日 実施)

(3) 自己決定について

自己決定に関するアンケートでは、「興味や関心をもち、自分から進んで学習に取り組んでいる。」と回答した児童が66.6% (18人)と大きく増加した(図4)。これは、自分で決めたマット運動の技を、自分で選んだ練習方法で一所懸命練習したことにより、自己決定したことに責任をもって取り組む経験として感じる事ができたためと思われる。

しかし、「自分の考えを、みんなの前で発表している。」の項目では、「あてはまる」と回答している児童が減少している。これは、グループでの話し合いの仕方や、グループのリーダーとなる児童への支援が十分でなかったことによって、話し合いが活性化できなかったためであると考えられるので、今後の課題としたい。

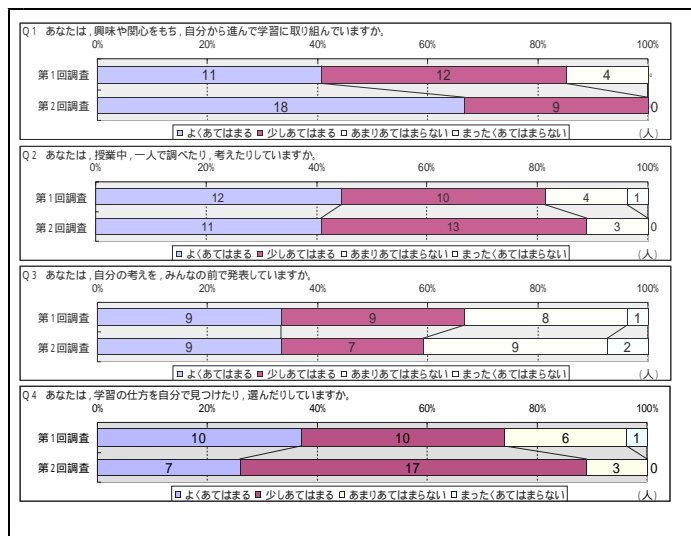


図4 自己決定に関する実態調査

下妻市立鷹波ノ江小学校5年1組 27人(第1回5月22日 第2回6月10日 実施)

(4) 授業中における抽出児の様子について

表1から、A子が授業での取組を通して、友達から認められる体験、友達を認めてあげる体験ができたことが分かる。技のできばえを友達に見てもらおうとしたこと、友達に声を掛けられ笑顔になったことなどから、互いに認め合える体験が活動の励みになったと考えられる。特に、友達の努力を認めるコメントを記入したり、適切なアドバイス

をしたりしたことは、他者への関心が薄いA子が、相手の立場をよく理解できるようになっていると考えられる。

B男は、女子の練習には無関心な様子を見せるなど、本時も自己中心的な傾向が見られたが、自分の課題に向けての練習は資料を活用するなど積極的であった。他者への関心が向くように担任がアドバイスしたが、それらを素直に聞き、練習の補助を協力して行うことができた。意識して声をかけることで、B男には効果があったようである。

生徒指導の3機能について、2人のアンケートの回答に意識の向上が見られたことから、援助が必要な児童ほど、友達と接する体験を意図的に多くすることで、自己指導能力を高められると考えることができる。

**表1 抽出児の変容(第4時)と自己指導能力別アンケートの回答合計値の変化**

育てたい自己指導能力	A 子	合計値	B 男	合計値
自己存在感に関すること ・互いの良さを理解し、安心した雰囲気での学習。	・話し合い後、笑顔で練習に取り組む。友達から「すごい、できた」と声をかけられ、笑顔が見られた。	前15 後16	・笑顔で練習に取り組む。担任の声かけをうなずいて聞く。協力して補助し、笑顔で活動できた。	前8 後9
共感的な人間関係に関すること ・思いやりの気持ちで、相手の立場になって考え、行動する。	・「頭をつけた方がいいよ」と友達に声をかけて補助する。友達へ「一生懸命がんばっていました」とコメントを書いてあげた。	前10 後12	・苦手な児童を冷やかし、友達の練習を見ない様子。男子にはアドバイスするが、女子の練習には無関心な様子が見られた。	前10 後11
自己決定に関すること ・学習の課題を見つけ、解決しようと努力する。	・めあてをすぐに決めた。側転の練習で、技のできばえを確認して欲しいと友達に頼む。	前7 後10	・班のみんなに指示をし、めあてをすぐ記入できた。練習の仕方を掲示資料で確認し、練習に取り組む。	前8 後9

**資料5 ふりかえりの様子**

(5) 実践のまとめ

授業中の児童の表情に、グループでの役割意識を感じている様子や、明るく友達と話す様子が多く見られたことから、児童相互の人間関係がよりよいものに変化したのを感じた。これらのことから、生徒指導の三つの機能を意識した具体的な手だてにより、教科指導における自己指導能力の育成を図ることができると強く感じた。



今回の実践では、授業中の様子を本校体育部員の協力により記録をとり、教科目標と違った生徒指導の3機能別の視点で指導・援助の効果を振り返ることができた。このようなことから、体育の学習においては、複数の教師が指導にあたるチームティーチングの進め方が校内支援体制に生かせるのではないかと思う。

これらの体育の学習を通じた取組から、より効果的な指導をするための校内支援体制として次の点が重要であると考える。

教科指導において、児童生徒の主体的な学びの場にするために、学年間の内容の系統性・継続性をとらえ、生徒指導の機能を生かした指導・援助が進められること。

- ・ 何年生が何を、どのように学習しているか全職員に分かるような掲示物作成や資料作成を工夫する。 (作成資料の共有化・情報の共有化 など)

児童の発達段階別の自己指導能力について職員の研修を充実させ、生徒指導の機能について、それぞれ育てたい力を明確にし、個を重視した指導を進めること。

- ・ 発達段階をとらえ、児童の様子を他教科担当職員、特別支援担当等と連絡し合う機会を確保する。 (研修の実施・特別支援担当との連携 など)

集団活動の場を増やし、教科目標だけでなく、生徒指導の機能を意識したチームティーチングの進め方について研修を進めること。

- ・ 特に小学校の集団活動では、異年齢集団活動(縦割り班)での校内支援体制を進める。 (チームティーチングの実践と研修 など)

## 【参考資料】学習指導案(第4時)

### 第5学年1組 体育科学習指導案

研究主題	思いやりの気持ちを持ち、互いに認め励まし合う児童の育成を目指す体育科指導の在り方
------	--

#### 1 単元名 器械運動(マット運動)

#### 2 目標

- (1) 自分に合った課題を決め、みんなで協力したり励まし合ったりしながら、挑戦した技ができるようになった喜びを味わおうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自分の課題や友達の課題を解決するための練習の仕方を工夫したり、友達と教え合ったり補助し合ったりして練習することができる。 (思考・判断)
- (3) できる技の技能を高めたり、新しい技に挑戦してできるようになったりして、マット運動を楽しむことができる。 (技能)

#### 3 育てたい自己指導能力

##### (1) 自己存在感

5年生になると、集団としてのまとまりができるようになり、集団で自発的な組織活動ができるようになる。これらの活動を通して、互いの良さがわかり、自分らしさを理解できるようにしたい。

##### (2) 共感的な人間関係

児童は、自分の行動や態度が友達にどのように受け入れられるかの経験を重ねながら、対人関係の基礎を学んでいく。協力し合う活動を通して、友達がどんな立場で、何を考え、自分に何を期待しているか察知できるようになるなど、友達への思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする態度を育成したい。



(3) 自己決定

高学年になると、自分とは何か、自分にはどんな特徴があるかなど、自己への理解が深まる時期である。これらのことから、自己に適した課題をもって、その解決に向かって努力する態度を育成したい。

4 自己指導能力に関する実態（平成19年5月22日実施 第5学年 男子12名 女子15名 計27名）

(1) 自己存在感

「すこしあてはまる」まで含めると、多くの児童（88.9%）が「みんなと学習することが楽しい。」「自分のがんばりを先生や友だちがわかってくれる。」と感じている。しかし、自己存在感に関する実態調査項目の中で、「学校が楽しくない。」と回答した児童もいる。

(2) 共感的な人間関係

92.6%の児童が友達と協力して学習を進めていると回答している。また、「困っているときに、助けたり手伝ってくれる友だちがいる。」と回答している23名のうち22名は、「とてもあてはまる」と回答しており、特定の仲の良い友達とのかかわりの深さを感じる。しかし、「友だちが発表しているとき、うなずいたりしながら話をよく聞いていますか。」では、「とてもあてはまる」と回答した児童が5名しかなく、児童全員の合計ポイントも調査中最低であった。誰に対しても同じように接することが苦手な実態が感じられた。また、全くあてはまらないと回答した児童も見られた。

(3) 自己決定

「自分の考えをみんなの前で発表していますか。」「学習の仕方を自分で見つけたら、選んだりしていますか。」で、あてはまると回答した児童はそれぞれ66.6%、74.1%であったが、「とてもあてはまる」という回答が少ない。

5 自己指導能力を育てる手だて

(1) 自己存在感

実態調査から、友達や教師とのかかわりに前向きな姿勢の児童が多いことがうかがえる。そこで、体育の学習において、互いの良さや努力を理解し合える異質グループをつくり、友達による補助を必要とした練習を取り入れ、自己存在感を感じることができるようになりたい。

(2) 共感的な人間関係

教えてあげる言葉掛け、やさしさを感じる言葉掛け、励ましの言葉掛けなどをその場で大きく取り上げ、その行動を認め励ます。また、児童が友達の学習ノートに励ましのコメントを書く欄を設ける。教師も毎時間、ノートにコメントを記入する。

(3) 自己決定

自分の課題とする技を自分で決め、その練習方法を資料の中から自分で選び、グループでどのように練習を進めていくか話し合うようにする。

6 学習計画（本時は第4時）

	1	2	3		5	6時
10分 — 20分 — 30分 — 40分 — 45分	オリエンテーション ・学習のねらい ・学習の進め方 ・学習の約束 ・カードの使い方 ・役割分担	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     めあて1 _____                      できる技をより上手にしたり，技を繰り返してできるようにして楽しむ。                 </div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     めあて2 _____                      できそうな技やできるようになりたい技に挑戦して楽しむ。                 </div>				学習のまとめ  ・技の発表会

7 評価計画

観点	評価規準	評価場面	評価方法
関心・意欲・態度	学習の進め方を知り，進んで運動に取り組もうとしている。 めあての達成のため，根気強く練習に取り組んでいる。  互いに励まし合ったり，協力して練習ができる。 用具の安全に注意し，運動ができる。	授業全般 練習  練習 授業全般	観察 観察 学習カード 観察 観察
思考・判断	自分にあった課題を決めることができる。  練習の場を工夫したり，教え合ったりしながら練習ができる。 学習資料を活用し，練習に生かしている。 できばえを確かめながら練習できる。	話し合い 練習 練習 練習 話し合い	観察 学習カード 観察 観察 学習カード
技能	自分の力にあった技を安定した動作で，正確にできる。  新しい技ができる。	練習  練習 発表会	観察 学習カード 観察 学習カード

評価の時間	単元の流れ 観点 時間	オリエンテーション	めあて1					6
			2	3	4	5		
運動に対する関心・意欲・態度		1	2	3	4	5	6	
運動に対する思考・判断								
運動の技能								

8 本時の指導

(1) 目標

互いに励まし合ったり，協力し合って練習に取り組むことができる。

（関心・意欲・態度）

練習の場を工夫したり，教え合ったりしながら練習ができる。

( 思考・判断 )

(2) 準備・資料

学習カード，技の掲示資料，踏切板，マット，セーフティーマット，補助用タオル，木箱

(3) 展開 ( 存 自己存在感 ・ 共 共感的人間関係の育成 ・ 決 自己決定の場 )

学 習 活 動 ・ 内 容	支 援 ・ 留 意 点 と 評 価 の 視 点
<p>1 本時のめあてを確認し，準備運動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて1 _____</p> <p>できる技をより上手にしたり，技を繰り返してできるようにして楽しむ。</p> </div> <p>2 グループ別の場を設定し，今できる技のできばえを高める練習をする。</p> <p>( 予想される技 )</p> <p>(1) 前転・後転</p> <p>(2) 開脚前転・開脚後転</p> <p>(3) 側方倒立回転                      など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて2 _____</p> <p>できそうな技やできるようになりたい技に挑戦して楽しむ。</p> </div> <p>3 自分が選んだできそうな技や上手になりたい技の練習の仕方について話し合う。</p> <p>4 お互いの技のできばえを見合いながら，協力して練習をする。</p> <p>( 予想される跳び方 )</p> <p>(1) 開脚前転・開脚後転</p>	<p>グループごとに準備運動をし，自己の役割意識を高めるようにさせたい。</p> <p>練習の場が安全か確認するとともに，一人一人の様子を細かく観察し，健康チェックをする。</p> <p>資料で自分の技のポイントを確認し，主体的に活動できるようにする。</p> <p>やさしい技から入り，体を慣れさせてから難しい技へと入っていくようにさせる。</p> <p>できる技のできばえを見合いながら，互いに練習の場を譲り合い練習する。</p> <p>抽出児A男に対しては，他の児童の様子を見て気付いたことを教えてあげるよう促し，他者への関心を高めるようにする。</p> <p>⑤ 互いに励まし合い，協力し合って練習に取り組むことができる。</p> <p style="text-align: right;">( 観察・学習カード )</p> <p>児童に，用具や場の安全性についての再確認をし，けがの防止に努める。</p> <p>決 挑戦する技，練習方法を資料から自分で選び，決定する。</p> <p>友だちの考えを聞き，どのような場を作ればよいか，お互いの考えを聞いて準備する。</p> <p>存 練習の補助を交互に行わせ，友だちの練習の大切な役割を果たしていることを感じさせたい。</p> <p>共 学習ノートに，友だちへの励ましのコメ</p>

- (2) 伸膝前転・伸膝後転
- (3) 側方倒立回転・前方倒立回転
- (4) 前方倒立回転とび など

5 学習のまとめをする。

ント欄を設け、努力を認め合いながら練習できるようにしたい。

⑨ 練習の場を工夫したり、教え合ったりしながら練習できる。 (観察)

自分のめあてが達成できたかどうかを学習カードを使って振り返らせる。


〈参考資料〉活用した学習カード

## マット運動学習カード


月 日( ) きょうのめあて


**活動のふりかえり** ( ...とてもよくできた ...できた ...できなかった)

みんなで協力し、はげましあって活動できましたか。(関・意・態)	
友だちと教え合ったり、補助し合ったりして活動を工夫できましたか。(思考)	
技がじょうずにできるようになりましたか。(技)	
楽しく学習できましたか。(技)	
協力して活動し、お互いの良さを感じながら活動できた。(存)	
自分の課題の技ができるようになるために、工夫して練習できた。(決)	
友だちの立場になって考え、意見を聞いたり、練習を手伝ったりできた。(共)	



**エネルギータンク** (友だちへエネルギーを)





**励まし・感謝のコメント**

先生から

教師のコメント

- 58 -

【参考資料】 自己決定の援助に活用したマット運動学習資料の一部

**前転** ★手を柄杓位置が足先に近づきすぎないようにする。



ゆりかご立ち



足の踏け出しに合わせて素早く体を起こす。

板を利用した前転



マットの下に密着板を入れてやっている。

**開脚前転** ★手を体の近くにつき、体重を前にかける。



足差を使った立ち上がり



マットの中心を踏で盛り上げる。


板を利用した開脚前転




マットの下に密着板を入れてやっている。

3人組の練習

**側方倒立回転** ★足のふり上げをスピーディーに。




手・足の運び方の練習




順番に手足をおいてみる。

立ち上がりの練習




ふり上げた足を横向きに変えて立つ。

補助がついて




2人組の練習

**首はねおき** ★体をそるタイミングをつかむ。




ブリッジから立つ



補助は、肩と腰をささえる。

3人組での練習



「いち、に、さん」で合わせる。  
補助は最後まで力をぬかない。

【研究4】 生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方  
～職場体験学習に向けての様々な活動や取組を通して～

1 生徒の実態

事前の「生徒指導に関するアンケート」による実態調査(第2学年117人,平成19年6月1日実施)から,次のようなことが分かった。また,調査項目の結果は,下の表のようなものであった。

表1 事前調査結果

(1) 自己存在感に関する項目

「学校が好きだ」と答えている生徒が80%を占め,「友だちと勉強することが楽しい」と答えている生徒も74%おり,学校で友達と楽しく学習するなど,校内で友達との交流に満足している生徒が多い。しかし,「先生や友だちの役に立った」と感じている生徒は52%にとどまり,「先生や友だちががんばりを認められている」と感じている生徒も47%にすぎない。このように,友達との交流に対する満足感ほど,自分自身の有用感や周囲からの評価については高くとらえていないという実態がある。

自己存在感に関する項目	事前
・学校が好きか。	80%
・友だちと勉強することが楽しいか。	74%
・先生や友だちの役に立ったと感じているか。	52%
・先生や友だちががんばりを認められているか。	47%
共感的な人間関係に関する項目	
・困っている時に助けてくれる友だちがいるか。	94%
・友だちの良さを認めて,協力して学習しているか。	77%
・友だちが失敗してもからかったりせず,はげますようにしているか。	82%
・友だちが発表している時はうなずきながら聞いているか。	47%
自己決定に関する項目	
・自ら進んで学習に取り組んでいるか。	64%
・授業中1人で調べたり,考えたりしているか。	75%
・学習方法を自分で見つけたり,選んだりしているか。	52%
・自分の考えを友だちの前で進んで発表しているか。	36%

(2) 共感的な人間関係に関する項目

「友だちが失敗してもからかったりせず,励ますようにしている」と答えている生徒が82%おり,「友だちの良さを認めて,協力して学習している」と答えている生徒も77%いる。また,「困っている時に助けてくれる友だちがいる」と答えた生徒は94%にも及ぶ。このように友達には気遣いや思いやりのある態度で接しており,おおむね共感的な人間関係はできている。しかし,友達が発表している時にうなずきながら聞いていると答えた生徒は47%にとどまり,授業中で面と向かっていない場合には,うなずくことまではしないという現代っ子らしい一面もうかがわれる。

(3) 自己決定に関する項目

「自ら進んで学習に取り組んでいる」と答えている生徒が64%おり,「授業中1人で調べたり,考えたりしている」と答えた生徒も75%いる。このように学習に対しては多くの生徒が積極的に取り組んでいる。しかし,「自分の考えを友だちの前で進んで発表している」と答えた生徒は36%にとどまり,人前で自分の意見をはっきり伝えることに自信のない生徒が多くいる。

(4) 抽出生徒の実態

男子生徒A

ア 自己存在感に関する項目

「学校が好きか」の答えが「まったくあてはまらない」など,この4項目の答えがすべて「まっ

たくあてはまらない」であった。

イ 共感的な人間関係に関する項目

「友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしているか」の答えが「よくあてはまる」であり、「友だちの良さを認めて、協力して学習しているか」の答えが「すこしあてはまる」であったが、他の2項目の答えは「まったくあてはまらない」であった。

ウ 自己決定に関する項目

「授業中一人で調べたり、考えたりしているか」の答えが「あまりあてはまらない」以外は、「まったくあてはまらない」であった。

エ 自分自身に関する項目

「礼儀やマナーに気をつけているか」の答えが「よくあてはまる」以外は、「まったくあてはまらない」を選択している。

このように事前調査の結果では、19項目中15項目に「まったくあてはまらない」と答えている。けっして不まじめな生徒ではなく、表面的には落ち着いたまじめな学校生活を送っている。しかし、内面では友達との交流も満足できないものであり、学習への取組でも積極的に取り組んでいないととらえていることが分かる。これらのことから、自己有用感も低く、学校も好きではないと感じていると考えられる。普段の生活の様子からは、大変おとなしい性格であり、交友関係も狭いという実態がある。また、家庭環境も複雑であり、家庭の事情で学校を休むことがある。

女子生徒B

ア 自己存在感に関する項目

「先生や友だちの役に立ったと感じることがあるか」の答えが「まったくあてはまらない」であり、「先生や友だちにがんばりを認められているか」など他の3項目が「すこしあてはまる」であった。

イ 共感的な人間関係に関する項目

「友だちが発表している時はうなずきながら聞いているか」と「友だちの良さを認めて、協力して学習をしているか」は「よくあてはまる」である。しかし、「友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしているか」と「困っているときに助けてくれる友だちがいるか」の答えが「まったくあてはまらない」であった。

ウ 自己決定に関する項目

「興味や関心をもち、自分から進んで学習に取り組んでいるか」の答えが「すこしあてはまる」以外は、「あまりあてはまらない」であった。

エ 自分自身に関する項目

「自分のことが好きか」、「自分の良いところがわかるか」、「自分の良いところをもっと伸ばそうとしているか」の答えが「まったくあてはまらない」を選択している。

このように事前調査の結果の中で、友達や先生に自分のがんばりをある程度認められていると感じながらも自己有用感が低かったことや、友達の良さを認め協力して学習しているとしながら自分が困っているとき助けてくれる友達がいないと感じているなど、矛盾点が見られた。また、自分自身に対する評価も大変低いものであった。学校では問題行動はないが、交友関係は狭い。大人とはよく話しているが、同世代の仲間とのコミュニケーションが上手ではないという実態がある。

## 2 高めたい自己指導能力

上記のような生徒の実態から、本校生徒にとって不十分であるにとらえられたり、さらに伸ばしていきたいと考えられる自己指導能力について、「職場体験学習を成功させよう」という職場体験学習の事前指導の中で、次のような手だてで取り組んでみた。

### (1) 自己存在感について

職業調べ、事業所調べの成果を発表するなどの場面やグループ活動において積極的に活動している場面などを意図的に取り上げ、賞賛することを通して、自己存在感を高めるようにしていきたい。

キャリア・アドバイザー教室において、自分にとって興味・関心のある職業についての話を聞いたり、質問したりすることを通して、自分の将来の職業を思い描き、職業についての関心・意欲を高めるようにしたい。

自分にとって興味・関心がある職業を調べる活動や適性検査の結果を吟味することを通して、自分自身の良さや個性が分かるようにしたい。

### (2) 共感的な人間関係について

体験する事業所を調べたり、事業所を訪問したりするグループ活動を通して、リーダーを中心に、互いに支え合いながら活動しようとする態度を育てたい。

同じ事業所で体験する友達と一緒に事業所を訪問する活動を通して、事業所の方に配慮しながらも、積極的に人間関係を築いていこうとする態度を育てたい。

### (3) 自己決定について

職業調べや事業所調べの内容を発表するなどの場面において、発表内容を明確化したり、友達の発表を静かに聞けるように配慮したりして、個々の生徒が安心して発表できるようにすることを通して、人前で自信をもって発表できるようにしていきたい。

職業調べや適性検査の結果、キャリア・アドバイザー教室での学習を総合し、体験する事業所を決定する活動を通して、よりよい選択をしようとする態度を育てたい。

## 3 実践内容

### (1) 授業実践

単元名 職場体験学習を成功させよう

目標

ア 職業調べや事業所調べ、事業所への訪問など、様々な活動を友達と協力して意欲的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)

イ 職業調べや適性検査の結果、キャリア・アドバイザー教室での学習を総合的に判断し、自分自身の良さや適性が分かり、体験する事業所を決定することができる。 (思考・判断)

ウ 自分の興味・関心がある職業や体験する事業所について調べたことを分かりやすくまとめ、人前で自信をもって発表できる。 (技能・表現)

エ 事業所と連絡を取り合う際の電話のかけ方や、事業所でのマナーについて理解することができる。 (知識・理解)



## 学習計画

第1次 職場体験学習について知ろう（オリエンテーション） 2時間

第2次 体験したい職業について調べよう 5時間

時	学 習 内 容	評 価			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	適性検査を受けよう				
2	職業について調べよう				
3					
4	その道のプロの話を聞こう				
5	〔キャリア・アドバイザー教室〕(授業実践1)				

第3次 体験する事業所について調べよう 2時間

時	学 習 内 容	評 価			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	体験する事業所を決定しよう				
2	体験先の事業所を調べよう（授業実践2）				

第4次 体験する事業所に打ち合わせに行こう 4時間

第5次 体験学習の最終チェックをしよう 2時間

### (2) 授業実践1〔キャリア・アドバイザー教室〕

高めたい自己指導能力

自己存在感について、自分にとって興味・関心のある職業についての話を聞いたり、質問したりすることを通して、将来の職業を思い描き、職業についての関心・意欲を高めるようにしたい。

ねらい

様々な職業についている人から、働くことの意義や仕事の内容について直接聞くことで、正しい職業観や勤労観を養うとともに、将来の生き方に目を向ける機会とする。

実施方法

ア 講師の職業は、例年の職場体験学習で希望の多い職種、本年度の2年生の生徒の希望の多い職種から11の職業を選定した。

講師の職種 - 保育士，美容師，薬剤師，京染め師，獣医師，看護師，スポーツインストラクター，レストラン勤務，園芸（蘭づくり），自転車整備，介護福祉士

イ それぞれの講師には2回講話をしてもらうことで、生徒は二つの聞いてみたい職業の講話を聞くことができるようにした。

講話の主な内容 - 仕事の内容，仕事についての動機，必要な資格，仕事をしていく上での苦労や喜び，中学生へのメッセージ

資料1 講師の話を熱心に聞く生徒



生徒の感想から

ア 2年女子生徒【講話を聞いた講師 - 保育士・レストラン勤務】

あらためて仕事って大変なんだと思った。職場体験学習ではどの職場に行っても、人に迷惑をかけないようにし、精一杯やってきたいと思う。

イ 2年男子生徒【講話を聞いた講師 - 自転車整備・スポーツインストラクター】

どんな職業でも人と人とのつき合いが大切なんだということが心に残った。職場体験学習では、仕事を積極的にやり、人の役に立ちたい。

ウ 2年女子生徒【講話を聞いた講師 - 保育士・レストラン勤務】

レストランで仕事をしていて、できるだけきてくれたお客さんの願いをかなえることが大事なことであるということが分かった。

エ 2年男子生徒【講話を聞いた講師 - 介護福祉士・自転車整備】

介護福祉士の人が、仕事をする喜びは「感謝されること」であり、どんな仕事でもお客さんがいないと成り立たないと言っていた。自分にとって興味がある仕事なので、これからもっと調べていきたい。

オ 2年女子生徒【講話を聞いた講師 - 看護師・保育士】

看護師の人が、入院している人の話し相手にもなると言っていた。わたしにとって小さい頃からなりたいたいと思っていた仕事だったが、その気持ちがより大きくなった。

### (3) 授業実践2〔体験先の事業所を調べよう〕

高めたい自己指導能力

ア 自己存在感について

自分にとって興味・関心がある職業を調べる活動を通して、自分自身の良さや個性がわかるようにしたい。

イ 共感的な人間関係について

体験する事業所を調べる活動を通して、リーダーを中心にして、互いに支え合いながら活動しようとする態度を育てたい。

ウ 自己決定について

事業所調べの内容を発表する場面において、発表内容を明確化したり、友達の発表を静かに聞けるように配慮する。個々の生徒が安心して発表できるようにすることを通して、人前で自信をもって発表できるようにしていきたい。

目標

ア 収集した資料等を有効に活用し、体験先の事業所の所在や業務内容を調べるとともに、事業所との打ち合わせの際に質問したい事項を考えることができる。


イ 一緒に体験する友達と体験先の事業所について調べることで、職場体験学習への意欲をより高めることができる。

準備・資料

・各事業所についての資料 ・地図 ・ワークシート ・短冊 ・トライアルハンドブック

展開

( ㊦ : 自己存在感, ㊦ : 共感的人間関係の育成, ㊦ : 自己決定 )

学 習 活 動 ・ 内 容	支援・留意点と評価の視点
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>体験する事業所を調べよう。</p> </div> <p>2 体験する事業所について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所名 ・ 事業所の所在地</li> <li>・ 事業所までの交通手段と経路, 所要時間</li> <li>・ 業務内容 ・ 打ち合わせの際の質問事項</li> <li>・ 体験学習の目標と心構え</li> </ul> <p style="text-align: center;">資料2 グループでの話し合い活動</p>  <p>3 グループごとに調べたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所ごとのグループでの最初の活動となるので, 簡単に自己紹介をした後, 班長を決める。1人の事業所の場合も, 他の事業所と調べ学習のグループとして編成し, 1人だけで活動することがないように配慮する。</li> <li>・ 数人が体験する事業所を発表した後, その中の一つの事業所の写真を提示し, 本時の学習課題を伝える。このことで, 本時の活動に意欲をもって取り組めるようにしたい。</li> <li>・ 調べる項目が記入されているワークシートを使い, 効率的に調べることができるようにする。</li> <li>・ 次時には「事業所との打ち合わせ内容を確認する」ことを伝え, 打ち合わせの際に質問したいことや確認したいことも考えておくように話す。また, 体験学習を行うにあたっての目標や心構えを考えることで, 職場体験学習に向けての関心・意欲をより高めるようにしたい。</li> <li>㊦ グループで協力しながら調べる活動が進められるように支援する。特に, 班長には作業が遅れがちな友達に協力するように声をかけるようにする。</li> <li>㊦ 各項目もれなく調べられている場合には, 十分満足できる状況として評価する。 (資料・観察)</li> <li>・ 各グループの代表者には, 調べた項目ごとの順番に従って発表するように伝え, 安心して発表できるようにする。</li> <li>㊦ 発表する事項はあらかじめグループでまとめたものを短冊に書き黒板に貼っておくようにする。また, 発表を聞く場合には, 静かな環境で発表者が発言しやすいようにしていこうと呼びかける。</li> <li>㊦ 各グループの発表ごとに教師が良い点をあげ全員で賞賛の拍手を送ることで, 本時の活動が周囲から評価されているという実感が感じられるようにする。</li> <li>㊦ 教室全体に聞こえるように配慮しながら発表</li> </ul>

<p>4 本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>事業所との打ち合わせ内容を確認しよう。</p> </div>	<p>している場合には、十分満足できる状況として評価する。 (観察)</p> <p>・本時の活動で調べたことを基にして、次時は、「事業所との打ち合わせ内容を確認する。」という活動することを伝え、意欲をもって次の課題にも取り組めるようにしたい。</p>
--	---

抽出生徒の様子

学習の流れ 教師の動き・発問等	抽 出 生 徒 の 様 子	
	男子生徒A	女子生徒B
<p>1 課題を提示する。 「ワークシートなど出 ていますか。」 ・課題を黒板に貼る。</p> <p>2 事業所について調べる。 「職場体験学習ででき るようになりたいことや 打ち合わせの時に確認し たいことを各自書き出し てみよう。」</p> <p>「グループで意見交換 しましょう。」</p> <p>「書き出した内容をグ ループ内でまとめ、短冊 に書くようにしてくださ</p>	<p>・ワークシート、トライアル・ハ ンドブックを出す。</p> <p>・ワークシートに次の事項を書き 出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>できるようになりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとうまく接するようになりたい。</li> <li>・子どもの気持ちになれること。</li> <li>・子どもとうまく遊べるようになりたい。</li> <li>・子どもと楽しく時間を過ごしたい。</li> <li>・あいさつをできるようになりたい。</li> <li>・ぜったいにおこらない。</li> <li>・いけないことをしたら注意する。</li> <li>・いじめたりしない。</li> <li>・協力できるようにする。</li> </ul> <p>できるようになりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと遊ぶ。 ・いけないときはおこる。</li> </ul> <p>打ち合わせの時に確認したいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと接する時の注意</li> <li>・持ち物、仕事の内容、集合場所</li> </ul> </div> <p>・記録係として、一人一人の考え を記録していた。</p> <p>・自分の考えを発表した。 「子どもとうまく接するよう になりたい。」</p> <p>・グループの考えを決定する際 にうなずいて意志を示していた。</p> <p>・記録係として 短冊に記入した。</p> <p>・班長から「子どもとの接し方 にしたいんですか。」と聞かれ、</p>	<p>・顔を上げて、先生の話聞いて いる。</p> <p>・ワークシートに次の事項を書き 出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>できるようになりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所の人の話を聞く。</li> <li>・自主的行動を取ること。</li> <li>・あいさつを元気にする。</li> <li>・礼儀正しく ・身だしなみ</li> </ul> <p>できるようになりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジ打ち</li> <li>・品物を並べる。</li> <li>・試食品の準備</li> <li>・店内の清掃</li> </ul> <p>打ち合わせの時に確認したいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装</li> <li>・時間</li> </ul> </div> <p>・記録係として、短冊に記入した。</p>

<p>い。」</p> <p>3 グループごとに発表する。 「グループごとにまとめたものを貼ってください。」</p> <p>「グループごとの考えを代表者に発表してもらいます。」</p> <p>「他のグループの人たちの発表を聞いて、参考になったことなどを書いてみましょう。」</p> <p>4 本時のまとめをする。 「この時間を振り返り、反省カードに記入しましょう。」</p>	<p>「接し方が分からなかったからです。」と答えていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を静かに聞き，拍手を送っていた。</li> <li>・ワークシートに次の事項を書いていた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>楽しかったと思われるのはとても大切なことなので、参考になりました。それに時間を守るというのもとても参考になりました。この二つはとても職場体験に生かれます。がんばりたいです。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊を黒板に貼りに行った。</li> <li>・落ち着いて発表を聞いていた。</li> <li>・ワークシートに次の事項を書いていた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で使う言葉づかい</li> <li>・礼儀正しく</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反省カードに記入していた。</li> </ul>
--	--	--

#### 4 結果と考察

事後の実態調査（第2学年117人，平成19年6月20日実施）を事前の結果と比較してみると，次のような考察ができた。

##### (1) 自己存在感に関する項目

「先生や友だちの役に立った」と感じている生徒が11%増加している。また、「先生や友だちにがんばりを認められている」と感じている生徒も2%増加している。これは，教師側が様々な学習場面において意図的に賞賛するようにしたことによる自己有用感の高まりであると考えられる。友達から賞賛の拍手に照れながらもうれしそうにしている生徒の姿が随所に見られた。この賞賛をすることについては，継続することがポイントになるのではないかと感じる。

表2 事後調査結果

自己存在感に関する項目	事前	事後
・学校が好きか。	80%	76%
・友だちと勉強することが楽しいか。	74%	73%
・先生や友だちの役に立ったと感じているか。	52%	63%
・先生や友だちにがんばりを認められているか	47%	49%
共感的な人間関係に関する項目		
・困っている時に助けてくれる友だちがいるか。	94%	90%
・友だちの良さを認めて，協力して学習しているか。	77%	84%
・友だちが失敗してもからかったりせず，はげますようにしているか。	82%	85%
・友だちが発表している時はうなずきながら聞いているか。	47%	59%
自己決定に関する項目		
・自ら進んで学習に取り組んでいるか。	64%	62%
・授業中1人で調べたり，考えたりしているか。	75%	79%
・学習方法を自分で見つけたり，選んだりしているか。	52%	62%
・自分の考えを友だちの前で進んで発表しているか。	36%	44%

(2) 共感的な人間関係に関する項目

「友だちが発表している時はうなずきながら聞いている」と答えた生徒が前回より12%増加している。同様に、「友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしている」と答えた生徒も3%、「友だちの良さを認めて、協力して学習している」と答えた生徒も7%増加している。発表の際に賞賛の拍手を送るように配慮したことが、友達に対する気遣いや思いやりの大切さをより意識させる結果につながったのではないかと考えられる。

(3) 自己決定に関する項目

「自分の考えを友だちの前で進んで発表している」と答えた生徒が8%、「自分で学習方法を見つけたり、選んだりしている」と答えた生徒も10%前回より増加している。人前で発表する機会を意図的に多くとったり、発表する際にグループの意見をまとめ短冊に書かせるなどの配慮をしたりすることによって、自信をもって発表できたと感じる生徒が増えたものと考えられる。

(4) 抽出生徒の変容

男子生徒A

ア 自己存在感に関する項目

事前調査と変化なく、この4項目の答えがすべて「まったくあてはまらない」のままであった。

イ 共感的な人間関係に関する項目

事後の調査では、「友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしているか」の答えが「すこしあてはまる」であり、「友だちが発表しているときうなずきながら話を聞いているか」と「友だちの良さを認めて、協力して学習しているか」が「あまりあてはまらない」であった。

また、「困っている時に助けてくれる友だちがいるか」には「まったくあてはまらない」と答えており、事前調査と比較して大きく変容しているとは言えなかった。

ウ 自己決定に関する項目

事後の実態調査では、「学習方法を自分で見つけたり、選んだりしているか。」の答えが「あまりあてはまらない」である以外は「まったくあてはまらない」であった。この項目についても、大きな変容はなかった。

エ 自分自身に関する項目

「自分のことが好きか」は「まったくあてはまらない」のままであったが、「自分の夢がかなうように努力しているか」と「大切にしているものがあるか」は「まったくあてはまらない」から「よくあてはまる」に変容していた。

事前の調査では、19項目中15項目に「まったくあてはまらない」と答えていたものが、事後の調査では11項目に減少している。しかし、アンケート結果の変容から見ると、自分自身にはまだまだ自信が持てず、交友関係もうまくつくれないと思っている様子がうかがわれる。ただ、職場体験学習の事前学習を進めていく中で、将来の夢に向かって努力していこうというような前向きな姿勢が出てきていることが分かる。実践授業2の中では、グループ内の話し合い活動には、自分の意見を述べたり、班長の質問に対し答えたり、グループの考えをまとめる時にはうなずいて意志を示したりすることができた。また、記録係としてもそれぞれの班員の発表内容を記録したり、掲示用の短冊に記入したりしていた。これは5人の少人数グループでの活動であり、周囲の生徒の目をあまり

気にせず、人前で活動する際の抵抗感をあまり感じなかったためであると考えられる。このような体験を積み重ねていくことで、A自身も自信を深め、自己有用感を高めていくことにつながると思われる。各グループの代表の発表を聞く際には、静かに発表を聞き、拍手を送っていた。その後のワークシートへの参考になったことを記入する時には、「友達の意見が参考になった。これを職場体験学習に生かしていきたい。」と書いている。このような授業中の友達との交流で、友達と一緒に学習したり、作業したりすることの楽しさを味わい、同世代の仲間との交流の抵抗感がなくなっていくことにつながっていくと考える。

女子生徒B

#### ア 自己存在感に関する項目

「先生や友だちの役に立ったと感じることがあるか」の答えは「まったくあてはまらない」のままであったが、「先生や友だちにがんばりが認められているか」の答えが「少しあてはまる」から「よくあてはまる」に変容した。

#### イ 共感的な人間関係に関する項目

「困っているときに助けてくれる友だちがいるか」の答えが「まったくあてはまらない」であったものが、事後の調査では「よくあてはまる」に変容していた。「友だちが発表している時はうなずきながら聞いているか」と「友だちの良さを認めて、協力して学習しているか」は「よくあてはまる」のままであり、「友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしているか」は「まったくあてはまらない」のままであった。

#### ウ 自己決定に関する項目

事前調査では、「興味や関心をもち、自分から進んで学習に取り組んでいるか」の答えが「すこしあてはまる」であり、他が「あまりあてはまらない」であったものが、事後の調査では四つとも「まったくあてはまらない」になっていた。

#### エ 自分自身に関する項目

「自分のことが好きか」、「自分の良いところがわかるか」、「自分の良いところをもっと伸ばそうとしているか」の答えが「まったくあてはまらない」のままであった。

アンケートの結果の変容から見ると、友達や先生に自分のがんばりがある程度認められていると感じながらも自己有用感が低いという矛盾点はそのままであった。しかし、困っているとき助けてくれる友達がいないと思っていたものが、いると感じるようになったことについては、変容が見られた。ただ、自分自身に対する評価が大変低いことには変わりはなかった。同世代の仲間とのコミュニケーションがうまく取れないというBにとって、実践授業2のグループ活動の様子を注意して観察していた。すると、グループで話し合ってまとめた意見を短冊に記入したり、それを黒板に貼りに行ったりといった記録係として仕事をきちんとしていた。また、他のグループの発表を聞いて、それを自分の意見に取り入れていた。Bのグループは4人編成であるが、男子3人、女子1人の構成であり、Bにとって必ずしも活動しやすい環境とはいえない。そこで、教師が活動の様子を注意して観察するとともに、班長である男子生徒に声を掛けてもらうようにした。その結果、本人にとっても大きな抵抗感を感じることなく、活動することができたのではないかと考える。Bにとってもこのような経験を職場体験学習の事前学習の中で多く積めたことが、「困っているときに助けてくれる友だちがいる」と感じるようになった理由であると思う。

## (5) 研究のまとめ

本実践において、授業の中で育てたい自己指導能力を明確にし、それに対して具体的な手だてを行うことで、短期間の実践ではあったが効果のあることが分かった。具体的には、次のような点である。

ア 自己存在感については、教師側が発表の際に意図的に賞賛するようにしたことで、発表で失敗することの恐れを取り除き、自分の意見を述べることに自信をもてるようになるばかりでなく、教師や友達など周囲に認められていると感じ、自己有用感も高まった。

イ 共感的な人間関係については、グループ活動の際に班員同士が協力して調べられるように教師側が意識して支援したり、班長に作業が遅れがちな友達に声をかけさせたりしたことで、生徒は協力して学習することの楽しさや良さを体感することができ、友達に対する気遣いや思いやりの大切さを意識することになり、ひいては生徒間の人間関係をより深めさせることになった。

ウ 自己決定については、発表する場面においてグループでまとめた意見を短冊に書かせたり、静かに聞く環境を整えたことで、発表者が安心して堂々と発表することができた。

交友関係が狭かったり、同世代の仲間とのコミュニケーションがうまく取れなかったりといった課題を抱えた2人の抽出生徒の変容から、次のようなことが分かった。

ア 交友関係が狭く、大きな集団の中では気後れしてしまうAにとっても、少人数でのグループ活動の中で班長に声をかけてもらうといった配慮をしていくことで、自信をもって活動をすることができた。まだまだ自己有用感の高まりまでには結びつかなかったが、「将来の夢に向かって努力していこう」というような前向きな意識をもてるようにはなった。

イ 同世代の仲間とのコミュニケーションがうまく取れないBにとっても、少人数グループ内で自分の係の責任を果たすことで、友達と交流することの楽しさを体感することができ、「困っているときに助けてくれる友だちがいる」という意識になることができた。

## (6) 今後の課題

事後調査の結果でも自己評価がまだ低いという実態がある。これに対しては授業ばかりでなく、学校生活の様々な場面で自己有用感を高める手だてを仕掛けていかなければならない。今後は、どの場面でどんな具体的な手だてを講じていくかを検討し、実践していきたい。

「友だちの前で進んで発表している」と答えている生徒は増加していると言っても、まだ5割に達していない状況にある。また、今回のような手だてが中学生の発達段階として適切であったかという反省もある。そこで、今後も教師がより多くの発表する機会を設け、中学生としてふさわしい表現力を身に付けるために、どのような支援が必要かを研究していきたい。

自己指導能力の育成には、学校の全教育活動を通して行うことが必要であることは言うまでもない。これには、教師全員が共通理解のもと、共通実践をしていかなければならない。そのための校内支援体制の整備を進めていくことも大きな課題である。



【研究5】 生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方  
 ~ 技術・家庭科（技術分野）の授業を通して ~

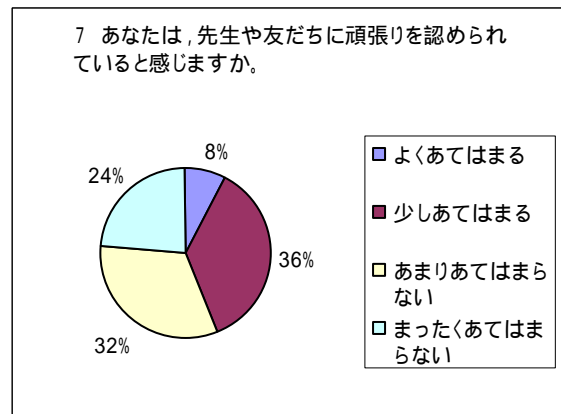
1 生徒の実態

平成19年5月に行った事前のアンケート調査（「生徒指導に関するアンケート」）から次のような本校生徒の実態が明らかになった。（第3学年24名実施）

(1) 自己存在感

「学校で友達と一緒に学習し活動すること」を楽しんでいる生徒は80%に達しているが、「自分の頑張りを他から認められている」と感じている生徒は44%（資料1）。「先生や友達の役に立った」と感じる生徒は40%と低い数値を示している。このことから、生徒たちは「自分自身の有用感への自己評価を高められずにいる」といえる。

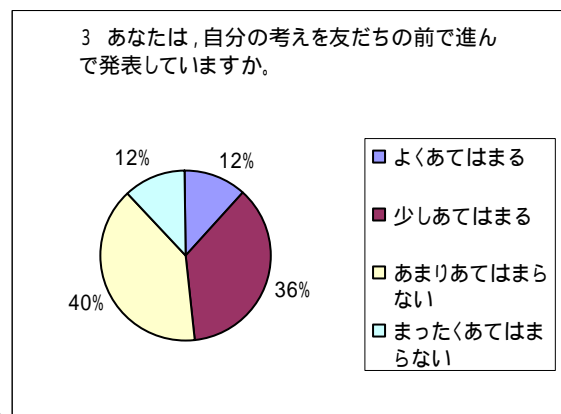
《資料1》



(2) 共感的な人間関係

「友達の良さ」を認めている生徒が88%と高い数値を示しており、全ての質問に対して肯定的な答えが50%を上回っている。このことから、「友達との人間関係については全体的には良好」ということができる。

《資料2》



(3) 自己決定

他の項目で肯定的な答えが50%を上回っていたのに対し、「自分の考えを発表している」

に対しての肯定的な答えが50%を下回っている（資料2）。つまり、学習に対して意欲的に取り組んではいるものの、「間違ふことを嫌うなどの理由から、自分の考えを表現することをためらっている」ことが考えられる。

これらの結果から、本校の課題として「自己存在感」と「自己決定」にかかわる内容についての実践が必要になってくると考えられる。

2 高めたい自己指導能力

(1) 自己存在感について

「自分のことを認められている」と感じられない生徒や自分自身を否定的にとらえている生徒は、周囲から認められる機会が少なく自分に自信がもてないのではないだろうか。他者とのコミュニケーションをとりながら自分の考えを模索し、それを表現していくことを繰り返し経験することで自己有用感、自己肯定感を高めていくことができると思う。

技術科の授業において，グループ学習を進めていく中で，お互いに認め合えるような話し合いの場を設定することで，自己存在感を感じられるようにしたい。

## (2) 共感的な人間関係について

アンケートの結果から良好な数値が出ているが，それをさらに高めることで「自己指導能力」が高まっていくと考える。そこで，グループ編成という視点から考えて授業を構成していきたい。

授業を進める上で，これまでは出席番号順でグループを編成し，話し合い活動や共同作業などを行ってきたが，円滑に活動が進められるグループとそうでないグループの差が大きく，授業が進めにくかった。そこで，学級経営診断尺度（Q - U）を用いて生徒一人一人の様子を把握し，その分析結果をもとにグループを編成して授業を進めていく。そうすることで，グループ内のコミュニケーションが円滑に進められると考える。また，グループで実験や作品の製作を進める際に，話し合いをしながら課題を解決していくことで，コミュニケーションスキルを高め，お互いの良さを認め合える機会としたい。

## (3) 自己決定

授業の進め方として，前時の実験で分かったことが次時の実験の方法や結果を選択する場面に生かせるような流れを作り，「分かった」ことから「予想できる」ようなしくみを設定することで，課題に対しての「自己決定」をやすくし，「自己決定」の場面を多く経験させることで，さらに積極的に課題に取り組み，主体的に解決していこうとする意欲をもたせる。

## 3 実践内容

- (1) 「学級経営診断尺度（Q - U）の結果」及び「技術科の学習内容に関するアンケート調査の結果」，「日ごろの観察」をもとにグループを編成して授業を進めた。「学級経営診断尺度（Q - U）」の結果から，「学級生活満足群」に位置する生徒と「学級生活不満足群」に位置する生徒同士を同じグループにすることで，満足群に属する生徒が不満足群の生徒をフォローしながらグループでの話し合いを進められるように配慮し，お互いの良さを認め合えるような環境づくりを行った。（資料3）



《資料3》

第3学年 技術科 エネルギー変換 座席表		教卓		Q-Uのアンケート結果 満足...学級生活満足群(学校生活に意欲的)に位置する生徒 不満足...学級生活不満足群(非常に不安傾向が強い) " 侵認知...侵害行為認知群(いじめやわるふざけを受けている可能性) " 非承認...非承認群(認められることが少ない) "															
<table border="1"> <tr><th>侵認知</th><th>(未調査)</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B ア イ ア イ</td></tr> </table>	侵認知	(未調査)	B B ア イ ア イ	B B ア イ ア イ	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>非承認</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B A A B B C</td></tr> </table>	満足	非承認	B B ア イ ア イ	B A A B B C	<table border="1"> <tr><th>侵認知</th><th>満足</th></tr> <tr><td>A A ア イ ア イ</td><td>B B A A C B</td></tr> </table>	侵認知	満足	A A ア イ ア イ	B B A A C B	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B A A C B</td></tr> </table>	満足	満足	B B ア イ ア イ	B B A A C B
侵認知	(未調査)																		
B B ア イ ア イ	B B ア イ ア イ																		
満足	非承認																		
B B ア イ ア イ	B A A B B C																		
侵認知	満足																		
A A ア イ ア イ	B B A A C B																		
満足	満足																		
B B ア イ ア イ	B B A A C B																		
<table border="1"> <tr><th>不満足</th><th>満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>A B A B A A</td></tr> </table>	不満足	満足	B B ア イ ア イ	A B A B A A	<table border="1"> <tr><th>侵認知</th><th>不満足</th></tr> <tr><td>A B ア イ ア イ</td><td>B B A B B B</td></tr> </table>	侵認知	不満足	A B ア イ ア イ	B B A B B B	<table border="1"> <tr><th>非承認</th><th>不満足</th></tr> <tr><td>B C ア イ ア イ</td><td>A B B C B A</td></tr> </table>	非承認	不満足	B C ア イ ア イ	A B B C B A	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B A A C B</td></tr> </table>	満足	満足	B B ア イ ア イ	B B A A C B
不満足	満足																		
B B ア イ ア イ	A B A B A A																		
侵認知	不満足																		
A B ア イ ア イ	B B A B B B																		
非承認	不満足																		
B C ア イ ア イ	A B B C B A																		
満足	満足																		
B B ア イ ア イ	B B A A C B																		
<table border="1"> <tr><th>非承認</th><th>不満足</th></tr> <tr><td>B C ア イ ア イ</td><td>A B B C B A</td></tr> </table>	非承認	不満足	B C ア イ ア イ	A B B C B A	<table border="1"> <tr><th>(満足)</th><th>侵認知</th></tr> <tr><td>C A ア イ ア イ</td><td>B B A B B B</td></tr> </table>	(満足)	侵認知	C A ア イ ア イ	B B A B B B	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B A B A B</td></tr> </table>	満足	満足	B B ア イ ア イ	B B A B A B	<table border="1"> <tr><th>侵認知</th><th>満足</th></tr> <tr><td>A B ア イ ア イ</td><td>A A A B A A</td></tr> </table>	侵認知	満足	A B ア イ ア イ	A A A B A A
非承認	不満足																		
B C ア イ ア イ	A B B C B A																		
(満足)	侵認知																		
C A ア イ ア イ	B B A B B B																		
満足	満足																		
B B ア イ ア イ	B B A B A B																		
侵認知	満足																		
A B ア イ ア イ	A A A B A A																		
<table border="1"> <tr><th>不満足</th><th>非承認</th></tr> <tr><td>B C ア イ ア イ</td><td>B B A B B B</td></tr> </table>	不満足	非承認	B C ア イ ア イ	B B A B B B	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>不満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B A B A B</td></tr> </table>	満足	不満足	B B ア イ ア イ	B B A B A B	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>満足</th></tr> <tr><td>B A ア イ ア イ</td><td>B B C C B B</td></tr> </table>	満足	満足	B A ア イ ア イ	B B C C B B	<table border="1"> <tr><th>満足</th><th>非承認</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td><td>B B A C B C</td></tr> </table>	満足	非承認	B B ア イ ア イ	B B A C B C
不満足	非承認																		
B C ア イ ア イ	B B A B B B																		
満足	不満足																		
B B ア イ ア イ	B B A B A B																		
満足	満足																		
B A ア イ ア イ	B B C C B B																		
満足	非承認																		
B B ア イ ア イ	B B A C B C																		
<p>本単元にかかわる生徒の実態【第1次調査(自己評価)】          関心・意欲・態度:エネルギーに興味がある          工夫・創造 :省エネルギーに心がけている          技能 ア:電球を交換したことがある          イ:家電製品の修理をしたことがある          知識・理解 ア:回路図を見て、電流の流れがわかる          イ:電流・電圧の違いがわかる</p>		<table border="1"> <tr><th>満足</th></tr> <tr><td>B B ア イ ア イ</td></tr> </table>	満足	B B ア イ ア イ	<p>は抽出生徒</p>														
満足																			
B B ア イ ア イ																			

(2) 前時の学習内容から本時の実験方法や結果が予想できるような流れを組み、生徒に実験方法や結果を予想させるなど自己決定の場面を多く設定した。

(資料4, 学習指導案)(資料5, ワークシート)

特に「学級生活不満足群」に位置している生徒を中心に、発表の機会を多く設定した。授業の中で机間指導をしながら、課題に対する答えが間違っていないことをその生徒に伝えてから指名して発表させる、という配慮をすることで発表に対する抵抗を少なくした。



研究主題	技術・家庭科（技術分野）の授業において，生徒が自己指導能力を高める支援体制の在り方
------	---

1 題 材

エネルギーの変換と利用方法

2 題材の目標

- (1) 身の回りのエネルギーに関心を持ち，エネルギーの変換方法やその利用について考えようとする。 （関心・意欲・態度）
- (2) 目的の仕事や動作をさせるために，実験方法や作品の製作活動を工夫している。 （工夫・創造）
- (3) 目的の動作をさせる電気回路を考えて実験したり，必要な材料を選択して製作品を組み立てたりすることができる。 （技能）
- (4) 電気エネルギーを変換する電気回路のしくみや製作品の作業手順，組立ての方法について理解できる。 （知識・理解）

3 学習計画（18時間取り扱い）

- 第1次 エネルギーの利用の仕方を考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- 第2次 発電のしくみを調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第3次 電気エネルギーの変換について調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・4時間

時	学習内容	評価			
		関心・意欲・ 態度	工夫・創造	技能	知識・理解
1	手回し発電機のしくみ				
2	手回し発電機による電流・電圧の測定				
3	光エネルギーへの変換				
4	負荷（LED，スピーカ等）を使つての発電（本時）				

- 第4次 ダイナモ&キャパシターライトの製作・・・・・・・・・・・・・・・・・・10時間
- 第5次 これからのエネルギー利用について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 本時の指導

(1) 目標

技能： 光エネルギーや音エネルギーを電気エネルギーに変換するための実験ができる。


知識・理解： 光エネルギーや音エネルギーを電気エネルギーに変換できることが分かる。

(2) 準備・資料

ワークシート 手回し発電機 スピーカ LED 白熱電球 回路計  
LED ソーラーライト リード線

(3) 展開

(存)：自己存在感，(共)：共感的人間関係の育成，(決)：自己決定)

学習内容・活動	支援・留意点と評価の視点
<p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <p>(1)電気エネルギー 運動エネルギー       への変換</p> <p>(2)電気エネルギー 光エネルギー       への変換</p> <p>(3)電気エネルギーの測定の仕方</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">手回し発電機を使わずに発電できるか？</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光エネルギー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気エネルギー</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">音エネルギー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気エネルギー</div> </div> <p>3 エネルギー変換の実験方法を考え，回路図にかく。</p> <p>(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光エネルギー</span>      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気エネルギー</span></p> <p>(2) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">音エネルギー</span>      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気エネルギー</span></p> <p>4 考えた方法で班ごとに実験をする。</p> <p>(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光エネルギー</span>      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気エネルギー</span></p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>これまでの実験を振り返らせ，電気エネルギーは光や運動エネルギーなどに変換できること，電流や電圧の測定には回路計を使うことを確認する。</p> <p>手回し発電機でスピーカから音を出す実験を師範し，電気エネルギーは音エネルギーにも変換できることを説明する。</p> <p>これまでの実験結果から考えて，本時の学習課題の答えを予想させ，その理由を発表させる。</p> <p>(決)：予想や理由を発表しやすくするために机間指導しながら，生徒の考えを受け止めて承認するようにする。</p> <p>また，他の生徒へは発表内容について，受容的な態度で受け止めることを指導する。</p> <p>電気エネルギーに変換されたかどうかを確認するには，回路計を使うことを説明する。</p> <p>この回路図は簡単な図なので，時間をかけずに行いたい。</p> <p>共：実験を進めるにあたって，班の中でのコミュニケーションが和やかな雰囲気でお互いの意見を尊重して進められているかを観察し，うまくいかない班に</p>

(2) 音エネルギー 電気エネルギー



5 実験結果を発表し，わかったことをまとめる。

は話のきっかけを作るなどの支援を行う。

回路計の針が振れない班には，レンジを切り替えてみるようにアドバイスする。

\* 光エネルギーや音エネルギーから電気エネルギーに変換するための実験方法を考え，適切に実験ができたか。【技能】(観察)

存：班ごとの実験結果を確認し，結果がきちんと出ていることを生徒に伝えてから抽出した生徒を中心に発表させる。

スピーカを使った音エネルギーから電気エネルギーへの変換では，実験がうまくいかないことが予想されるため，教師による師範実験で電気エネルギーへ変換できることを確認させる。

発展的な内容として，LED に光を当てて発電する仕組みと同じ考え方で，ソーラーパネルが実用化されていることを説明する。

\* 光エネルギーや音エネルギーが電気エネルギーに変換できることがわかったか。

【知識・理解】(ワークシート，観察)

3年 番氏名

手回し発電機を使わずに発電できるか？

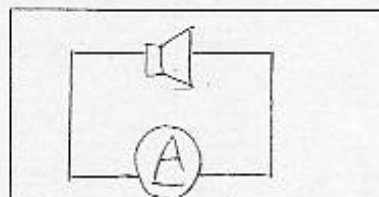
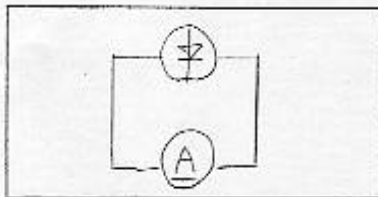
1 テーマに対する予想

実験内容	予想	理由
光エネルギーを電気エネルギーに変換する	できる	太陽光発電があるから
音エネルギーを電気エネルギーに変換する	できない	聞いた事がないから

2 実験の回路図

① 光エネルギー → 電気エネルギー

② 音エネルギー → 電気エネルギー



石

\* 図記号

【回路計】

【LED】

【スピーカ】



3 実験結果からわかること、実験をやって感じたことなど

光エネルギーは角度によって、発電の量がちがった  
LED

自己評価

① 実験結果を予想することができた。	そう思う	まあまあ	あまり	そう思わない
② 実験がきちんとできた。	そう思う	まあまあ	あまり	そう思わない
③ 協力して取り組めた。	そう思う	まあまあ	あまり	そう思わない
④ 集中して取り組めた。	そう思う	まあまあ	あまり	そう思わない

4 結果と考察

(1) 実践後の生徒の変容について

考察にあたっては、「生徒指導に関するアンケート」の結果を点数化し、個々の生徒の持ち点として算出した。(資料6)

《資料6》

「Q-U(学級満足度尺度)」および「生徒指導に関するアンケート調査(事前,事後)」結果の一覧表																							
中学校 3年生徒(順不同)																							
NO	性別	学級満足度	自己指導能力	自己決定				自己存在感				共感的				自分のこと					計		
			質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		18	19
1		不満足	事前	3	3	3	3	1	2	2	2	1	3	3	3	2	2	2	2	3	3	3	46
			事後	4	2	2	3	1	1	1	1	1	1	3	3	2	2	2	2	1	1	1	4
2		満足	事前	4	4	4	4	2	3	2	3	3	3	4	4	1	3	3	4	4	4	4	64
			事後	4	4	4	4	2	4	2	3	3	3	4	4	1	3	3	4	4	4	4	4
3		非承認	事前	3	1	2	2	4	4	2	3	2	4	2	4	3	2	2	4	4	4	4	56
			事後	2	1	2	3	1	4	1	2	2	4	2	4	1	1	1	4	4	4	4	4
4		侵認知	事前	4	3	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	3	4	4	3	64
			事後	4	3	3	3	3	4	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	3	3	4	3
5		満足	事前	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3	4	4	2	3	3	4	3	4	4	69
			事後	4	4	2	4	4	4	4	4	3	3	4	4	2	4	4	4	4	4	4	4
6		侵認知	事前	3	3	3	4	3	3	4	3	3	3	2	3	3	3	3	3	4	2	3	56
			事後	3	3	3	3	4	4	3	4	2	3	4	3	2	3	3	3	4	4	4	4
7		侵認知	事前	4	3	4	4	4	4	1	4	4	3	4	4	1	1	1	1	1	4	4	56
			事後	4	3	4	4	3	4	1	4	4	3	4	4	1	1	1	1	1	1	4	4
8		非承認	事前	3	3	2	3	1	3	1	1	1	4	4	3	4	1	1	1	4	4	4	51
			事後	3	3	1	3	1	2	1	1	4	4	3	4	1	1	1	1	4	4	4	4
9		侵認知	事前	2	3	2	4	4	4	3	2	3	3	3	4	2	2	2	4	3	4	4	58
			事後	4	2	2	4	4	4	3	3	3	3	3	4	2	3	3	4	2	3	4	4
10		満足	事前	3	3	3	2	4	3	3	4	2	2	3	4	2	2	2	2	4	4	4	56
			事後	3	2	2	4	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	4	4	4	4
11		満足	事前	2	3	2	3	2	4	2	2	2	3	3	4	1	2	3	4	4	3	4	53
			事後	3	2	2	3	2	4	2	2	2	3	3	4	1	2	3	4	3	3	4	4
12		満足	事前	3	2	1	4	4	4	3	2	4	4	4	2	2	3	4	4	4	4	4	62
			事後	3	2	4	4	4	4	3	3	4	4	4	2	2	4	4	4	4	4	4	4
13		不満足	事前	4	2	3	4	1	2	2	1	3	2	3	4	1	2	2	3	3	4	4	50
			事後	3	3	2	2	2	4	2	2	3	3	3	1	1	2	4	4	3	2	4	4
14		不満足	事前	3	3	2	2	2	3	3	2	2	4	3	4	1	2	3	3	3	2	4	51
			事後	3	3	2	3	2	3	3	4	3	3	4	4	3	3	3	4	2	3	4	4
15		非承認	事前	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	57
			事後	3	3	2	3	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	4	4	4
16		侵認知	事前	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4	3	4	3	4	4	59
			事後	4	3	3	4	4	4	3	4	3	4	3	4	1	3	4	4	4	4	4	4
17		不満足	事前	4	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	2	1	3	3	4	4	4	4	55
			事後	4	3	2	3	3	2	3	3	4	4	3	2	1	4	3	4	3	3	4	4
18		満足	事前	4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	2	3	3	4	4	4	4	70
			事後	4	3	3	4	4	4	3	4	4	3	4	4	2	2	3	4	3	4	4	4
19		不満足	事前	3	3	3	3	4	2	2	4	3	3	3	1	1	1	1	4	2	4	4	53
			事後	4	4	3	4	3	4	2	2	4	3	3	3	1	1	1	4	2	4	4	4
20		満足	事前	2	2	2	2	4	4	3	3	3	4	4	4	2	3	4	3	3	4	4	60
			事後	3	3	2	2	4	4	2	3	3	3	4	4	2	3	3	4	2	4	4	4
21	(抽出)男	不満足	事前	1	2	1	1	2	2	1	1	2	2	1	2	1	2	3	4	2	2	4	36
			事後	3	2	2	2	2	2	2	1	1	3	2	2	2	2	3	3	2	2	3	4
22		満足	事前	3	2	2	2	4	4	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	4	48
			事後	3	2	3	2	4	4	3	4	3	3	3	4	1	2	2	3	3	2	4	4
23	(抽出)女	満足	事前	1	2	1	1	4	4	1	1	1	4	3	4	1	1	1	4	1	4	4	43
			事後	1	1	1	1	3	4	2	2	1	4	4	4	1	1	1	4	1	4	4	4
24		非承認	事前	3	2	2	2	3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	45
			事後	3	3	2	2	3	3	2	3	3	4	3	3	1	2	3	3	2	2	4	4

事後のアンケート結果によると、Q-Uの結果が「不満足群」に位置する6名のうち4名の数値が上昇、1名が変化なし、1名が下降という結果になった。Q-Uのデータ及び技術科の学習内容に関するアンケートをもとにグループ編成を行って授業を進めることによって、「不満足群」に位置する生徒の自己指導能力に関する数値が上昇したことが分かる。

このことから、グループ編成を工夫し授業の中で自己決定の場面を意図的につくり出したり、他の生徒に認められるような発表場面を設定することで生徒の自己指導能力が育成される、というこ



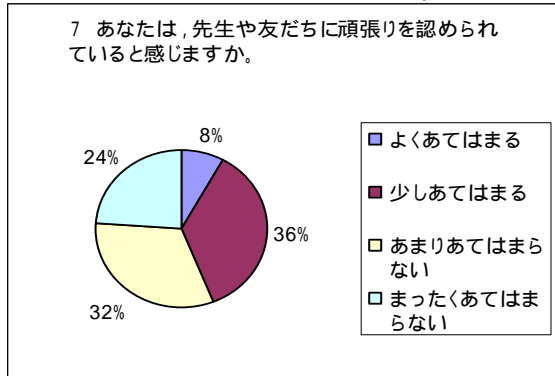
とがいえ。

しかし、「生徒指導に関するアンケート」の結果を項目別に見ると、事後のアンケート結果では「自己存在感」に関する項目で肯定的な回答のポイントが下降しているものもあり、「不満足群」に位置していない生徒に関しては数値が上昇しているとはいえない。（資料7）

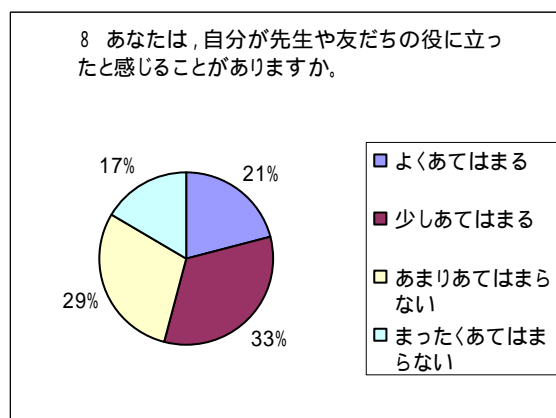
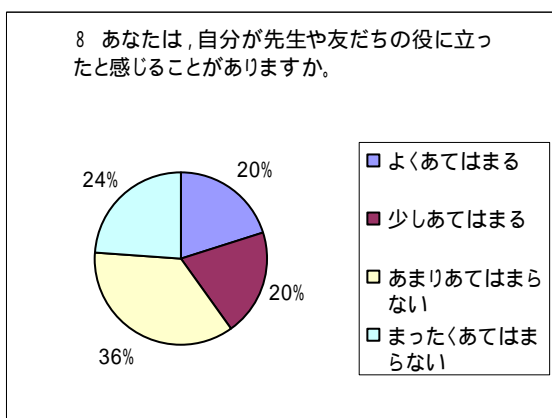
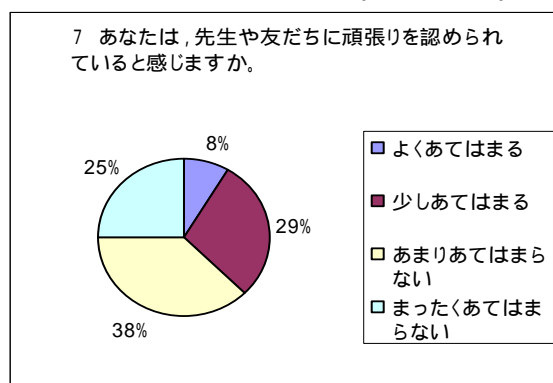
これは、「技術科」の授業の中では、生徒の考えを認め発表を促す手だてを講じたため、授業の中で生徒が発表する機会は増えてきていた。しかし、他教科の先生にも共通理解を図り、学校全体として取り組むところまでには至らなかったため、全体的な結果としては表れなかったものと思われる。

また、事後のアンケートを実施した時期は、3年生は部活動を引退した生徒が多く、部活動で頑張りを認められる機会がなくなったことも影響しているようである。生徒によっては、この時期は自分が学習などを頑張っていなかったために、否定的な回答をした生徒もいた。このように、事後のアンケート調査の時期が、部活動から受験勉強への切り替えの時期と重なってしまったことが結果に影響してしまったと考えられる。

《資料7》事前のアンケート結果（5/28実施）



事後のアンケート結果（7/10実施）



## (2) 抽出生徒について（資料6参照，抽出男子）

### 選定の理由

自己評価が低く、「学級不満足群」に位置している。

### 生活の様子から

性格はおとなしく交友関係が狭い。

遅刻は多いが、欠席はほとんどない。

基礎学力が劣る。

### 事後のアンケート結果から

全体的に自己評価は低めであるが、項目ごとに見ると上昇しているものが見立つ。

自己決定に関する項目で「学習への取組」、「発表」、「学習方法」の3項目で上昇が見られる。学習に対して積極的になってきている。授業の中でこの生徒を意識して進めてきた成果であるといえる。

自己存在感に関する項目では、「頑張りを認められている」で上昇している。

共感的な人間関係の項目では、「励ます」、「協力して学習」で上昇が見られる。

自分自身に関する項目では、「自分が好き」で上昇している。

自己決定の場を多く経験させ、学習に対して意欲的に取り組ませることで「認められる」という自己存在感を味わい、「協力する」という共感的な人間関係が築かれ、「自分が好き」という自己肯定感につながっていくものと考えられる。

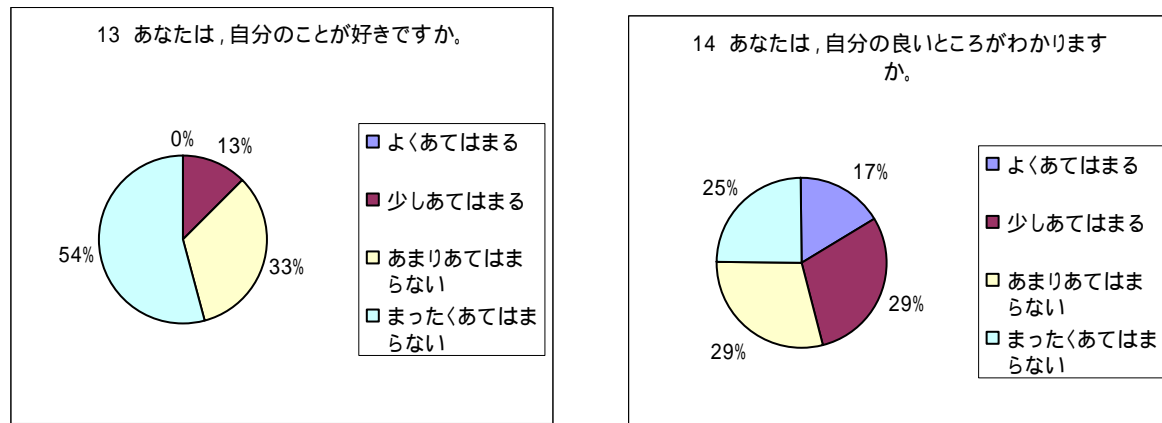
また、この生徒は周りから認められるということが少なかったが、この生徒が修学旅行で撮った写真が評価され作品が掲示されるなどの出来事もあり、事後のアンケートの結果に影響しているものと思われる。抽出した生徒の1人に大きな変容が見られたことは、この研究を進めていく一つの足がかりになった。

### (3) 今後の課題

これからこの研究を進めていく場合、大きな柱になるものが「学校全体で取り組む」ということである。全職員の共通理解を図り、授業の中で、学級生活の中で、部活動の中でなど、学校生活のあらゆる場面において、われわれ教師が「自己指導能力」を高めるための手だてを意識して生徒にかかわっていくことで、生徒の変容が期待できることが明らかになった。

また、本校の生徒の実態として、かなり低い自己評価をしていることがあげられる。(資料8) 生徒は自分自身に関することで過小評価をしていると思われる。したがって、我々教師は「自己評価が低い」という本校の実態を意識して、生徒にかかわる必要がある。

《資料8》事後のアンケート結果(7/10実施)



本校は全生徒数 68 名という小規模校である。必然的に一人の生徒に教師がかかわる回数が増える。そうすると、「同じことを何度も注意される」など管理的な面が出てくることが考えられる。また、教師が指示を出す場合でも、指示を出す教師側にとっては1回の指示でも、生徒は他の先生からも指示を受けていたりする。そうすると、生徒は指示がないと動かないような傾向も出てくる。こうなると生徒は「自分で考え、判断して行動する」という意識が減ってしまい、結果的に自己肯定感を

もちにくくなってしまふ。

さらに、心に悩みなどの問題を抱えている生徒は、本校の場合、休み時間ごとに職員室へ来室し、教師と世間話などをしながらストレスを解消しているような現実がある。職員室がそのような雰囲気であり、生徒と教師が気軽に話ができることは本校の特徴であり、それで救われている生徒もいると思われるが、反面、その悩みに自分1人で正面から立ち向かっていく機会を失ってしまっていることも考えられる。

このようなことから、今後の本校の課題として次の3点が考えられる。

日常的な教師の支援を意識する。

生徒同士の交流の場を多く設定し、一つの課題や困難をみんなで乗り越えることで自尊感情を高める手だてを講じる。

生徒の自己決定の機会を増やす。

- ・ 生徒自身に学習や生活上の課題・解決方法を考えさせ、自分の力で取り組んでいけるよう、粘り強く指導する。
- ・ 生徒自身が判断して行動することを待てるだけの指導計画とゆとりをもつ。

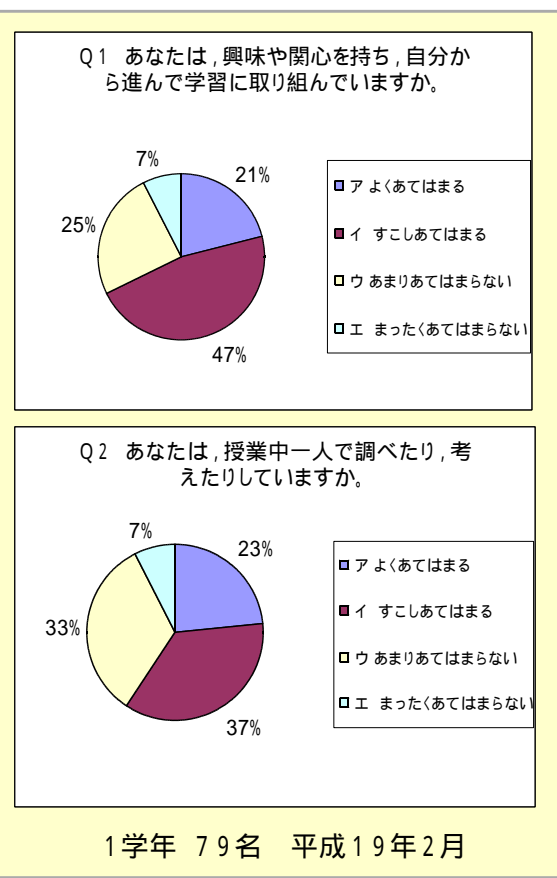
【研究6】 自己指導能力を高める学校行事の在り方  
～ 学年創作劇の制作を通して～

1 生徒の実態

本校の第2学年生徒は、明るく素直で何事にも前向きである。特に集団で取り組む学校行事などには、意欲的に活動することができる。しかし、教科の学習などには、あまり意欲的に頑張ることができない生徒が見受けられることも事実である。

昨年2月に行った「生徒指導に関するアンケート」(茨城県教育研修センター作成)でも、問1「あなたは、興味や関心を持ち、自分から進んで学習に取り組んでいますか。」という質問に対して、「よくあてはまる」21%、「すこしあてはまる」47%で、学習に対して、前向きな生徒は68%であった。残りの32%、約3分の1の生徒は学習に対して、あまり積極的に取り組んでいないということであり、改善する必要があることがわかる。

さらに問2「あなたは、授業中一人で調べたり、考えたりしていますか。」という



質問でも60%の生徒が積極的に取り組んでいるのに対し、40%の生徒は1人では意欲的に学習に取り組めていないという結果がでた。このことから、本校の生徒は「自ら考え、自ら進んで学習に取り組む姿勢が足りない」という実態がとらえられた。

2 高めたい自己指導能力

生徒の「自己指導能力」を育むためには、生徒指導の三つの機能「自己存在感を与える」、「自己決定の場を与える」、「共感的な人間関係を育成する」を意識し、意図的にそれらの機能を生かした取組を学校生活の中に取り入れていくことが必要であると考え

(1) 自己存在感

自己存在感を与えるためには、自分が他者のために役に立った、組織の中で生かされたという意識をもたせることが必要である。生徒一人一人が、班、学級、学年、学校という学校生活のそれぞれの単位の活動の中で、自分の役割をしっかりと果たし、自信をつけることができれば自己存在感を高められると考える。

(2) 共感的な人間関係

共感的な人間関係を育むためには、他者と一緒に活動・体験することが不可欠であ

る。共に一つの目標に向かって協力し活動していく中で、共感的な人間関係が生まれると考える。班や学級，学年や学校，それぞれの単位で協力しながら多くの活動に取り組みせていくことで共感的な人間関係を築かせていきたい。

### (3) 自己決定

自己決定の力を高めるためには，生徒一人一人が自分で考え，判断し，決定する場を与えることが不可欠である。自分は何ができるのか，何に興味があるのか，何が向いているのかを学校行事を含む様々な場面で判断・決定させる場を多くもたせ，自己決定の力を高めていきたい。

## 3 実践内容

本校は生徒の「自己指導能力」を高めるために，特別活動に力を入れ，生徒の自主性を尊重ながら体験を重視した様々な学校行事を実施している。中学校に入学してから卒業するまでの3年間の中で様々な活動を経験し，生徒同士が協力し合いながらやり遂げていくことで生徒の「自己指導能力」の育成を目指している。以下，本校での特別活動の取組について紹介したい。

### (1) 中学校3年間を見通した特別活動の取組

本校では1～3学年で宿泊行事を取り入れることで，生徒同士の人間関係，生徒と教師のよりよい人間関係づくりを目指している。行事の精選が叫ばれ，宿泊をとまなうような行事が減らされる学校が多い中，本校では生徒の人間関係を深めるために宿泊をとまなう行事は不可欠であると考え，充実を図っている。特に中1ギャップの改善を図るために，入学したばかりの1年生の4月に1泊2日の宿泊学習を取り入れたことは，1学年生徒の不登校の減少に効果があった。

学年・月	主な学校行事（日数）
1年4月	白浜宿泊学習（1泊2日）
8月	スキー宿泊学習（2泊3日）
1月	ボランティア体験学習（2日間）
2年5月	鎌倉方面宿泊学習（1泊2日）
11月	職場体験学習（2日間）
2月	立志式
3年6月	京都方面宿泊学習（2泊3日）
8月	高校見学，高校体験
全 4月	新入生歓迎長縄大会
9月	スポーツフェスティバル
11月	文化祭
3月	3年生を送る会

生徒会では「規範意識の高揚」を目指して、4年前から「PRIDE」という生徒自身の手による本校生徒として守るべき約束事・行動の指針を作成し、学校生活の改善を目指した取組を行っている。この「PRIDE」は学校生活の改善点や問題点などを生徒一人一人が考え、学級でまとめた意見を中央委員会で討議し、決定している。決定した「PRIDE」の項目をもとに生徒一人一人がさらに自己の具体的な目標を決め、学期ごとに自己評価する「PRIDEアップカード」を作成し、生徒一人一人の学校生活の改善を目指している。



文化祭は、「合唱コンクール」と全生徒が身近な社会の出来事に対する意見文をまとめ、各クラスから選ばれた代表者が競い合う「ニュースキャスターコンテスト」と合唱コンクールをメインとして実施している。

体育祭は「スポーツフェスティバル」と称して、1～3年までの縦割りの分団対抗で実施している。縦割りの分団対抗にすることで、上級生にリーダーシップを発揮させたいと考え、数年前から実施してきた。さらに、4年前の「スポーツフェスティバル」で取り入れた「よさこいソーラン」は、各分団オリジナルの振り付けを考えた対抗種目になり、スポーツフェスティバルのメインイベントとなった。



さらに、第1学年で「ボランティア体験学習」、第2学年で「職場体験学習」などを実施し、体験を重視した活動に力を入れている。

「ボランティア体験学習」は市内と近隣市町村の福祉施設に夏休みの2日間訪問し、お年寄りと触れあう中で、福祉の心情を養うこと、働くことの苦勞や喜びを知ることを目的として実施している。第2学年の「職場体験学習」はなるべく自分の希望した職種が体験できる事業所に連絡を取り、希望に添った事業所で体験ができるように配慮しながら実施している。初めて本格的に職場で朝から夕方まで2日にわたって働く中で、働くことの意義や喜び、苦勞や大変さを実感して帰ってくる事ができた。



## (2) 3年生を送る会での第1学年創作劇「DREAMS COME TRUE」の取組

本校では、毎年卒業していく3年生に感謝の気持ちを表すために「3年生を送る会」を下級生(1, 2年生)が企画し、運営を行っている。本年度はその取組の一環として、第1学年生徒全員で舞台劇とビデオ劇を合わせた創作劇を行うことになった。この活動を通して、卒業生に対する感謝の気持ちを表すとともに、卒業生に対するメッセージを表現したいと考えた。

さらに、自分の適性にあった役割（役者、撮影・照明、大道具、小道具・衣装、効果音など）を決定し、仕事に責任をもって取り組み、友達と協力しながら劇を作り上げていく中で、学年の活動に貢献できたという満足感と充実感を味わせたいと考えた。

### 活動計画

3月8日の「3年生を送る会」の本番に向けて、1月下旬から活動を始めた。約1か月半の活動期間の中で、創作劇の練習及びビデオ撮影、学年合唱と卒業生への呼びかけメッセージの練習を行った。実行委員会は主に昼休みに開き、放課後の部活動には影響が出ないように配慮した。

（資料 「学級活動指導案」、資料 「3年生を送る会だより No.1」 参照）

### 役者と係の決定において 配慮したこと

役者と係は生徒それぞれの希望を優先して決定した。一つの役柄に何人かの生徒が立候補した場合には、オーディションを行った。オーディションに落ちた生徒も違った役で舞台に立てるよう役を増やして出演させた。係についても同様に募集定員をオーバーしても、人数の調整はせず、生徒の希望を最優先することで、生徒の意欲を高めたいと考えた。

### 当日までの練習計画

練習時間は実行委員会と同様に昼休みを利用した。月・水・金は劇の練習、火・木は主に合唱の練習を行った。校外で行うビデオ撮影の口ケについては、部活動の練習のない日曜日を主に利用した。

（資料 「当日までの練習計画」参照）

3年生を送る会だより		No.2
<b>《自分は何ができるかな？役者or係の仕事？》</b>		
<small>◎劇を成功させるには舞台上演する役者さんはもちろんですが、いろいろな係の仕事が必要不可欠です。役者と係の二人三脚で足並みが揃って初めて成功する物です。舞台上がってセリフを言うのが苦手な人、大きな声を出すのが苦手な人でも係の仕事なら大丈夫です。1年生一人一役で作る劇にしたいと思います。自分の特技や興味にあった係を見つけて下さいね！</small>		
係の名前	係の主な仕事内容	募集人数 (約)
大道具 ◎川路 達彦	背景画などの舞台道具の製作と舞台道具の出し入れ	16～18名
照明・撮影 ◎浅野 給前	体育館内照明、スポットライトの操作とビデオの撮影 スクリーンの上げ下げ	8～10名
効果音 ◎田島 給前	劇の効果音と体育館音響（マイクなど）の操作	4～6名
小道具・衣装 ◎横田 達彦	劇に使用する小道具や衣装の準備と管理	6～8名
----- きりとりせん -----		
<b>送る会劇出演申込書</b> <input type="text"/> 組氏名 <input type="text"/>		
私は劇に <input type="text"/> 役として出演を希望します。		
出演を希望する理由 <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>		
----- きりとりせん -----		
<b>送る会劇 係申込書</b> <input type="text"/> 組氏名 <input type="text"/>		
私は劇の <input type="text"/> 係を希望します。		
係を希望する理由 <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>		

### 創作劇を上映した後の生徒の反応と感想

本番の「3年生を送る会」では全員が一人一役で仕事を担当し、立派にそれぞれの生徒が責任を果たしたことで、創作劇は大成功を収めることができた。見ていた3年生はもとより、他学年の先生方や保護者の方々に活動を称えられ、自分たちの活動に誇りを持つことができたようだった。無事に劇を終え、幕が下りた瞬間、泣き出す生徒も見られ、満足のいく活動ができたと自信に満ち、充実感にあふれた生徒達の顔がとても印象的であった。

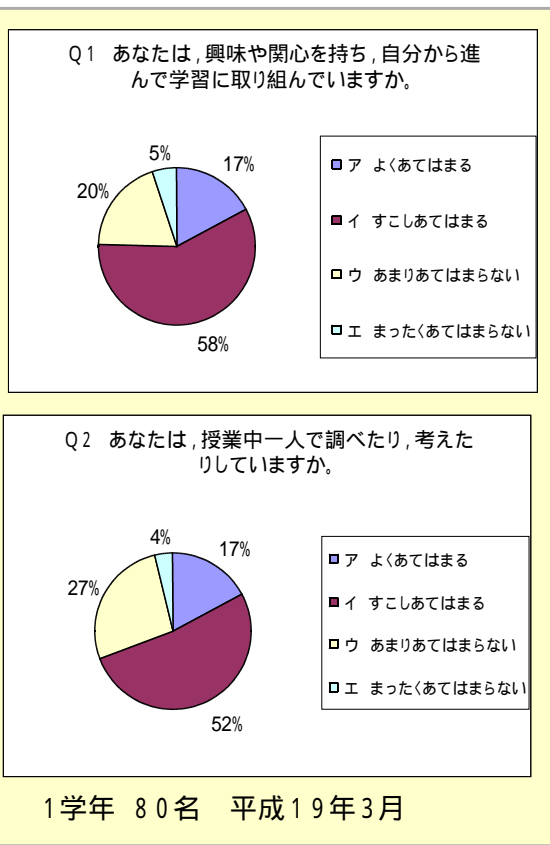


団体全員でこんな大の舞台ものを作るのは初めて(多分)だったのでもっと感動しました。先輩達も「良いよー00円」と言ってくれてっけOPにです。いろいろあったけど、ほとんどの先輩が喜んでくれたので、やって良かったなあと思いました。今回経験したことを次に生かしていきたいと思ひます。

僕は、役者ではなく係の方だったけれども、この係の仕事もあってこそこのような劇になれたと思ひます。この劇で、僕達は十割かしてあげることがあるということが分かって、とてもいい経験になったと思ひます。

## 4 結果と考察

「3年生を送る会」において学年創作劇「DREAMS COME TRUE」を成功させた後、昨年3月に行った「生徒指導に関するアンケート」(茨城県教育研修センター作成)問1「あなたは、興味や関心を持ち、自分から進んで学習に取り組んでいますか。」という質問に対して、「よくあてはまる」17%、「すこしあてはまる」58%で、学習に対して前向きな生徒は75%で、2月のアンケート結果より7%上昇した。これは、学年創作劇という活動に興味を持って前向きに取り組んだことが結果として表れたと考えられる。さらに問2「あなたは、授業中一人で調べたり、考えたりしていますか。」という質問でも2月のアンケートでは60%であったのが3月には69%になり、9%上昇した。このことから、学年創作劇で自分に合った役割





を考え、決定して活動していく中で、やり遂げたという成就感を感じ、満足感を得られたことで自己決定に関する項目の数値の上昇につながったのであろう。

また、「自己存在感」や「共感的な人間関係」をとらえるその他のアンケート項目でもほとんどの質問事項の数値が上昇しており（資料 「生徒指導に関するアンケート結果」参照）、生徒指導の三つの機能を意識した取組を教師側が意図的に学校生活の中に位置付けていくことは、自己指導能力を高める上で効果があったといえる。

本実践では、全教師の共通理解のもとに進めた3機能の具体化を通して、3年間を見通しながら特別活動に系統性と一貫性をもたらし、特色ある取組を重ねることができた。このことにより、学校教育の画一化を防ぐという形での学校支援体制づくりのスタートが切れたと考える。

資料 「生徒指導に関するアンケート結果」

事前,事後のアンケート結果の比較（「よくあてはまる」「すこしあてはまる」の増減）

		よくあてはまる	すこしあてはまる	の合計	合計の増減			
自己決定	問1	あなたは、興味や関心をもち、自分から進んで学習に取り組んでいますか。						
		21%	17%	47%	58%	68%	<b>75%</b>	+ 7%
	問2	あなたは、授業中一人で調べたり、考えたりしていますか。						
		23%	17%	37%	52%	60%	<b>69%</b>	+ 9%
問3	あなたは、自分の考えを友だちの前で進んで発表していますか。							
		16%	12%	41%	43%	57%	<b>55%</b>	- 2%
問4	あなたは、学習方法を自分で見つけたり、選んだりしていますか。							
		26%	23%	34%	45%	60%	<b>68%</b>	+ 8%

自己存在感	問5	あなたは、学校が好きですか。						
		58%	54%	21%	35%	79%	<b>89%</b>	+ 10%
	問6	あなたは、友だちと勉強することが楽しいですか。						
		56%	46%	25%	37%	81%	<b>83%</b>	+ 2%
問7	あなたは、先生や友だちに頑張りを認められていると感じますか。							
		16%	14%	35%	43%	51%	<b>57%</b>	+ 6%
問8	あなたは、自分が先生や友だちの役に立ったと感じることがありますか。							
		19%	12%	33%	52%	52%	<b>64%</b>	+ 12%

共感的理解	問9	あなたは、友だちが発表しているときは、うなずきながら話をよく聞いていますか。						
		21%	19%	38%	49%	59%	<b>68%</b>	+ 9%
	問10	あなたは、友だちが失敗してもからかったりせず、励ますようにしていますか。						
		21%	17%	47%	58%	68%	<b>75%</b>	+ 7%
問11	あなたは、友だちの良さを認めて、協力して学習していますか。							
		25%	30%	51%	55%	76%	<b>85%</b>	+ 9%
問12	あなたは、困っているときに助けてくれる友だちがいますか。							
		53%	43%	30%	35%	83%	<b>78%</b>	- 5%

自 分 の こ と	問13	あなたは、自分のことが好きですか。						
		17%	11%	31%	41%	48%	<b>52%</b>	+ 4%
	問14	あなたは、自分の良いところがわかりますか。						
		19%	12%	32%	47%	51%	<b>59%</b>	+ 8%
	問15	あなたは、自分の良いところをもっと伸ばそうとしていますか。						
		33%	32%	30%	42%	63%	<b>74%</b>	+ 11%
	問16	あなたは、自分の悪いところがわかりますか。						
		44%	31%	30%	42%	74%	<b>73%</b>	- 1%
	問17	あなたは、自分の夢がかなうような努力をしていますか。						
		25%	26%	41%	46%	66%	<b>72%</b>	+ 6%
	問18	あなたは、礼儀やマナーに気をつけるようにしていますか。						
		27%	36%	27%	47%	54%	<b>83%</b>	+ 29%
	問19	あなたには、大切にしていること(もの)がありますか。						
		68%	67%	15%	25%	83%	<b>92%</b>	+ 9%

第1学年のアンケート結果 平成18年2月(79名), 3月(80名)

資料 「学級活動指導案」

第1学年 学級活動指導案

指導者 第1学年担当

1 題材名 3年生を送る会で学年創作劇を成功させよう

2 目標

- (1) 3年生を送る会での第1学年創作劇を通して、卒業生に対してのメッセージや感謝の気持ちを表現する。
- (2) 創作劇の制作を通して、自分の適性に合った役割(役者, 撮影・照明, 大道具, 小道具・衣装, 効果音など)を考え, 決定することにより, 自己決定の能力を高める。
- (3) 自分の適性に合った劇での役割(役者, 撮影・照明, 大道具, 小道具・衣装, 効果音など)に取り組むことで, 自己存在感を味わわせる。
- (4) 学年創作劇を同じ役割を持った仲間と協力して完成させていく中で, 共感的な人間関係を育成する。

3 育てたい自己指導能力

(1) 自己存在感

自分の良さや個性が分かる。

自分の役割やその進め方, よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。

(2) 共感的な人間関係

他者の良さや感情が分かる。

リーダーとフォロアーの立場を理解し，チームを組んで互いに支え合いながら活動する。

(3) 自己決定

自己の個性や興味・関心に基づいて，よりよい選択をしようとする。

課題に積極的に取り組み，主体的に解決していこうとする。

4 自己指導能力に関する実態

(1) 自己存在感

「学校が好きですか」「友だちと勉強することが好きですか」という質問に対して，約80%の生徒が「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と答えており，学校に対する満足感が高い反面，「先生や友だちに頑張りを認められていますか」「先生や友だちの役に立ったと感じることがありますか」という他者との関係から自分の存在価値をたずねる質問では50%の満足度に下がった。このことから，他者との関係から考える自分の存在感はあまり高くはないという実態が分かる。

(2) 共感的な人間関係

「友だちが発表しているときは，うなずきながら話をよく聞いていますか」という質問に対しては59%の満足度であった。数値が低かった。他の「共感的な理解」を図る質問が75～85%だったことを考えると，心の中では共感していても他者に分かるように表現しながら話を聞くことが苦手な実態が分かる。

(3) 自己決定

「自分の考えを友だちの前で進んで発表していますか」が57%で数値が一番低かった。自分の考えを他者の前で発言することをあまり好まないことが分かる。

5 自己指導能力を育てる手だて

(1) 自己存在感

学年創作劇の中で，自分の適性に合った劇での役割（役者，撮影・照明，大道具，小道具・衣装，効果音など）に責任を持って取り組ませることで，自分が学年創作劇に貢献できたという自己存在感をもたせるようにする。

(2) 共感的な人間関係

学年創作劇の中で，自分と同じ役割をもった他の生徒と協力しながら活動を行っていく中で，他者との人間関係を深め，共感的な人間関係を築いていけるようにする。

(3) 自己決定

学年創作劇の中で、自分の適性に合った役割（役者、撮影・照明、大道具、小道具・衣装、効果音など）を考え、決定することにより、自己決定の場を与え、自己決定の力を高められるようにする。

6 活動計画

月 日	曜	実行委員会・創作劇関係	合唱・呼びかけ	活動時間
1 / 25	木	・実行委員会 メンバー確認と内容説明		昼休み
1 / 25	木	送る会の活動についての方法説明 (組織及び活動内容, 目的について) 事前アンケート(意識調査・役割希望調査)		総合的な学習の時間(5校時)
1 / 26	金	・実行委員会 役割希望調査の集計 今後の活動計画の検討	・指揮者, 伴奏者の検討	昼休み
1 / 29 ~ 31	月 水	・実行委員会 ~ シナリオの検討 役者, 係の決定(オーディション)	・楽譜印刷, 配布 ・指揮者, 伴奏者決定	昼休み 学級活動(6校時)
2 / 1	木	・実行委員会 台本完成(5校時印刷)	・合唱の練習開始 (火・木)	昼休み 総合的な学習の時間(5校時)
2 / 2	金	・実行委員会 台本配布 ・役者台本読み合わせ ・係打ち合わせ (準備物の選定)		昼休み
2 / 5	月	・劇の練習開始(月・水・金)	・呼びかけ検討	昼休み
2 / 6	火		・呼びかけ検討 ・合唱練習	昼休み
2 / 7	水	・劇の練習 ・役者台本読み合わせ ・係打ち合わせ (準備物製作開始)		昼休み 学級活動(6校時)
2 / 9	金	・実行委員会	・呼びかけ完成	昼休み
2 / 15	木	・役者(劇の練習及びビデオ撮影) ・係打ち合わせ 及び準備物製作		総合的な学習の時間(5,6校時)
2 / 22	木	・劇, 合唱, 呼びかけ, リハーサル		総合的な学習の時間(5,6校時)
3 / 1	木	・劇, 合唱, 呼びかけ, リハーサル		総合的な学習の時間(5,6校時)
3 / 8	木	・3年生を送る会(本番) 劇, 合唱, 呼びかけ		13:30~ 体育館
3 / 9	金	・事後アンケート及び送る会での活動を振り返っての感想記入		授業(国語)

## 7 評価計画

育てたい自己指導能力	評価の方法・手だて
(1)自己存在感	事前アンケートと事後アンケートの結果から，自己存在感の高まりが見られたかを調べる。 事後の感想を書かせ，自己存在感の高まりを感じられる表現が見られたかを調べる。
(2)共感的な人間関係	事前アンケートと事後アンケートの結果から，共感的な人間関係の高まりが見られたかを調べる。 事後の感想を書かせ，共感的な人間関係の高まりを感じられる表現が見られたかを調べる。
(3)自己決定	事前アンケートと事後アンケートの結果から，自己決定の力が高まったかを調べる。 事後の感想を書かせ，自己決定の力の高まりを感じられる表現が見られたかを調べる。

## 8 本時の指導

### (1) 目標

学年創作劇のリハーサルを行うことで自分の仕事や役割をしっかりと理解できる。

役者や係の連携を深め，創作劇の完成度を高めることができる。

### (2) 資料・準備 「DREAMS COME TRUE」の台本，D Vビデオ，プロジェクター

### (3) 展開

	学 習 活 動 ・ 内 容	資料準備	支援・留意点と評価の観点
活 動 の 開 始	<p>1 本日の活動の確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動場所 役者…ステージ 係…各係の活動場所</li> <li>活動内容 役者…台本に沿って演技 係…台本に沿って活動</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>リハーサルを行い，劇の流れや役割を確認しよう。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>2時間の活動時間の流れを説明し本時の活動について理解をする。</li> <li>役者の生徒には本番と同じような緊張感の中で演技を行い，演技の質を高められるようにする。</li> <li>係の生徒はそれぞれの係の活動を行うようにし，劇の流れに沿った係の活動を確認する。大道具の生徒は背景画の制作を進めるように指示をする。</li> </ul>
活	2 劇の流れに沿って役者は演技をし，係の生徒は係の活動を行うようにする。	台本 D V	<ul style="list-style-type: none"> <li>役者の生徒にはセリフを言う時にはなるべく台本を見ないようにし本番の緊張感と同様の緊張感の中</li> </ul>

<p>動 の 展 開</p>	<p>役者・・・大きな声での演技 身振り手振りの表現</p> <p>係・・・劇の流れの確認 劇中の自分の仕事の確認</p> <p>・撮影・照明・・・ビデオの操作 ステージ照明の 操作</p> <p>・効果音・・・BGMの操作</p> <p>・小道具・・・小道具の準備管理</p>	<p>ビデオ プロジ ェクタ ー</p>	<p>でセリフを言えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セリフの言い方だけでなく，身振りや手振りも一緒に表現できるように指示をする。</li> <li>・係の生徒は劇の流れに沿ってどんな仕事があるのかを確認するとともに，自分の役割を責任を持って行うようにする。大道具の生徒は背景画の制作をどんどん進めるようにする。</li> </ul> <p>③ 存  自分の役割を責任を持って行うことで，自己存在感を高められるようにする。</p>
<p>活 動 の ま と め</p>	<p>3 リハーサルを振り返り，良かった点や改善点を出し合う。</p> <p>役者・・・自分たちの演技について</p> <p>係・・・劇の展開に沿った係の仕事について</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・役者と係でそれぞれ集まって本日の反省をすることで改善点を見つけ，自分たちの活動をさらに高めていこうとする意識付けをする。</li> <li>・良かった点を発表することで，友達を認め，共感的な人間関係を築けるように配慮する。</li> </ul> <p>③ 共  係や役者の良かった点に気付くことで共感的な人間関係を築けるようにする。</p> <p>④ 評  リハーサルを通して劇の流れをつかみ，改善点を見つけることができたか。</p> <p style="text-align: center;">＜話し合い・発表＞</p>

資料 「3年生を送る会だより 1」

**《君のやる気を劇の舞台上で生かそう！！》**

「劇」と「合唱」と「呼びかけ」を行う今年の3年生を送る会。

1年生として劇に取り組むのは初めてで，どんな劇になるか今からとても楽しみです，この初めての試みを「成功させるか，失敗させるか？」はみんな一人一人のやる気にかかっています。「劇に出演してみたい。」と思っている人はもちろんの事，「どうしようか迷っている人」はぜひとも**チャレンジ（挑戦）**してみよう!!劇のあらすじと役柄はおよそ下記の通りです。自分でこれだと思ったらチャレンジ!!

## 《3年生を送る会 劇 あらすじ》

中学校3年B組は何をやっても、まとまりのないクラスで長縄大会やクラスマッチなどの行事でもいつも結果はビリ。それというのもいつも不良3人グループが、クラスの輪を乱し、みんなが頑張ろうとすると邪魔をしていたからであった。

「トップ・オブ・ザ・スクール」(学校で1番)という級訓も名ばかりで、今や他のクラスから「ワースト・オブ・ザ・スクール」(学校で最低)と馬鹿にされるクラスとなっていた。担任の先生も必死に自分のクラスをまとまりのあるクラスにしようと頑張るが、不良グループには先生の気持ちは全然伝わらなかった。

9月のスポーツフェスティバルも終わり、いよいよ3年生にとっては最後のクラスマッチである、文化祭での「合唱コンクール」が迫ってきた。クラスのみならず自分達にとってはこれが最後の行事なので何とか優勝しよう、賞状をもらおうと頑張ろうとするが、あいかわらず不良3人グループはクラスの輪を乱し、放課後の練習にも参加せずにさっさと帰ってしまうのであった。そしていよいよ、文化祭当日の「合唱コンクール」を迎えた。しかし結果はビリ。練習にもろくに参加しなかった不良3人グループが足を引っ張り、最後の「合唱コンクール」も最悪の結果に終わってしまう。

その帰り道、3年B組のクラスメイトはあと4カ月後に迫った公立高校受験に向けて頑張る事を誓いあってそれぞれの家路に向かった。

そして月日は流れ、公立高校の合格発表を明日に控えた卒業式の日となった。3年B組のクラスメイトは別れを惜しむが、不良3人グループはあいかわらずの様子で教室に入ってくる。その時、クラスメイトの1人が、血相を変えて教室に入ってきた。そして驚くべき事実が……………。

(この先のストーリーは後のお楽しみにします。)

## 《主な登場人物》

- ・不良グループ(男子3人) ・女子の不良(女子2人) ・不良の子分(男子2人)
- ・学級委員 (男女3人) ・担任及び学年の先生(1学年の先生6人)
- ・クラスメイト (男子6~7人, 女子6~7人 計12~14人)
- ・エキストラ(セリフのない出演者)(10名程度) ・ナレーター(2人)

## 《「送る会」の実行委員を紹介します！！》

1組	君	さん	君	さん
2組	君	さん	君	君

第3学期の学級委員6名が1学年創作活動の実行委員です。よろしくお願いします。

資料 「当日までの練習計画」

劇, 係活動, 合唱の活動計画の詳細  
 劇・係活動の活動日・・・月, 水, 金 合唱の活動日・・・火, 木  
 活動時間・・・1:05～1:25(昼休み) 場所・・・被服室, 体育館, 音楽室, LR

	月	火	水	木	金	土日	目標
	1 / 2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	27・28	
第1週				学活 年説 集加 役者 参加 参配	会明 係申 達布	参加申込 集計	・活動内容 の説明 ・役者, 係 の募集
	2 9	3 0	3 1	2 / 1	2	3・4	
第2週	楽譜配布 (合唱)	テノール (音楽室) ソ프라ノ (ランチルーム)	役者オー ディション (6校時) 役者決定	台本完成 アルト (音楽室) テノール (ランチルーム)	台本読み 合わせ 係打ち合 わせ		・楽譜配布 ・役者決定 ・台本完成
	5	6	7	8	9	10・11	
第3週	第2場面 優等生① (被服室) 不良① (ランチルーム)	ソ프라ノ (音楽室) アルト (ランチルーム)	第2場面 クラスメイト① (被服室) 優等生② (ランチルーム)	テノール (音楽室) ソ프라ノ (ランチルーム)	第2場面 不良② (ランチルーム) クラスメイト② (被服室)	建田記念の日 VTR撮影 第2場面 帰り道①	・2場面の 重点練習 ・各場面の 理解 ・各係の準 備開始
	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	17・18	
第4週	振替休日	アルト (音楽室) テノール (ランチルーム)	第1場面 優等生③ 不良③ クラスメイト③ (被服室)	ソ프라ノ (音楽室) アルト (ランチルーム)	第4場面 優等生④ 不良④ クラスメイト④ (被服室)		・大きな発 声 ・1,4場面の 重点練習 ・係準備物 製作
	1 9	2 0	2 1	2 2	2 3	24・25	
第5週	第1場面 不良⑤ 優等生⑤ クラスメイト⑤ (被服室)	テノール ソ프라ノ (音楽室)	第4場面 不良⑥ 優等生⑥ クラスメイト⑥ (被服室)	アルト テノール (音楽室) リハーサル① 5.6校時	2,3場面 不良⑦ 優等生⑦ クラスメイト⑦ (被服室)	VTR撮影 2,3場面 カラオケ 帰り道②	・役者台詞 の暗記 ・係準備物 完成
	2 6	2 7	2 8	3 / 1	2	3・4	
第6週	第4場面 不良⑧ 優等生⑧ クラスメイト⑧ (被服室)	ソ프라ノ アルト (音楽室)	第1場面 優等生⑨ 不良⑨ クラスメイト⑨ (体育館)	テノール ソ프라ノ アルト (体育館) リハーサル② 5.6校時	第4場面 不良⑩ 優等生⑩ クラスメイト⑩ (体育館)	VTR撮影 予備日	・大道具の 出し入れ 練習 ・照明効果 音の工夫
	5	6	7	8	9	10・11	
第7週	1,4場面 不良⑪ 優等生⑪ クラスメイト⑪ (体育館)	テノール ソ프라ノ アルト (体育館)	リハーサル③ 6校時 劇, 合唱 呼びかけ (体育館)	3年生を 送る会 (本番)	事後アンケ ート及び 感想記入		・劇, 合唱 の仕上げ ・係の仕事 を完ぺきに する。



## 【研究 7】 学校行事への取組を通じた支援体制の在り方

### 1 生徒の実態

平成 18 年度に実施した「生徒指導に関する研究」アンケート調査結果（2 年生対象）

#### (1) 自己存在感

- 「学校が楽しいですか」・・・・・・・・・・・・・・・・・・76%が肯定
- 「自分の意見を発表できますか」・・・・・・・・・・56%が否定
- 「先生や友達是你の頑張りをほめてくれたり、  
認めあったりしていますか」・・・・・・・・・・54%が肯定

#### (2) 共感的な人間関係

- 「友達の意見にうなずいたり認め合ったりしていますか」・・・・76%が肯定
- 「クラスでお互いの良さを認め合っていますか」・・・・・・61%が否定
- 「周りの人はあなたの人間性を大切にしてくれていますか」・・・・57%が肯定
- 「相談できる友達がいますか」・・・・・・・・・・71%が肯定

#### (3) 自己決定

- 「興味・関心をもって自らすすんで学んでいますか」・・・・56%が否定
- 「自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか」・・・・63%が否定

### 2 高めたい自己指導能力

#### (1) 自己存在感

上記の結果から、生徒は親しい友達と過ごしたりすることは楽しいと思っているが、それ以外の人とは積極的にかかわりをもとうとしない。そして、他の人の役に立っている感じを得るような機会の少ないことが考えられる。そこで、行事における準備やグループ活動を通して他者とのかかわりを意図的に多くする。そして互いに協力し励まし合う機会を多く経験させることにより自己存在感を高めたい。

#### (2) 共感的な人間関係

体育的行事においては、身体能力が違ふ生徒がペアを組んだりすることがある。お互いの良さを認め合い励まし合うことで、技術の向上を図り目標に向かって前向きな取組ができるようにさせたい。また、文化的行事においては他者との協力性を重視して共感的な人間関係を育みたい。

#### (3) 自己決定

行事において与えられた仕事はこなすことができても、自分の特性を理解し取り組むことのできない生徒が多い。どのような仕事や役割が向いているか考える機会を増やして責任を持って取り組む姿勢を育てたい。

### 3 実践内容

#### (1) 特別活動について

重点目標に「活力ある教育活動の維持と地域に開かれた学校づくり」がある。具体的目標には、文化祭をはじめとする各種学校行事への積極的な参加を推進することを目的として掲げている。

ここ数年学校行事は、生徒が意欲的に取り組むようになり活性化が見られるようになった。部活動は活発に行われている部もあるが、全体として部員数が少なくやや活力に欠ける。

#### 特色ある学校行事

##### 宿泊学習

今年度より1学年が早期からの実践的キャリア教育の一環として1泊2日で大学と企業を見学した。

6月に、福島大学、鬼怒川ゴム工業、下野新聞社、ツインリンクもてぎを見学した。1年生から体験型学習を実施することで進路に対する意識が高まることを期待したい。

##### 全校一斉校外ボランティア

全生徒が参加して学校外を清掃する。3年生が天津港駅周辺の清掃、1・2年生は天津漁港の駐車場周辺の清掃を実施している。その他にも各クラス年2回校外清掃を実施している。美化意識の高揚を図る上で欠かせない行事となっている。

##### 百人一首大会

国語科主催で開催。クラスを4班に分け同学年の他のクラスと競う。体育館のバスケットサークル内に置いた札を取り合う対戦形式をとっている。国語科が12月から授業で取り上げて学習させている。結果に対して学年毎に表彰をしている。

##### 春季クラスマッチ

春季はクラスの親睦を図る目的で種目を設定している。綱引き、大縄飛び、一輪車ボールリレー、3人4脚リレー、クラス対抗リレーの5種目である。すべてグラウンドで実施している。対戦は学年を超えた組合せで実施している。

##### 野球応援

本校は、夏の高校野球県大会1回戦から全校応援の形をとっている。年度初めから応援委員会を立ち上げ練習を開始している。プラスバンド部と連携し、全体応援練習を経て本大会に臨んでいる。全校が一丸となって取り組む絶好の機会となっている。

主な学校行事を取り上げたが、生徒は年度初めから学校行事を通して様々な経験を

月	学 校 行 事	学年
5	春季クラスマッチ	全学年
6	宿泊学習	1学年
7	野球応援	全学年
9	全校一斉校外ボランティア	全学年
10	秋季クラスマッチ	全学年
11	文化祭	全学年
12	マラソン大会	全学年
1	百人一首大会	全学年

重ねている。そこで自己指導能力を高めるという観点から本校生の実態にあった指導・援助をすることで生徒の自己有用感を少しでも高めることができるのではないかと考えた。後期の秋季クラスマッチ，文化祭，マラソン大会において2年3組というクラスに焦点をあててクラス目標や個人の目標を持たせ行事への参加意識を高めながら指導・援助した。

(2) 秋季クラスマッチ（10月4日，5日実施）

クラスマッチの概要

秋季クラスマッチは，男子がサッカーとソフトボール，女子がバレーボールとバドミントンの種目設定となっている。

事前学習

本校ではクラスマッチの練習を，体育の授業で取り組ませている。特に1年生は種目の特性やルールを学習していないことから，5回程度の授業で指導している。

今回の取組の該当クラスである2年3組は単独クラスでの授業展開である。女子のバドミントン以外は実践的なゲーム形式での練習が不足した。

授業のポイント

ア 無駄な時間を過ごさずに積極的に取り組む。  
（自己存在感）

イ ルールを理解し，互いに協力する。  
（共感的な人間関係）

ウ 各種目のポジションやグループは話し合い  
で決める。  
（自己決定）



授業展開例（女子バレーボール・バドミントン）

	学習活動・内容	支援・留意点と評価の視点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装を整えさせる。</li> <li>・準備運動を行う。</li> <li>・各種目のルール説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育での服装で参加しているか。</li> <li>・全体一斉の準備運動（ストレッチ）</li> <li>・毎時間確認する。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールの対人練習から始め短時間で切り替えて必ずゲームで終わる展開とする。</li> <li>・バドミントンでは3人のグループ編成をする。</li> <li>・3コートを使って個人練習とゲームを必ず行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人練習では相手を替えながら練習できたか。</li> <li>・技術練習は短時間で集中できたか。</li> <li>・グループ編成がうまくできたか。</li> <li>・ゲームの審判は全員が協力して行うことができたか。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対戦成績を個人カードにまとめさせ自己評価をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の反省とグループでの反省を毎時間考えることができたか。</li> </ul>

成績

2年3組は，春のクラスマッチでは準優勝であったので，秋季クラスマッチは「優

勝」の2文字を目標に掲げた。男子がソフトボール5位、サッカー4位、女子がバレーボール4位、バドミントン4位となり結果的に総合4位であった。体育の授業での取組は生き生きと活動する場面も多く、協力しながら活動していた。しかし、クラスマッチ当日に欠席する生徒がいたりしたことで全体のモチベーションが下がってしまった。種目によっては接戦となり惜しい試合もあったが、目標とした優勝には届かなかった。その後クラスで反省等を話し合った。

#### 生徒達の反省

ア 授業での取組が甘かった。授業態度が良くなかった。(男子)

イ 授業に遅刻したりする者が毎時間いた。

ウ 当日に欠席する者がいては勝てない。

エ なぜ目標を達成できなかったのかを一人一人が振り返ることができた。

#### 教師からの働きかけ

「基本的な生活が乱れていては結果にはつながらない」ことを強く意識付けさせた。この結果をこのままにせず、次の文化祭ではみんなで協力して一つのことを成し遂げようと、新たな目的意識を持たせることにした。その後除々にではあるが、遅刻する生徒が減り、授業での落ち着きを見せることができるようになっていった。



### (3) 文化祭(11月9日、10日実施)

本校にとって最後となる今回の文化祭において、クラスの発表内容を決定し一般公開に向けて取り組んだ。

#### 事前準備

9月の最初のHRにおいて「クラス発表」を決める話し合いの場を設けた。飲食関係で話がまとまった。具体的には「ラーメン屋」で決定した。

10月のクラスマッチにおいてクラスのまとまりに欠けた反省を生かし計画を進めていった。

#### クラス目標

全員で協力しクラスの出し物「ラーメン屋」を成功させようという目標を立てた。自己指導能力を育てる手だて

ア 自己存在感・・・仕事の分担を決めグループ内で自分の意見を出して他者との意見交換ができるようにする。

イ 共感的な人間関係・・・互いに助け合い励まし合いながら準備や活動をしようとする態度を育てる。

ウ 自己決定・・・どのような仕事が自分に合っているか考え決定させて実行させる。

#### 取組

文化祭2日目の一般公開は、朝から雨交じりの天気であった。生徒は、前日も遅くまで残ってそれぞれが仕事をしていた。当日も朝早くから準備に追われていた。調理

係，テント内の販売係，外回り（PR）係と，それぞれ自分が決めた仕事に責任を持って一生懸命取り組んでいた。特に調理係では，地味な仕事に嫌な顔もせず取り組んでいた。

10時の一般公開開始から，ほぼお客さんがとぎれることがない盛況ぶりであった。注文に応じて連携が取れた仕事の結果が一般の方々の声に表れていて生徒たちは満足感を得ていた。また，当日は欠席する者もなく，一人一人が自分の役割に責任を持って取り組んでいた。

#### 生徒の感想

ア お客さんは正直で，「うまい」「まずい」  
がはっきりしていた。

イ 売り上げが予想以上でうれしかった。

ウ 完売できなかったことが残念だった。

エ みんなで協力できたことが嬉しかった。

オ 他の人の普段教室では見られない姿を見ることができた。

カ まじめにやればできることが分かった。

#### 教師からの働きかけ

全員が同じ「方向」を向けば結果はおのずとついてくるものだ，ということをお話した。今回は，「時間の使い方」や「時間を守る」ことの大切さも意識させることができた。1つの目標に向かってみんなが協力し，励まし合うことができたことに満足していることを伝えた。この気持ちを次のマラソン大会につなげ，頑張ることを約束した。



#### (4) 校内マラソン大会（12月12日実施）

マラソン大会は今回で41回を迎え，創立以来続いている伝統ある学校行事である。男女とも7kmの距離で競われる。ここ数年3年生の頑張りが目立つようになっている。また，立哨指導や豚汁の提供などPTAの方々に協力していただいた。

#### クラス目標

一人一人が持てる力を発揮して「優勝」を目指して頑張ることを目標に掲げた。

#### 授業での取組

ア 体育の授業においてマラソン大会に向けた練習を10回実施した。

イ 1時間の授業で野球場周り（約600m）  
を男子6周，女子4周走る。

ウ 各個人の目標タイムを設定し毎回タイムを計る。

エ 記録の伸びを意識させて展開した。

#### 生徒の動き

2年生は，5日前に修学旅行から帰ってき



たばかりで、授業での練習からも10日以上が経ってしまっていたので不安な面があった。大会当日は、天気にも恵まれてマラソン日和となった。欠席者や体調不良で出られない者が1人も出なかった。クラスTシャツを全員が着用し、開会式終了後も1クラスだけグラウンドに集まって意識を高め合っていた。

#### 成績

狙っていた「優勝」には後一步の所で届かず総合2位に終わった。個人では、上位に食い込む者もいたが、順位のばらつきが目立った。目標に達しなかった要因を反省した。

#### 生徒の感想

- ・もう少しの頑張りが足りなかった。
- ・力を出さずに終わってしまった。
- ・全員が一つになっていなかったのだと思う。
- ・周りに流されてしまった。

#### 教師からの働きかけ

今回に限らず、行事の始まる前と終わった後に必ず生徒と向き合って、良かったこと悪かったことを話し合ってきた。全員で協力しなければ、一つのことは成し得ないのではないかと問いかけた。今後のことを考えて、自分のことだけでなく他人のことも考えて、頑張ることも大切なのではないかと問いかけた。

## 4 結果と考察

### (1) アンケート調査結果(2年3組)

10月の秋季クラスマッチ前に実施したアンケート調査の結果と12月のマラソン大会後に実施したアンケート調査の結果は下表のとおりである。

#### 資料1

自己存在感に関する内容	事前	事後	増減
学校が楽しいですか。	81%	85%	+ 4
自分の意見を発表できますか。	48%	52%	+ 4
先生や友達あなたの頑張りを誉めてくれたり、励ましてくれたりしていますか。	59%	67%	+ 8

共感的な人間関係に関する内容	事前	事後	増減
友達の意見にうなずいたり、認め合ったりしていますか。	78%	89%	+ 11
クラスでお互いの良さを認めあっていますか。	74%	78%	+ 4
周りの人はあなたの人間性を大切にしてくれていますか。	81%	85%	+ 4
相談できる友達がいますか。	81%	85%	+ 4

自己決定に関する内容	事前	事後	増減
興味・関心をもって自らすすんで学んでいますか。	56%	67%	+ 11
自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか。	41%	52%	+ 11

はじめに平成 18 年度に取ったアンケート調査結果と今回の実践によるアンケート調査結果を比較してみた。

「自己存在感」に関する項目では、「自分の意見が発表できますか」という項目が平成 18 年度は 44% と落ち込んでいる。実践の結果においても 48% から 52% へと伸びが少なかった。生徒の実態を考えると、元気の良さの反面、人前では尻込みしてしまうという生徒が多い。また、周囲を気にしてまじめに自分の意見を発表する生徒は少ないと思う。そして、今回行事にかかわる中で、意見を発表する機会が少なかったことも起因していると思われる。



次に「共感的な人間関係」に関して、平成 18 年度のアンケート調査結果では、「クラスでお互いの良さを認めあっていますか」という項目が 39% と低い数値を示している。これは、仲の良い友達とはかかわりが深いですが、他のクラスメイトには「我関せず」的な考え方が多いことの表れではないかと思う。今回は 2 年 3 組という比較的男女間の隔たりもなく仲間意識があるクラスで、教師と生徒の関係も良好であることから事前アンケートの段階から 74% と高い数値を示していた。このことは他の項目にもあてはまることである。

「自己決定」に関して、「興味・関心をもって自らすすんで学んでいますか」、「自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか」の 2 項目共に否定的な考えが多かった。実践において他の項目と比較しても数値は低かった。共通しているところは、自分に自信が持てないことや、自らすすんで物事に取り組む経験が不足していることが否定的な考え方が多い要因として考えられる。

## (2) 考察

今回の学校行事への取組を通して実践してきた指導・援助のポイントは以下である。

生徒同士のかかわる場面を多く設定する。

自分の考えを表現する機会を増やす。

仲間と協力して活動させる。

上記 3 点をそれぞれの行事の準備段階から意識しながら取り入れてきた。その結果として 3 項目共にポイントが上昇した。理由には行事を経験するごとに生徒が「反省の大切さ」、「意欲」、「協力」、「満足感」、「達成感」などを味わうことができたからであると思われる。

自己存在感を高めるに、自分の意見を発表する機会を意図的に増やし、自信を付けさせ認められるという経験をさせたことは、成果につながったと言える。

共感的な人間関係を高めるには、普段話をしない生徒同士であっても、グループ学習や班別行動などを多く取り入れ、クラスメイトの良さを知ることができるように、教師側が意図的にきっかけを作ったことも有効であった。

自己決定を高めるための方策は、日常の積み重ねが大きくかかわる。生徒が主体的に活動できる学校行事やHR活動の有効活用を図ることは意味があった。

生徒が中心になる学校行事をいかに援助し、活躍の場を与え、充実感を得られるように働きかけていくかが、今後の課題であると思う。授業や特別活動など生徒が中心となって活躍したり発表したりする場を、どのように設定し支援すべきかを学校全体で考えることが、今回の取組を通してあらためて大切なのではないかと感じた。

どの学校においても、学校行事は大切な教育の一環としてとらえられているが、最近では、学校行事が減る傾向にある。生徒の自己指導能力を高めるために、学校支援体制をつくり上げていくことは容易ではない。教師が試行錯誤を繰り返しながら、生徒に積極的にかかわることが大切である。本校においても様々な角度から検証し、今回の取組をきっかけとして、今後学校支援体制づくりを進めていきたい。

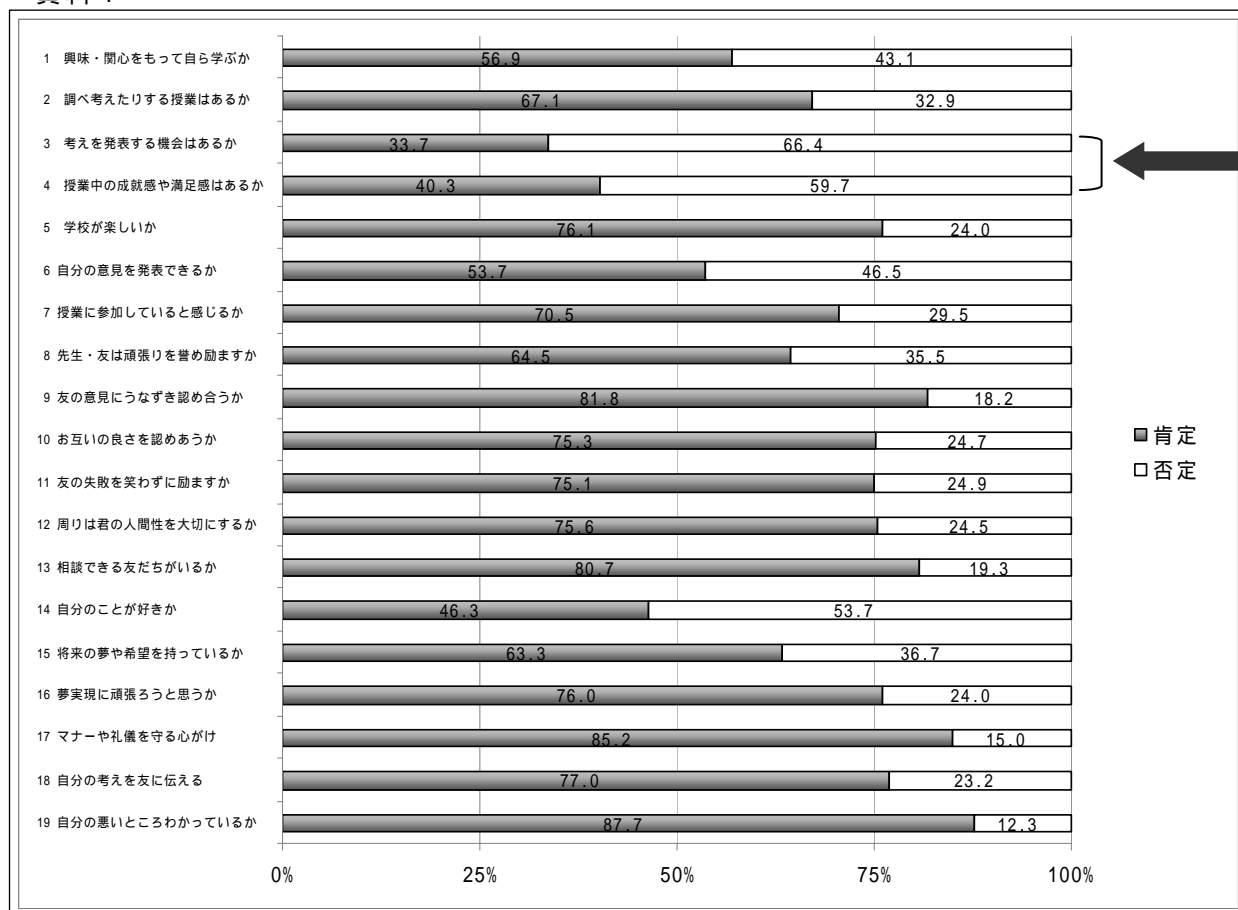


【研究 8】 商業科目「商品と流通」の授業を通して自己指導能力の育成を図る  
指導法の工夫改善

1 生徒の実態

本研究の一環として、平成 18 年度に生徒指導の生徒の実態に関するアンケート調査（「生徒指導に関する研究（高等学校）」）を実施した。その結果は、次のとおりである。

資料 1 「生徒指導の実態に関するアンケート調査」2006.11.8 高校2年生588名



この調査の項目は、自己指導能力に関する三つの機能について問うものであった。この調査結果を手掛かりに現状を把握し、そこから指導方法の工夫と改善を図るための方策について検討することにした。

質問項目の中で最も否定的な回答が多かったのは「考えを発表する機会」についてであり、否定的な回答は 66.4%であった。その次は、「授業中の成就感や満足感」についてであり、否定的な回答が 59.7%と続く。自己指導能力を育成する手だては、学校行事や課外活動など、あらゆる機会においていろいろな切り口からその向上に迫る方法が考えられる。しかし、今回の「考えを発表する機会が少ない」という調査結果を踏まえ、そこに焦点を当て、通常の授業で実践し検証を試みることにした。

2 高めたい自己指導能力

授業は学校生活の大部分を占めており、そこで継続的に効果ある指導ができれば、自

己指導能力の深化を図るためにはとても合理的である。そして、その指導方法は一時的で特別なものでなく、年間を通して継続していくことができればベストである。ただし、自己指導能力を高めるための指導の努力は重要であるが、そればかりに気持ちと労力を奪われ、本来の学習が疎かになってしまっただけでは本末転倒である。教科科目の学習という主たる目的の達成を優先すべきであるから、なるべく気負わず、平素から気軽に取り組むことのできる指導内容であることが望ましいと考えた。

そこで、「『授業中に自分の考えを発表する機会』を多くすれば、自己指導能力を向上させることができるのではないか」との仮説を立て、その仮説検証を行う形で研究を進めた。

### (1) 自己存在感

「マナーや礼儀を守る心がけ」については、良好な結果であった。しかし、マナーや礼儀は社会生活を送る上での基本である。また、本県では規範意識の向上を目指した「みんないっしょにマナーアップ推進事業」に力を入れていることから、なお一層の向上を目指したい。そのため、毎授業開始時に服装や身の回りを正させるなど、マナーの向上やその習慣化を図る。

ところで、「自分のこと」を否定的にとらえている生徒は少なくなく、53.7%も存在する。自分に自信が持てないことも、原因の一つなのではないだろうか。自己受容が不十分であるとか、成就感や満足感を得るような体験が不足しているのではないかなど、理由は様々考えられる。そこで、「授業に参加している」と感じていない生徒の存在も踏まえ、自分の意見や考えを周囲に発信し、それを受け止めてもらうことができるような日々の経験をさせてみたいと思う。そのためには内容の軽重にかかわらず、発言の機会をより多く与えることで、授業への参加意識を深めつつ、自己有用感を高めることができるのではないかと考える。

### (2) 共感的な人間関係

自分の考えや意見を発表する機会が多い場合、時として見当違いの発言をしてしまったり、誤答であったりすることも少なからず起こるのであろう。そのような経験が、間違いなく確実に増加する。時には失敗して恥をかくような体験を重ねることで、他人の立場に立った善意ある行動を取ることができる素地をつくり、資質の向上につながるのではないだろうか。そのような経験の積み重ねが、やがてお互いの良さを認め合い、励まし合うという気持ちを育てることに貢献できるのではないかと考える。

### (3) 自己決定

授業において教師からの説明が長く、生徒がどちらかといえば受け身の姿勢で授業を受けた場合には、学習内容の理解度はさておき、自分なりの考えや発想を持つ状況には至り難いのではないだろうか。そこで、授業への参加意識を高め、主体的な取組を一層進めるためにも、平易な質問でよいからできるだけ生徒に意見を求め、自分なりの考えをまとめさせる機会を多く設けたい。生徒から、多少あからさまだと思われ

るくらい意図的に発表の機会を増やし，あるいはプレゼンテーションの機会を要所で積極的に与えていくことで，自己決定に要する思考・判断の能力を向上させることができるのではないかと考える。

### 3 実践内容

#### (1) 授業の展開例（2 学年商業選択科目「商品と流通」）

記号は ,( 存 ): 自己存在感 ,( 共 ): 共感的な人間関係の育成 ,( 決 ): 自己決定を示す。

	学習活動・内容	支援・留意点	生徒の主な行動
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>襟出し等の身だしなみを整え，机上を整理する。</li> <li>前時の学習ポイントについて，代表生徒が発表する。</li> <li>確認テストを解答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動教室のため，他の生徒の教材が机上に放置されている場合には整理させ，身だしなみ(存・共)を整えさせる。</li> <li>代表生徒に，前時の要点を要約して発表(存・決)させる。また，確認テストにより，他の生徒にも(存)前時の学習内容を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>襟出しをしていた数名の生徒が服装を整え，机上を整理した。</li> <li>生徒の代表者が，前時の要点をまとめて簡単に発表した。その後，確認テストによって，他の生徒も前時の学習内容を確認した。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品の品質について教科書内容を確認する。</li> <li>身近な商品について改めてその商品の特徴や品質を吟味し，確認する。</li> <li>商品の品質について資料等を基にその重要性や意義について考え，ポイントを明確化して内容の理解を深める。</li> <li>折り込み広告につい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の記述内容を短時間で確認させる。</li> <li>普段は気にも留めない教室内で手に入る商品に焦点を当て，その特徴や品質に関する意見を自発的に発表(存・共)させ，その内容をまとめる。</li> <li>資料に用意した商品等について，その品質が自分たちの消費生活(存)にどのように影響し，将来の生活がどうなるかを想像し，考え(決)させる。</li> <li>折り込み広告を例に，</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ箱から拾ったペットボトルなどを提示したところ，その特徴や品質などについて，自発的に次々と意見が出された。</li> <li>資料に例示した携帯電話について，その電磁波などが将来にどのように影響するかを思い浮かべ，意見を出し合った。</li> <li>折り込み広告の実例</li> </ul>

	<p>て考え，作成上のポイントや広告効果について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 販売価格の構成要素について，教科書を確認する。</li> <li>・ 販売価格の構成について，その仕組みを理解し，構成要素を学ぶ。また，プリント資料等を基に薄利多売による廉価販売を検証し，理解を深める。</li> </ul>	<p>商品情報の配置や価格設定等について意見を出し合い(存・共・決)，ちらしの作成技法を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 販売価格の構成を図示し，構成要素を理解させる。また，資料商品の利幅を変化させ，複数の販売価格における値ごろ感から各販売数量を仮定(共・決)し，薄利多売の利益獲得シミュレーション(決)を行い，理解の参考にさせる。</li> </ul>	<p>を見ながら意見を出し合い，教師の説明を受ける以前に促販価格やZ効果などを生徒自らが考えついた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料のハンバーガー原価構成要素をもとに値入率を変化させ，値ごろ感から想像する販売数量より利益額を算出し，薄利多売によって相当の利益を得ることができることを体験し，感想を述べ合って理解を深めた。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価票へ記入させ，本時を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価票(存・決)を配布し，本時の学習ポイントをまとめさせる。また，学習への取り組み姿勢を振り返り，客観的に把握(存)をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なるべく簡易に記入できる自己評価票に記入することで，短時間に授業の姿勢を客観的に振り返り，また学習の要点を確認した。</li> </ul>

## (2) 実践時の留意点

特に意識すべき具体的な指導のポイントとして「生徒からどんどん発言を引き出していく」ことを計画した。そのため，理解の遅い生徒でも容易に答えられるような簡単な問い掛けもたくさん織りこみ，徹底して発問を重ねることにした。目標は，「1時間の授業中に，生徒全員が最低1回以上の発言の機会を得ること」である。

ところで，生徒の指名方法であるが，教育的には生徒の自主的態度を促すためにも自発的な挙手によることが望まれる。しかし，現実には，その方法のみだと一部の元気がよい生徒だけが発言を繰り返すことになり，逆に内気で静かな生徒は終始沈黙を守ってしまうことになる。そこで，自由に発言させる場面，挙手による場面，指名による場面などを適宜使い分け，発言する者に偏りがでないよう心掛ける。なお，指名による場合，座席順や番号順での指名は自分が指されると予想する箇所以外での緊張感に欠け，気持ち疎かになるかもしれない。そこで，重複せずリズムカルに生徒を指名することができる手段も予め準備し，授業に臨む。

なお，この科目の内容は，商業経済検定の1級を構成する試験科目の一つであり，その検定への合格も目標の一つとしている。そのため，本来の学習事項についてもその質を落とさぬよう毎時間興味・関心を高め，理解を深めるための小物や仕掛けを工夫して準備するなど，成果を高められるように努める。

#### 4 結果と考察

##### (1) 生徒の意識

###### ア アンケート結果

連続した5回の授業実践にあたり、一連の授業前と授業後にとったアンケートの集計結果は下表のとおりである。なお、評価方法は5段階評価で、数値の意味は次のとおりである。

＜ 評価「5」: 大変肯定的な回答      評価「1」: 大変否定的な回答 ＞

###### 資料2

問	内 容	第1回目 (4/26) 平均	第5回 目 (5/17) 平均	比較増 減
1	興味・関心をもって自らすすんで学んでいますか。	3.1	3.8	+ 0.7
2	調べたり考えたりする機会はありますか。	2.7	3.0	+ 0.3
3	<u>自分の考えをみんなの前で発表する機会がありますか。</u>	2.3	3.2	<u>+ 0.9</u>
4	授業中に成就感・満足感がありますか。	2.8	3.5	+ 0.7
5	自分の意見を発表できますか。	2.8	3.3	+ 0.5
6	授業に参加していると感じていますか。	3.3	3.8	+ 0.5
7	先生や友だちは、あなたの頑張りを誉めてくれたり、励ましてくれたりしていますか。	2.7	3.4	+ 0.7
8	友だちの意見にうなずいたり、認め合ったりしていますか。	3.6	3.6	0.0
9	自分の考えをはっきりと友だちに伝えることができますか。	3.3	3.5	+ 0.2
10	自分の夢を実現するために頑張ろうと思えますか。	3.8	3.8	0.0
	全 体	3.0	3.5	+ 0.5

###### イ 生徒の感想

生徒が記した感想では、「発問回数を多くした授業の方がよかった」とする生徒がほとんどであった。逆に、発問等が普通の一般的な授業が良いとする意見も、わずかにあった。

###### 【賛成意見の例】

みんながいろいろ発言し、身近な意見を聞いて分かりやすかったし、自分から考えることができた。

###### 【反対意見の例】

自分的に教科書を見てノートにまとめた方が覚えるし、勉強しやすいので、指されるよりは説明して欲しい。

## (2) 考察

今回の授業実践では、意図的に生徒の発言の機会を多くした。そのため、問3（「発表の機会」）に対する回答は、当然 2.3 ポイントから 3.2 ポイントに 0.9 ポイント増加した。当初の値が低かった理由については、今回の対象生徒が商業科および情報処理科に所属する生徒であり、彼らが学習する専門科目のほとんどは資格検定に直結している。そのため、学習の形態が授業の前半では処理の技法などについての説明、後半ではその問題演習を中心に行うなどの傾向が強いためではないかと想像する。

今回、指導のポイントに据えた「発表の機会」を増加させたことにより、調査した全 10 項目のうち、なんと他の 7 項目においても肯定感が高まった。中でも、問1（「自らすすんで学ぶ」）や問4（「成就感・満足感」）、問7（「頑張りの励まし」）においては、肯定感が 0.7 ポイント増と大きく増加した。発言などを通して授業にどんどん参加させ、主体的な態度で学習に取り組ませるための仕掛けが大切なのだと痛感する。

これまで高校にて指導をしてきた経験では、授業中に自ら手を挙げて発言する生徒は少数である。自発的な発言を期待した場合には、大概是元気の良い一部の生徒が発言を繰り返すばかりで、内気な生徒が発言することはまずない。そこで、今回は発言する者に偏りが生じた際に備え、発言クジという仕掛けも用意しておいた。これは、元気の良い一部の生徒にばかり発言が続き、その他の生徒に意見を求めても発言がない場合に利用することを想定した指名用のクジである。このクジは、およそ 20 年前にテンポよく指名を繰り返そうと考えて授業に用いていた方法である。自主性や積極性を育てるという面からは好ましいものでないかもしれない。しかし、この発言クジを用いることで問答が実にスムーズに流れる。何より、生徒が指名を受ける機会は極めて平等であり、しかも問い掛けがポンポンと飛んでくるので躊躇している間もなく、まるで会話をしているかのように応答しているイメージなのである。ところで、問7の「先生や友だちは、あなたの頑張りを誉めてくれたり、励ましてくれたりしていますか。」では、0.7 ポイント増加している。それにもかかわらず、問8の「友だちの意見にうなずいたり、認

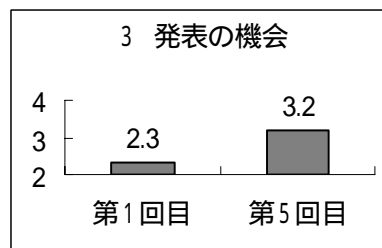


図 1

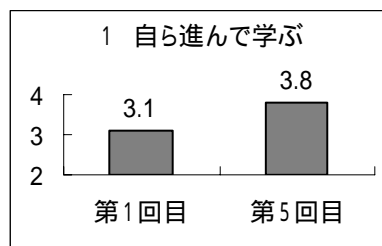


図 2

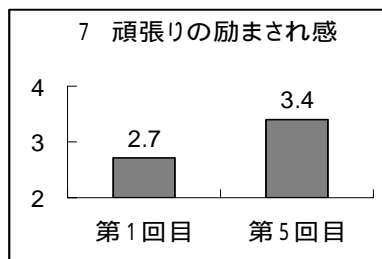


図 3

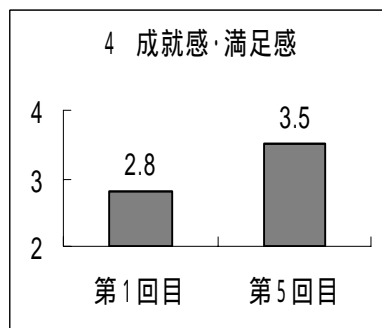


図 4

め合ったりしていますか。」については、変化がなかった。「友だちの意見を認めること」には変化がないのに、「人から誉め励まされている」という思いが強まったのは、一体どういうことだろうか。不思議なことである。おそらく、誉め励ましてくれた人が問いに示されていた「先生と友だち」だったのではなく、「先生」だけであったということではないかと解釈すれば納得がいく。なぜなら、少なくとも今回の連続した検証授業において、生徒たちにとって他の生徒を授業中に励ますことができるような機会を設けていなかったからである。それは、授業の進度を維持しつつ発問の機会を増やしてみることが今回の研究での最大のテーマであったゆえ、いたしかたない。なお、この改善には、周囲との交流を図ることができるグループ学習などを適宜織り交ぜ、討議や共同研究の機会を与えていくことなどが考えられる。

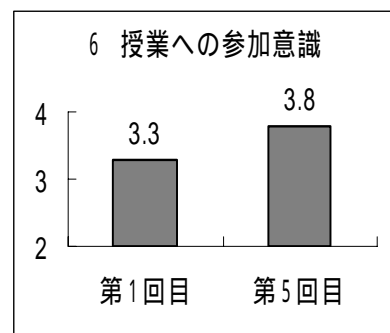


図 5

問 10 の「自分の考えをはっきりと友だちに伝えることができますか。」は、0.2 ポイント増に留まっている。問 7 とあわせ、グループ学習の結果などをプレゼンテーションさせる機会を増やすなども効果的であるのではないかと思われる。

### (3) まとめ

#### 授業実践を終えて

授業の前後に得たアンケート結果の推移からは、発言の機会を増加させたことで学習内容への興味・関心が深まり、授業への参加意識も高まったと判断できる。また、教師が生徒の発言をよく受け止め、その内容を他の生徒に向けて評価するなどしたことにより、自分が認められたという印象を持ち、自己存在感を高めることに影響したのではないかと思う。正直なところ、これほど多くの項目でポイントが好転するとは思っていなかった。

我が国の多くの動物園では、形態展示という展示方法を採用している。しかし、北海道のある動物園では行動展示を積極的に導入し、大成功を収めている。対象となる動物は同じでも、観察の視点を変えたことによって動物個々の生態がよりよく理解でき、人気急騰したのだと聞く。授業でも、同じことが言えるのではないだろうか。同じことを学ぶのでも、指導方法に若干の工夫を加えることで、成果に大きな違いを生じさせる可能性があると感じた。

#### 今後の課題

アンケート項目の「友だちの意見にうなずいたり、認め合ったりすること」と「自分の夢を実現するために頑張ること」については、意識に変化が見られなかった。前者についてはグループ学習などを取り入れることなどで、後者については自己実現や感動の経験などをもとに、日頃からの意識付けを丁寧に行うなどの手当てが必要であると思われる。

自己指導能力の育成を図るには、多種多様なアプローチ方法があろう。自己指導

能力の根底にあるものは、自身の個性や特性をよく理解し、自ら考え判断し、公序良俗に即した進歩的行動がとれる力であると、私は考える。そのような能力を培うためには、学習以外にも様々な実体験や疑似体験の経験、あるいは思索を深めるなど、いろいろな要素が複合的に絡み合い醸成されていくものだと思う。通常の授業では指導内容や授業時数などの制約があり、限られた環境下で指導をしていかねばならない。よって、授業だけで成就・感動・失敗・交友・連携等の諸体験の機会が豊富な行事等の特別活動に匹敵するほどの成果をあげるのに分が悪いことは、否定できない。しかし、学校生活のそこかしこで働き掛けを行うべきだと思う。したがって、これをやれば然るべき結果が得られるというような一点突破の決定打を求めるのではなく、少しずつ視点を変え、微々たることであっても日々の指導を積み重ねていきたい。また、授業の制約条件内で効果の広がりを得るために、課外活動など授業以外の諸活動との関連も模索し、実現可能な方策についても考えてみたい。

今回の授業実践では一定の成果を認めることができたが、他の教科・科目とは学習内容や科目特性等に少なからぬ差異がある。しかし、今回の「発言の機会を意図的に増やした」ことで複数項目での結果が向上した事実や、同じことを指導するにも目先を少し変えることで結果に差の生じた授業実践の趣旨について理解を深め、組織的一般化を進めることで学校支援体制の充実を図っていきたい。

### 補助資料 1

## 自己評価票

例

2年	組	番	氏名
----	---	---	----

授業の日時	平成 19 年 5 月 8 日 ( 火 ) 第 4 時限目		
科目名	商品と流通	実施場所	2 - 5 教室

学習内容	
自己評価	学習内容について、事前に予習を行ったか。 【 Yes No 】
	授業内容について、進んで理解できるように努めたか。 【 Yes No 】
	積極的に、授業に参加できたか。 【 Yes No 】
	友達の発言によく耳を傾け、その理解に努めたか。 【 Yes No 】
	授業への取り組み姿勢は、満足できるものであったか。 【 Yes No 】

どちらかを で囲む



## 確認シート

例

生徒 ID

問 循環型社会のあるべき姿について、つぎの文を完成させて三つのポイントを答えなさい。

ゴミを

出たゴミは

再利用できないゴミは



発言クジ(割り箸利用の指名用クジ)



ゴミ箱内の様子(ゴミ箱の中は宝の山)

**アロヨ工業製の脱脂粉砕機**  
 脱脂粉砕機は、脱脂粉砕機が1機、一般化促進のため、全国に出荷されるものまでを回収し、回収したものは、再利用を促進し、環境負荷低減を図る。早急な回収・点検を指示した。  
<http://www.alliedecor.com/notice/detail/20230328/>  
<http://www.alliedecor.com/notice/detail/20230328/>

**脱脂粉砕機のアロヨ工業**  
 アロヨ工業製の脱脂粉砕機が、石油アロマトラフアロヨ工業の当該社外製品を、当該社外製品に代用すると、一般化促進

**脱脂粉砕機の回収**  
 脱脂粉砕機の健康影響の心配(※)に、2023年10月1日より、回収を開始している。回収料金は、1台(※)100円(※)。

**危険が潜む食品**

豚肉	狭いコンタリーと密着での処理で衛生管理がとくさんかえられている
中国産ウチゴ	水質や食事に汚染されている
ホウレンソウ・コマツ菜	化学肥料の過剰な使用で胃がんなどの原因となる硝酸性窒素が大量残留(化学肥料の過剰使用は葉が濃い緑になるが、右図肥料で育てたものは明るい緑)
イチゴ	輸入物は2ヶ月たっても腐らないほどの殺菌剤が使用
カップ麺	容器から発がん性の固形脂肪が溶け出している
シトロンカレー	酸っぱい味もたれの原因は家庭で使わない酸味、牛乳
マーガリン	加工の過程でできる脂肪酸が動脈硬化の危険を増やす
清涼飲料	過剰な糖分でペットボトル症候群(糖尿病)、ステイックシュガー摂取で、ファンダジュース：1.5本(40kcal)、ポカリソフト：7本(28kcal)
サプリメント・加工	ビタミンCの過剰摂取が尿管・腎臓結石の原因になる

「食べ過ぎ、危険！」(日本子孫委員会)、「食生活の改善！」(食生活改善委員会)などより  
<http://joy.poulsen.net/karagaka/health/kikec/shokubin.htm>

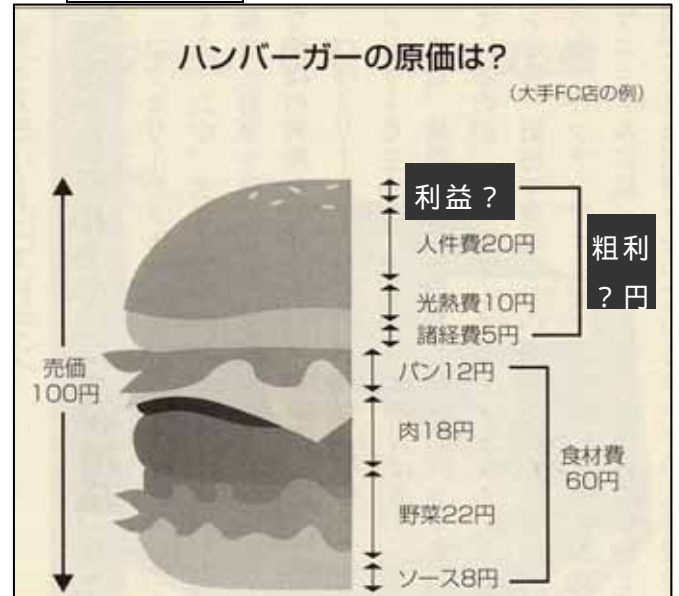
消費生活を考える資料の例

補助資料 6



チラシ広告の例

補助資料 7



原価要素の構成例(三笠書房「図解『儲け』のカラクリ」)

## 7 研究のまとめ

この研究は、日常の授業に生徒指導の機能を生かし、自己指導能力を高めるために、どのような手だてを講じていけばよいか、そして、その手だての積み重ねを学校支援体制の中にどのように位置付けていけばよいかということの究明をねらったものである。

2年間の研究期間のうち初年度は、理論研究及び県内の児童生徒の自己指導能力に関する意識・実態調査を実施した。自己指導能力の育成を促す生徒指導の3機能「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」が学級や授業の中でどのように機能し、児童生徒がそれをどの程度実感しているかを問う項目に加え、自分自身をどのように見ているかという内容も質問項目に加えた。これは、ともすれば自己評価が低くなりがちな思春期とその前後の時期にいる児童生徒の発達の傾向に同時に触れたかったためである。

意識・実態調査の結果は、先に示したが、その結果を受けて、育てていきたい自己指導能力の具体的な姿を検討した。その際、キャリア教育の考え方を参考とし、各校種における発達課題を踏まえ、育成すべき能力を検討した。2年次には、それらをもとに研究協力員が所属校で授業を実践し、結果について考察を行った。

研究の成果として次の点が挙げられる。

- (1) 児童生徒の自己指導能力についての意識・実態調査を県内の児童生徒1659人を対象に実施した。

その結果から、すべての校種に共通して「友達の前で話すことへの苦手意識」、「自己肯定感を高める体験や自分を好きになる体験の不足」といった実態が明らかになった。

- (2) 自己指導能力を高めるための積極的な生徒指導の在り方に関する基本的な考え方を検討した。

意識・実態調査の結果から育てたい自己指導能力の姿を検討し、その育成を促すために生徒指導の3機能の在り方を考察した。生徒指導の3機能を授業や行事の中に生かしていくことで、「人の役に立っている」や「自分を好きになる」という感覚を味わい、そのことから自分への自信を高め、集団の中で他者と共感的なかわりをもつことができるようになっていくというように、自己指導能力育成上の関連を明らかにした。

- (3) 日常の授業や行事に生徒指導の機能を生かすための方法を検討した。

生徒指導の機能を生かした授業や行事を計画するにあたり、教科や領域の目標達成を目指すことと同時に、「自己存在感」を与え、「共感的な人間関係」を育成し、「自己決定」の場を与える機会を意図的に位置付けることを検討した。三つの機能を意識した活動の指導案への示し方、班編成の仕方、教科や領域の目標とのバランスの取り方といった実際的な問題について検討を重ね、授業実践を行うことができた。

- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察を行った。

自己指導能力の育成を図るためには、特別多くの準備が必要な授業をするのではなく、生徒指導の3機能を生かした授業の工夫によって、大きな成果に結びつくことが

あることを確認した。そして、生徒指導の3機能を生かした取組をすることで、児童生徒の変容に対する教師の意識がより高まった。

## 8 今後の課題

(1) 自己指導能力を高めていくために、生徒指導の機能を生かした取組を継続していく必要がある。

(2) 自己指導能力を高めるための取組を学校の中でどのように位置付けるか、組織の力をどのように生かしていくかという視点からの実践にはまだ至っていない研究事例も見られた。学校行事等については、教職員の役割分担や教職員の連携もしやすいが、教科指導においては、校内体制を組んで共通理解のもとで取り組むことに対しての困難さを感じられた。教員の研修も含め学校支援体制の見直しについて課題が残った。

## 生徒指導に関する研究関係者一覧

### 1 研究協力員

水戸市立吉田小学校	教諭	谷津 彰子
稲敷市立浮島小学校	教諭	辻井 浩一
下妻市立騰波ノ江小学校	教諭	今井 達也
常総市立水海道中学校	教諭	酒寄 享一
大子町立生瀬中学校	教諭	石井 好一
鉾田市立鉾田北中学校	教諭	給前 竜二
茨城県立北茨城高等学校	教諭	櫻井 規晶
茨城県立土浦第三高等学校	教諭	海老沼 正

### 2 茨城県教育研修センター

所長	大川 秀一
教育相談課長	加倉井 正
指導主事	大和田 綾子
指導主事	大川 洋子
指導主事	井坂 雄爾
指導主事	萩谷 孝男
指導主事	白土 毅
指導主事	田沼 政志（平成18年度）
指導主事	田村 和浩（平成18年度）

### 3 助言者

東京農業大学教授	渡部 邦雄
----------	-------

研究報告書第64号

生徒指導に関する研究

児童生徒が自己指導能力を高める  
学校支援体制の在り方

平成18・19年度

平成20年3月発行

編集 茨城県教育研修センター教育相談課

発行 茨城県教育研修センター

〒309-1722

茨城県笠間市平町1410

TEL 0296(78)3219 (教育相談課直通)

FAX 0296(78)2122

URL <http://www.center.ibk.ed.jp>